

泊発電所3号炉審査資料	
資料番号	SAT107-9 r. 4.0
提出年月日	令和4年8月31日

## 泊発電所3号炉

「実用発電用原子炉に係る発電用原子炉設置者の  
重大事故の発生及び拡大の防止に必要な措置を  
実施するために必要な技術的能力に係る審査基準」  
に係る適合状況説明資料  
比較表

### 1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

令和4年8月  
北海道電力株式会社

 枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<b>比較結果等を取りまとめた資料</b>			
<b>1. 先行審査実績等を踏まえた泊3号炉まとめ資料の変更状況(2017年3月以降)</b>			
1-1) 設計方針・運用・体制などを変更し、まとめ資料を修正した箇所と理由			
a. 大飯3/4号炉まとめ資料と比較した結果、変更したもの : なし b. 他社審査会合の指摘事項等を確認した結果、変更したもの : なし c. 当社が自主的に変更したもの : 下記2件 ・多様性拡張設備の淡水源である「代替屋外給水タンク」の撤去及び「代替給水ピット」の設置に伴う変更。【例：比較表 p 1.7-5】 ・屋外の多様性拡張設備であるろ過水タンク及び2次系純水タンク耐震化に伴い、関連する図面等を修正した。【例：添付資料 1.7.3】			
1-2) 設計方針・運用・体制を変更するものではないが、まとめ資料の記載を充実を行った箇所と理由			
a. 大飯3/4号炉まとめ資料と比較した結果、変更したもの : なし b. 女川2号炉まとめ資料と比較した結果、変更したもの : 下記3件 ・泊3号炉の「添付資料 1.7.2 重大事故等対処設備及び多様性拡張設備整理表」について、審査基準の各要求事項に対応する手段と設備を明確にするため、表の構成の見直しを行うとともに、資料タイトルを「審査基準、基準規則と対処設備との対応表」へ変更し記載の適正化を行った。 ・「添付資料 1.7.10 解釈一覧」を新規作成し、各対応手段の「手順着手の判断基準」及び「操作手順」に対する具体的な目標値や設定値等の定量的な解説を整理するとともに、「操作手順」の系統構成等に対する具体的な操作対象機器を整理した。 ・各対応手段の概略系統図について、「添付資料 1.7.10 解釈一覧」にて各対応手段における系統構成等の操作対象機器を整理した結果を踏まえて、他の設備への悪影響防止の観点で操作する弁や通常の運転状態から状態変更を行う弁等の記載を充実化した。 c. 他社審査会合の指摘事項等を確認した結果、変更したもの : なし d. 当社が自主的に変更したもの : なし			
1-3) バックフィット関連事項			
なし。 なお、KK6/7 知見反映については、設置許可基準規則第五十条第1項の改正については、同規則解釈第50条第1項 aにおいて格納容器代替循環冷却系又は格納容器再循環ユニットの設置を求めるものであり、格納容器再循環ユニットの設置要求は改正前から変更はなく、泊3号炉は当該設備を設置する設計としている。また、第五十条第2項については、BWR及びアイスコンデンサ型格納容器を有するPWRに対する要求であり、泊3号炉はアイスコンデンサ型格納容器ではない。			
1-4) その他			
大飯3/4号炉まとめ資料に合わせて記載ぶりを修正し、結果として差異がなくなった箇所があるが、本比較表には、その該当箇所の識別はしていない。			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

	大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<b>2. 大飯3/4号炉まとめ資料との比較結果の概要</b>				
<b>2-1) 設備の相違</b> （以下については、差異理由欄に No.を記載する）				
No.	大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	差異理由	
①	【可搬型設備による代替格納容器スプレイで使用する <b>重大事故等対処設備</b> 】  ・可搬式代替低圧注水ポンプ ・電源車（可搬式代替低圧注水ポンプ用） ・仮設組立式水槽 ・送水車 ・燃料油貯蔵タンク ・タンクローリー	【可搬型設備による代替格納容器スプレイで使用する <b>多様性拡張設備</b> 】  ・可搬型大型送水ポンプ車 ・代替給水ピット ・原水槽 ・2次系純水タンク ・ろ過水タンク	【設計方針の相違（重大事故等対処設備及び多様性拡張設備）】（例：比較表 p 1.7-5） ・大飯3/4号炉は、有効性評価「格納容器過圧破損」及び「格納容器過温破損」において、格納容器へスプレイする恒設代替低圧注水ポンプの水源である燃料取替用水ピットが枯渇する前に恒設代替低圧注水ポンプによる格納容器へのスプレイから可搬式代替低圧注水ポンプによる格納容器スプレイに手段を切替える手順としていることから、可搬式代替低圧注水ポンプを重大事故等対処設備として整理している。 ・大飯3/4号炉は、可搬式代替低圧注水ポンプの水源として仮設組立式水槽を使用し、送水車により海水を水槽に補給する。 ・大飯3/4号炉は、可搬式代替低圧注水ポンプ専用の電源車が必要であるが、泊3号炉の可搬型大型送水ポンプ車は、駆動源がエンジンであるため、専用の電源車は必要ない。 ・泊3号炉は、格納容器へスプレイする代替格納容器スプレイポンプの水源である燃料取替用水ピットが枯渇する前に燃料取替用水ピットに海水を補給し、格納容器スプレイを継続することで格納容器破損防止する手順としており、格納容器スプレイに使用する可搬設備である可搬型大型送水ポンプ車は多様性拡張設備としている。 ・泊3号炉は、可搬型大型送水ポンプ車により水源から直接格納容器へスプレイする。可搬型大型送水ポンプ車は淡水又は海水から直接格納容器へスプレイできることから、すべての水源を記載している。原水槽への補給は、2次系純水タンク又はろ過水タンクから移送することにより行なう。 ・大飯3/4号炉とは基準要求に対する設計方針が相違するが、常設重大事故等対処設備の水源に水を補給することによって代替格納容器スプレイを継続する手段を有効性評価における格納容器破損防止対策とし、代替格納容器スプレイに使用する可搬型設備を多様性拡張設備と位置付けている点で、川内1/2号炉、玄海3/4号炉及び伊方3号炉と相違なし。	
②	【格納容器内自然対流冷却にて原子炉補機冷却系の加圧に使用する設備（交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時）】  ・窒素ボンベ（原子炉補機冷却水サージタンク加圧用） ・液化窒素供給設備	【格納容器内自然対流冷却にて原子炉補機冷却系の加圧に使用する設備（交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時）】  ・原子炉補機冷却水サージタンク加圧用可搬型窒素ガスボンベ	【設計方針の相違（多様性拡張設備）】（例：比較表 p 1.7-4～6） ・大飯3/4号炉は、格納容器内自然対流冷却による原子炉補機冷却水系の沸騰を防止するため、原子炉補機冷却系を加圧する設備として窒素ガスボンベに加え液化窒素供給設備を多様性拡張設備として整備している。 ・泊3号炉は、重大事故等対処設備である窒素ガスボンベにより原子炉補機冷却系を加圧する手順であり、設計方針は伊方3号炉、玄海3/4号炉と相違なし。	
※ 相違点を強調する箇所を下線部にて示す。				

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大阪発電所3/4号炉		泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<b>2-1) 設備の相違</b> （以下については、差異理由欄に No.を記載する）				
No.	大阪発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	差異理由	
③	<b>【恒設代替低圧注水ポンプへの給電に使用する設備 （交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時）】</b>  ・空冷式非常用発電装置	—  （大阪3/4号炉との比較対象なし）	<b>【設計方針の相違（重大事故等対処設備）】</b> （例：比較表 p 1.7-4, 5） ・大阪3/4号炉は、恒設代替低圧注水ポンプを起動する場合に空冷式非常用発電装置から給電する系統構成となっている。 ・泊3号炉は、ディーゼル発電機が健全であれば、非常用母線からも代替格納容器スプレイポンプへ給電可能であり、川内1/2号炉と玄海3/4号炉と相違なし。なお、サポート系機能喪失時に代替格納容器スプレイポンプを起動する場合は、大阪3/4号炉と同様に代替非常用発電機により給電する。	
④	<b>【空冷式非常用発電装置等へ補給する燃料を備蓄する設備】</b>  ・燃料油貯蔵タンク ・ <u>重油タンク</u>	<b>【代替非常用発電機等へ補給する燃料を備蓄する設備】</b>  ・ディーゼル発電機燃料油貯油槽	<b>【設計方針の相違（重大事故等対処設備）】</b> （例：比較表 p 1.7-6, 7） ・大阪3/4号炉は、燃料補給に用いる設備として燃料油貯蔵タンクに加えて重油タンクを備蓄しており、これらを併せて有効性評価における7日間の重大事故等対応が可能な備蓄量を確保している。 ・泊3号炉は、ディーゼル発電機燃料油貯油槽に7日間の重大事故等対応が可能な備蓄量を確保している。	
⑤	<b>【送水車への燃料補給に使用する設備】</b>  ・軽油ドラム缶	<b>【可搬型大型送水ポンプ車への燃料補給に使用する設備】</b>  ・ディーゼル発電機燃料油貯油槽 ・可搬型タンクローリー	<b>【設計方針の相違（重大事故等対処設備）】</b> （例：比較表 p 1.7-7） ・大阪3/4号炉の送水車の燃料は軽油であり、重油を使用する空冷式非常用発電装置等と燃料の種類が異なることから、軽油ドラム缶にて燃料を補給する。 ・泊3号炉の代替非常用発電機等と可搬型大型送水ポンプ車の燃料は同じ軽油を使用するため、いずれの燃料補給の手順についてもディーゼル発電機燃料油貯油槽の燃料を可搬型タンクローリーにて汲み上げた後、可搬型タンクローリーの給油ガンにより行う。	
⑥	—  （泊3号炉との比較対象なし）	<b>【ディーゼル発電機燃料油貯油槽から可搬型タンクローリーへの燃料汲み上げに使用する設備】</b>  ・ディーゼル発電機燃料油移送ポンプ	<b>【設計方針の相違（重大事故等対処設備）】</b> （例：比較表 p 1.7-6, 7） ・泊3号炉は、ディーゼル発電機燃料油貯油槽からタンクローリーへ燃料を汲み上げる手段として、タンクローリー付きの給油ポンプにより汲み上げる手段と燃料油移送ポンプを使用して汲み上げる手段の2つの手段を整備することにより、代替非常用発電機等へ燃料補給するための複数のルートを確認している（詳細は、技術的能力1.14まとめ資料「添付1.14.18」参照）。	
⑦	<b>【格納容器スプレイ作動設定値及び格納容器最高使用圧力】</b>  ・格納容器スプレイ作動設定値：196kPa [gage] ・格納容器最高使用圧力：392kPa [gage]	<b>【格納容器スプレイ作動設定値及び格納容器最高使用圧力】</b>  ・格納容器スプレイ作動設定値：0.127MPa [gage] ・格納容器最高使用圧力：0.283MPa [gage]	<b>【設計方針の相違】</b> （例：比較表 p 1.7-9, 12） ・格納容器の型式の相違による格納容器最高使用圧力及び格納容器スプレイ作動設定値の相違。 ・泊3号炉の格納容器の型式は鋼製型であり、高浜3/4号炉と相違なし。大阪3/4号炉の格納容器の型式はPCCV型。	

※ 相違点を強調する箇所を下線部にて示す。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大飯発電所3/4号炉		泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<b>2-1) 設備の相違</b> （以下については、差異理由欄に No.を記載する）				
No.	大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	差異理由	
⑧	<p>【恒設代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ時の監視項目「原子炉格納容器内の注水量」を監視する計器】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・A格納容器スプレイ流量</li> <li>・A格納容器スプレイ積算流量計</li> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量</li> </ul>	<p>【代替格納容器スプレイポンプによる代替格納容器スプレイ時の監視項目「原子炉格納容器内の注水量」を監視する計器】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量</li> </ul>	<p>【設計方針の相違】（例：比較表 p 1.7-13）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊3号炉は、代替格納容器スプレイポンプによる代替格納容器スプレイ時のスプレイ流量は、「代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量」により監視する。監視計器は異なるが、重大事故等対処設備の監視計器により格納容器への注水量を監視する手順に相違なし。</li> <li>・なお、多様性拡張設備の対応手段である消火ポンプ及び可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ時のスプレイ流量については、消火ポンプ使用時は「AM用消火水積算流量」、可搬型大型送水ポンプ車使用時は「代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量」により監視する。</li> </ul>	
⑨	<p>【可搬型設備による代替格納容器スプレイ手順着手の判断基準】</p> <p>「<u>恒設代替低圧注水ポンプによる格納容器へのスプレイが必要となった場合。</u>」</p>	<p>【可搬型設備による代替格納容器スプレイ手順着手の判断基準】</p> <p>「<u>格納容器圧力が最高使用圧力(0.283MPa[gage])以上かつ、代替格納容器スプレイポンプの故障等により、格納容器へのスプレイを代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量等にて確認できない場合、及び格納容器内自然対流冷却により格納容器内が冷却状態であることを格納容器圧力等で確認できない場合。</u>」</p>	<p>【設計方針の相違】（例：比較表 p 1.7-13）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯3/4号炉は有効性評価において、燃料取替用水ピット枯渇前に恒設代替低圧注水ポンプから可搬式代替低圧注水ポンプに切替える手順であることから、恒設代替低圧注水ポンプによるスプレイが必要と判断した場合に、可搬式も同時に準備を開始する。</li> <li>・泊3号炉の有効性評価では、燃料取替用水ピット枯渇前に海水を補給し代替格納容器スプレイポンプで格納容器スプレイを継続する手順であることから、可搬型大型送水ポンプ車による格納容器へのスプレイ手段は代替格納容器スプレイポンプ故障時のバックアップとして位置付けており、多様性拡張設備として整理している。設計方針は、川内1/2号炉、玄海3/4号炉及び伊方3号炉と相違なし。</li> </ul>	
※ 相違点を強調する箇所を下線部にて示す。				
<b>2-2) 運用の相違</b> （以下については、差異理由欄に No.を記載する）				
No.	大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	差異理由	
①	<p>【ディーゼル消火ポンプ及びA格納容器スプレイポンプ（自己冷却）による代替格納容器スプレイの優先順位】</p> <p>恒設代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイができない場合に</p> <p>①ディーゼル消火ポンプによる代替格納容器スプレイを実施し、ディーゼル消火ポンプによる代替格納容器スプレイができない場合に</p> <p>②A格納容器スプレイポンプ（自己冷却）による代替格納容器スプレイを実施する。</p>	<p>【ディーゼル駆動消火ポンプ及びB-格納容器スプレイポンプ（自己冷却）による代替格納容器スプレイの優先順位】</p> <p>代替格納容器スプレイポンプによる代替格納容器スプレイができない場合に</p> <p>①B-格納容器スプレイポンプ（自己冷却）による代替格納容器スプレイを実施し、B-格納容器スプレイポンプ（自己冷却）による代替格納容器スプレイができない場合に</p> <p>②ディーゼル駆動消火ポンプによる代替格納容器スプレイを実施する。</p>	<p>【設計方針の相違（多様性拡張設備）】（例：比較表 p 1.7-26）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯3/4号炉は、格納容器スプレイポンプ（自己冷却）よりもディーゼル消火ポンプによる格納容器スプレイの方が作業に要する時間が短いため、恒設代替低圧注水ポンプが使用できない場合は、ディーゼル消火ポンプによる代替格納容器スプレイの手順に着手し、ディーゼル消火ポンプが使用できない場合は、A格納容器スプレイポンプ（自己冷却）による代替格納容器スプレイの手順に着手する。</li> <li>・泊3号炉のB-格納容器スプレイポンプ（自己冷却）の系統構成はフレキシブル配管を用いて行うことから準備に要する時間が短く、ディーゼル駆動消火ポンプと同等の作業時間であることから、大流量でかつ、ほう酸水をスプレイ可能なB-格納容器スプレイポンプ（自己冷却）を優先して使用する。格納容器スプレイポンプ（自己冷却）を優先して使用する点では、玄海3/4号炉及び伊方3号炉と相違なし。</li> </ul>	
※ 相違点を強調する箇所を下線部にて示す。				

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大飯発電所3/4号炉		泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
2-3) 記載方針の相違（以下については、差異理由欄にNo.を記載する）				
No.	大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	差異理由	
①	<p>【「1.7.1 (2) c. 手順等」の記載】</p> <p>これらの手順は、発電所対策本部長<sup>*2</sup>、当直課長、<u>運転員等<sup>*3</sup></u>及び緊急安全対策要員<sup>*4</sup>の対応として、格納容器スプレィポンプを用いた格納容器スプレィの手順等に定める（第1.7.1表、第1.7.2表）。</p> <p>※2 <u>発電所対策本部長：重大事故等発生時における発電所原子力防災管理者及び代行者をいう。</u></p> <p>※3 <u>運転員等：運転員及び重大事故等対策要員のうち当直課長の指示に基づき運転対応を実施する要員をいう。</u></p> <p>※4 <u>緊急安全対策要員：重大事故等対策要員のうち発電所対策本部長の指示に基づき対応する運転員等以外の要員をいう。</u></p>	<p>【「1.7.1 (2) c. 手順等」の記載】</p> <p>これらの手順は、発電課長（当直）、<u>運転員及び災害対策要員の対応として</u>、炉心の著しい損傷が発生した場合の対応手順等に定める（第1.7.1表、第1.7.2表）。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大飯3/4号炉は、技術的能力1.0にて整理する要員の名称以外に「運転員等」という名称を使用していることから、要員名称の定義を記載している。（例：比較表p1.7-8）</li> <li>泊3号炉は、技術的能力1.0にて整理する要員の名称を記載している場合、改めて要員名称の定義は記載しないこととしている。</li> </ul>	
②	<p>【代替格納容器スプレィの手順着手の判断基準のうち、第2優先以降の手順】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>恒設代替低圧注水ポンプの故障等により格納容器へのスプレィがA格納容器スプレィ流量等にて確認できない場合に、格納容器へスプレィするために必要なNo. 2淡水タンクの水位が確保されており、重大事故等対処に悪影響を与える火災が発生しておらず、消火用として消火ポンプの必要がない場合。</li> </ul>	<p>【代替格納容器スプレィの手順着手の判断基準のうち、第2優先以降の手順】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>代替格納容器スプレィポンプの故障等により格納容器へのスプレィを代替格納容器スプレィポンプ出口積算流量等にて確認できない場合、<u>及び格納容器内自然対流冷却により格納容器内が冷却状態であることを格納容器圧力等で確認できない場合に</u>、格納容器へスプレィするために必要なる過水タンクの水位が確保されており、重大事故等対処に悪影響を与える火災が発生しておらず、消火用として消火ポンプの必要がない場合。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>泊3号炉は、「格納容器内自然対流冷却により格納容器内が冷却状態であることの確認」について、すべての代替格納容器スプレィ手順の「手順着手の判断基準」に記載している。（例：比較表p1.7-13）</li> <li>大飯3/4号炉は、代替格納容器スプレィの第1優先である恒設代替低圧注水ポンプによる手段の「手順着手の判断基準」に「格納容器内自然対流冷却による冷却状態の確認」について記載していることから、電動消火ポンプ又はディーゼル消火ポンプによる代替格納容器スプレィ以降の「手順着手の判断基準」には「格納容器内自然対流冷却による冷却状態の確認」を記載していない。</li> <li>記載方針は異なるが、格納容器内の冷却機能が喪失している場合に格納容器圧力が最高使用圧力になるまでの間に代替格納容器スプレィ準備が完了すれば代替格納容器スプレィを実施すること、及び格納容器内自然対流冷却を開始後、格納容器圧力が最高使用圧力を超える場合に代替格納容器スプレィを実施することについては相違なし。</li> </ul>	
③	<p>【「その他の手順項目にて考慮する手順」の記載】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「燃料取替用水ピットの枯渇又は破損時の<u>復水ピットからの補給手順</u>は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」のうち、<u>1.13.2.3(2)「燃料取替用水ピットから復水ピットへの水源切替」にて整備する。</u>」</li> </ul>	<p>【「その他の手順項目にて考慮する手順」の記載】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「燃料取替用水ピットの枯渇又は破損時の<u>対応手順</u>は、「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」のうち、<u>1.13.2.3「格納容器スプレィのための代替手段及び燃料取替用水ピットへの供給に係る手順等」にて整備する。</u>」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術的能力1.13では、燃料取替用水ピットの枯渇又は破損時には水源切替を実施し、枯渇時は補給を実施する手順としていることから、泊3号炉は、1.13.2.3「格納容器スプレィのための代替手段及び燃料取替用水ピットへの供給に係る手順等」のすべての手順をリンク先としている。（例：比較表p1.7-15）</li> <li>各対応手段で使用する水源の枯渇又は破損時の対応手段を技術的能力1.13にて整理している点では、大飯3/4号炉と相違なし。</li> </ul>	

※ 相違点を強調する箇所を下線部にて示す。

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大飯発電所3/4号炉		泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<b>2-3) 記載方針の相違</b> （以下については、差異理由欄にNo.を記載する）				
No.	大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉		差異理由
④	<p>【大容量ポンプ等への燃料補給手順の記載条文】</p> <p>電源車（可搬式代替低圧注水ポンプ用）、大容量ポンプへの燃料補給の手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.4(1)「電源車（可搬式代替低圧注水ポンプ用）、大容量ポンプへの燃料補給」にて整備する。</p>	<p>【可搬型大型送水ポンプ車への燃料補給手順の記載条文】</p> <p>可搬型大型送水ポンプ車への燃料補給の手順は、「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手段手順等」のうち、1.13.2.8「可搬型大型送水ポンプ車への燃料補給の手順等」にて整備する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>大飯3/4号炉の格納容器内自然対流冷却で使用する大容量ポンプへの燃料補給の手順は、代替格納容器スプレイで使用する電源車（可搬式代替低圧注水ポンプ用）と送水車への燃料補給の手順と併せて技術的能力1.6にて整理している。</li> <li>泊3号炉の格納容器内自然対流冷却で使用する可搬型大型送水ポンプ車は、燃料取替用水ピットや補助給水ピットへの補給に使用する設備でもあることから、燃料補給の手順を技術的能力1.13にて整理する方針としている。</li> <li>燃料補給の手順を記載する条文は異なるが、記載箇所の相違であり、手順を整備していることに相違なし。（例：比較表 p 1.7-25）</li> </ul>
※ 相違点を強調する箇所を下線部にて示す。				
<b>2-4) 記載表現、設備名称等の相違</b> （以下については、差異理由を省略する）				
	大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉		差異理由
	・A、D格納容器再循環ユニット	・C、D-格納容器再循環ユニット		・設備名称の相違（例：比較表 p 1.7-4）
	・恒設代替低圧注水ポンプ	・代替格納容器スプレイポンプ		・設備名称の相違（例：比較表 p 1.7-4）
	・電動消火ポンプ	・電動機駆動消火ポンプ		・設備名称の相違（例：比較表 p 1.7-5）
	・ディーゼル消火ポンプ	・ディーゼル駆動消火ポンプ		・設備名称の相違（例：比較表 p 1.7-5）
	・大容量ポンプ	・可搬型大型送水ポンプ車		<ul style="list-style-type: none"> <li>設備名称の相違（例：比較表 p 1.7-6）</li> <li>ポンプ容量は異なるが、代替補機冷却水（海水）を供給する機能に相違はないため、「設備名称の相違」に分類する。</li> <li>大飯3/4号炉 大容量ポンプ（容量約1800m<sup>3</sup>/h）</li> <li>泊3号炉 可搬型大型送水ポンプ車（容量約300m<sup>3</sup>/h）</li> </ul>
	・A格納容器スプレイポンプ（自己冷却）	・B-格納容器スプレイポンプ（自己冷却）		・設備名称の相違（例：比較表 p 1.7-7）
	・A格納容器スプレイ流量	・B-格納容器スプレイ流量		・設備名称の相違（監視計器）（例：比較表 p 1.7-21）
	・可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度（SA）用）	・可搬型温度計測装置		・設備名称の相違（例：比較表 p 1.7-4）
	・A、B原子炉補機冷却水ポンプ	・C、D-原子炉補機冷却水ポンプ		・設備名称の相違（例：比較表 p 1.7-4）
	・A原子炉補機冷却水冷却器	・C、D-原子炉補機冷却水冷却器		・設備名称の相違（例：比較表 p 1.7-4）
	・窒素ボンベ（原子炉補機冷却水サージタンク加圧用）	・原子炉補機冷却水サージタンク加圧用可搬型窒素ガスボンベ		・設備名称の相違（例：比較表 p 1.7-4）
	・海水ポンプ	・C、D-原子炉補機冷却海水ポンプ		・設備名称の相違（例：比較表 p 1.7-4）
	・復水ピット	・補助給水ピット		・設備名称の相違（例：比較表 p 1.7-4）
	・No. 2淡水タンク	・ろ過水タンク		・設備名称の相違（例：比較表 p 1.7-5）
	・燃料油貯蔵タンク	・ディーゼル発電機燃料油貯油槽		・設備名称の相違（例：比較表 p 1.7-7）
	・タンクローリー	・可搬型タンクローリー		・設備名称の相違（例：比較表 p 1.7-7）
	・空冷式非常用発電装置	・代替非常用発電機		・設備名称の相違（例：比較表 p 1.7-7）
	・可搬型格納容器水素ガス濃度計	・可搬型格納容器内水素濃度計測ユニット		・設備名称の相違（例：比較表 p 1.7-9）

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<b>2-4) 記載表現、設備名称等の相違（以下については、差異理由を省略する）</b>			
大飯発電所3/4号炉 ・格納容器再循環ユニットを用いた格納容器内自然対流冷却の手順等 ・格納容器圧力が最高使用圧力から <u>50kPa</u> 低下 【格納容器内への注水量の記載】 「・・・格納容器へスプレイを行っている際に、 <u>格納容器内の重要機器及び重要計器が水没しない高さまで注水されたことを確認すれば格納容器スプレイを停止し・・・</u> 」	泊発電所3号炉 ・炉心の著しい損傷が発生した場合の対応手順等 ・格納容器圧力が最高使用圧力から <u>0.05MPa</u> 低下 【格納容器内への注水量の記載】 「・・・格納容器へスプレイを行っている際に、 <u>炉心発熱有効長上端位置から 0.5m 下まで注水されたことを確認すれば格納容器スプレイを停止し・・・</u> 」	女川発電所2号炉 ・手順書名称の相違（例：比較表 p 1.7-8） ・記載表現の相違（例：比較表 p 1.7-11） ・記載表現の相違（例：比較表 p 1.7-10） ・泊3号炉は、格納容器注水の運用管理上の上限レベルを記載しているが、格納容器内の重要機器及び重要計器が水没しない高さであることに相違なし。	
※ 相違点を強調する箇所を下線部にて示す。			
<b>2-5) 差異識別の省略（以下については、各対応手順の共通の差異理由のため、本文中の差異識別と差異理由は省略する）</b>			
大飯発電所3/4号炉 【「操作手順」の対応要員】 ・当直課長 ・運転員等 ・発電所対策本部長 ・緊急安全対策要員	泊発電所3号炉 【「操作手順」の対応要員】 ・発電課長（当直） ・運転員 ・災害対策要員	女川発電所2号炉 ・対応要員、要員名称の相違（例：比較表 p 1.7-17～19） ・泊3号炉の本審査項目で整理する操作手順は、発電課長（当直）の指示により運転員と災害対策要員にて対応するため、発電所対策本部長へ依頼する作業はない。また、可搬型設備を取り扱う災害対策要員は、運転班の要員であることから、運転員と災害対策要員は連携して対応が可能である。 ・大飯3/4号炉の要員名称の定義については「記載方針の相違①」にて整理する。 ・大飯3/4号炉の本審査項目で整理する操作手順は、当直課長の指示により運転員等が対応するとともに、発電所対策本部長の指示により緊急安全対策要員が対応する。なお、手順着手は当直課長が判断し、運転員等と発電所対策本部長へ作業開始を指示する。 ・操作手順の比較において、これら要員の名称差異、作業開始指示及び完了報告に関する事項の差異識別は省略する。	
【「操作の成立性」の対応要員と所要時間】 「上記の対応は中央制御室にて <u>1ユニット当たり運転員等〇名</u> 、現場にて <u>1ユニット当たり運転員等〇名</u> により作業を実施し、 <u>所要時間は約〇分</u> と想定する。」	【「操作の成立性」の対応要員と所要時間】 「上記の対応は、中央制御室にて <u>運転員〇名</u> 、現場は <u>運転員〇名</u> により作業を実施し、 <u>所要時間は約〇分</u> と想定する。」	・泊3号炉は複数号炉の審査ではないため、「1ユニット当たり」の記載は必要ない。（例：比較表 p 1.7-11） ・対応要員・操作対象機器の配置場所等の相違により、各対応手段の所要時間は相違することから、対応要員数と所要時間の差異識別は省略する。（例：比較表 p 1.7-11） ・なお、第1.7.1表「重大事故等における対応手段と整備する手順」の「設備分類b（37条に適合する重大事故等対処設備）」に該当する対応手段については、重大事故対策の有効性評価における各事故シーケンスにおいて、重大事故等対策の成立性を確認しており、各対応手段が要求される時間までに実施可能であることに相違はない。	
※ 相違点を強調する箇所を下線部にて示す。			

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大阪発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<p>1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等</p> <p style="text-align: center;">&lt;目 次&gt;</p> <p>1.7.1 対応手段と設備の選定</p> <p>(1) 対応手段と設備の選定の考え方</p> <p>(2) 対応手段と設備の選定の結果</p> <p>a. 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の対応手段及び設備</p> <p>b. 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失時の対応手段及び設備</p> <p>c. 手順等</p> <p>1.7.2 重大事故等時の手順等</p> <p>1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の手順等</p> <p>(1) 格納容器スプレイ</p> <p>a. 格納容器スプレイポンプによる格納容器スプレイ</p> <p>(2) 格納容器内自然対流冷却</p> <p>a. A、D格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却</p> <p>(3) 代替格納容器スプレイ</p> <p>a. 恒設代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ</p> <p>b. 電動消火ポンプ又はディーゼル消火ポンプによる代替格納容器スプレイ</p> <p>c. 可搬式代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ</p> <p>(4) その他の手順項目にて考慮する手順</p> <p>(5) 優先順位</p> <p>1.7.2.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失時の手順等</p> <p>(1) 格納容器内自然対流冷却</p> <p>a. 大容量ポンプを用いたA、D格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却</p>	<p>1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等</p> <p style="text-align: center;">&lt;目 次&gt;</p> <p>1.7.1 対応手段と設備の選定</p> <p>(1) 対応手段と設備の選定の考え方</p> <p>(2) 対応手段と設備の選定の結果</p> <p>a. 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の対応手段及び設備</p> <p>(a) 対応手段</p> <p>(b) 重大事故等対処設備と多様性拡張設備</p> <p>b. 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失時の対応手段及び設備</p> <p>(a) 対応手段</p> <p>(b) 重大事故等対処設備と多様性拡張設備</p> <p>c. 手順等</p> <p>1.7.2 重大事故等時の手順等</p> <p>1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の手順等</p> <p>(1) 格納容器スプレイ</p> <p>a. 格納容器スプレイポンプによる格納容器スプレイ</p> <p>(2) 格納容器内自然対流冷却</p> <p>a. C、D格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却</p> <p>(3) 代替格納容器スプレイ</p> <p>a. 代替格納容器スプレイポンプによる代替格納容器スプレイ</p> <p>b. 電動機駆動消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる代替格納容器スプレイ</p> <p>c. 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ</p> <p>d. 代替給水ピットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ</p> <p>e. 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ</p> <p>(4) その他の手順項目にて考慮する手順</p> <p>(5) 優先順位</p> <p>1.7.2.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失時の手順等</p> <p>(1) 格納容器内自然対流冷却</p> <p>a. 可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 追而</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>追而理由【3号炉原子炉建屋西側を經由したルートの設定変更】以降の「追而」標記の追而理由は、上記と同様であることから省略する。</p> </div>	<p>記載方針の相違</p> <p>・目次構成の相違であり、本文の構成は相違なし。</p> <p>設備の相違（差異理由①）</p> <p>設備の相違（差異理由①）</p> <p>設備の相違（差異理由①）</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大阪発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
(2) 代替格納容器スプレイ a. 恒設代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ b. ディーゼル消火ポンプによる代替格納容器スプレイ c. A格納容器スプレイポンプ（自己冷却）による代替格納容器スプレイ d. 可搬式代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ (3) その他の手順項目にて考慮する手順 (4) 優先順位	(2) 代替格納容器スプレイ a. 代替格納容器スプレイポンプによる代替格納容器スプレイ b. B-格納容器スプレイポンプ（自己冷却）による代替格納容器スプレイ c. ディーゼル駆動消火ポンプによる代替格納容器スプレイ d. 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ e. 代替給水ピットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ f. 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ (3) その他の手順項目にて考慮する手順 (4) 優先順位		運用の相違（差異理由①） 運用の相違（差異理由①） 設備の相違（差異理由①） 設備の相違（差異理由①） 設備の相違（差異理由①）
添付資料 1.7.1 重大事故等対処設備の電源構成図 添付資料 1.7.2 重大事故等対処設備及び多様性拡張設備整理表 添付資料 1.7.3 多様性拡張設備仕様 添付資料 1.7.4 A、D格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 添付資料 1.7.5 原子炉補機冷却水サージタンク加圧について 添付資料 1.7.6 大容量ポンプを用いたA、D格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 添付資料 1.7.7 原子炉格納容器内の冷却状況の原子炉格納容器外温度計での確認について 添付資料 1.7.8 炉心損傷時における原子炉格納容器破損防止等操作について 添付資料 1.7.9 設計基準事故対処設備の故障想定を実施しない技術的能力項目の機能喪失原因対策分析について	添付資料 1.7.1 重大事故等対処設備の電源構成図 添付資料 1.7.2 審査基準、基準規則と対処設備との対応表 添付資料 1.7.3 多様性拡張設備仕様 添付資料 1.7.4 C、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 添付資料 1.7.5 原子炉補機冷却水サージタンク加圧について 添付資料 1.7.6 可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 追而 添付資料 1.7.7 重大事故に係る屋外作業員に対する被ばく評価について 添付資料 1.7.8 原子炉格納容器内冷却状況の原子炉格納容器外温度計での確認について 添付資料 1.7.9 炉心損傷時におけるC/V破損防止等操作について 添付資料 1.7.10 解釈一覧 1. 「手順着手の判断基準」及び「操作手順」解釈一覧 2. 操作対象機器一覧	添付資料1.7.1 審査基準、基準規則と対処設備との対応表 添付資料 1.7.7 解釈一覧 1. 操作手順の解釈一覧 2. 弁番号及び弁名称一覧	女川2号炉審査知見の反映 ・比較結果等を取りまとめた資料 1-2)b. 参照。 女川2号炉審査知見の反映 ・比較結果等を取りまとめた資料 1-2)b. 参照。

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大阪発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<p>1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、原子炉格納容器（以下「格納容器」という。）の破損を防止するため、格納容器内の圧力及び温度を低下させる対処設備を整備しており、ここでは、この対処設備を活用した手順等について説明する。</p> <p>1.7.1 対応手段と設備の選定</p> <p>(1) 対応手段と設備の選定の考え方</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、格納容器内へ流出した高温の1次冷却材及び熔融炉心の崩壊熱により発生する水蒸気により、格納容器内の圧力及び温度が上昇し、格納容器の過圧破損に至るおそれがある。</p> <p>格納容器の破損を防止するため、格納容器内の圧力及び温度を低下させるための対応手段と重大事故等対処設備を選定する。</p> <p>この選定に当たり、様々な条件下での事故対処を想定し、全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能の喪失を考慮する。</p> <p>格納容器再循環ユニットを用いた対応手段のほかに、同等以上の効果を有する対応手段及び重大事故等対処設備を選定する。</p> <p>重大事故等対処設備のほかに、柔軟な事故対応を行うための対応手段及び多様性拡張設備※1を選定する。</p> <p>※1 多様性拡張設備：技術基準上のすべての要求事項を満たすことやすべてのプラント状況において使用することは困難であるが、プラント状況によっては、事故対応に有効な設備。</p> <p>選定した重大事故等対処設備により、技術的能力審査基準（以下「審査基準」という。）だけでなく、設置許可基準規則第五十条及び技術基準規則第六十五条（以下「基準規則」という。）の要求機能が網羅されていることを確認するとともに、多様性拡張設備との関係を明確にする。</p> <p>(添付資料 1.7.1、1.7.2、1.7.3)</p> <p>(2) 対応手段と設備の選定の結果</p> <p>交流動力電源及び原子炉補機冷却機能が健全な場合、又は全交流動力電源若しくは原子炉補機冷却機能が喪失した場合に使用可能な対応手段と設備を選定する。ただし、全交流動力電源が喪失した場合は代替電源により給電する。</p>	<p>1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、原子炉格納容器（以下「格納容器」という。）の破損を防止するため、格納容器内の圧力及び温度を低下させる対処設備を整備しており、ここでは、この対処設備を活用した手順等について説明する。</p> <p>1.7.1 対応手段と設備の選定</p> <p>(1) 対応手段と設備の選定の考え方</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、格納容器内へ流出した高温の1次冷却材及び熔融炉心の崩壊熱により発生する水蒸気により、格納容器内の圧力及び温度が上昇し、格納容器の過圧破損に至るおそれがある。</p> <p>格納容器の破損を防止するため、格納容器内の圧力及び温度を低下させるための対応手段と重大事故等対処設備を選定する。</p> <p>この選定に当たり、様々な条件下での事故対処を想定し、全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能の喪失を考慮する。</p> <p>格納容器再循環ユニットを用いた対応手段の他に、同等以上の効果を有する対応手段並びに重大事故等対処設備を選定する。</p> <p>重大事故等対処設備の他に、柔軟な事故対応を行うための対応手段及び多様性拡張設備※1を選定する。</p> <p>※1 多様性拡張設備：技術基準上のすべての要求事項を満たすことやすべてのプラント状況において使用することは困難であるが、プラント状況によっては、事故対応に有効な設備。</p> <p>選定した重大事故等対処設備により、技術的能力審査基準（以下「審査基準」という。）だけでなく、設置許可基準規則第五十条及び技術基準規則第六十五条（以下「基準規則」という。）の要求機能を満足する設備が網羅されていることを確認するとともに、多様性拡張設備との関係を明確にする。</p> <p>(添付資料 1.7.1、1.7.2、1.7.3)</p> <p>(2) 対応手段と設備の選定の結果</p> <p>交流動力電源及び原子炉補機冷却機能が健全な場合、若しくは全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能が喪失した場合に使用可能な対応手段と設備を選定する。ただし、全交流動力電源が喪失した場合は代替電源により給電する。</p>		<p>記載表現の相違</p> <p>・本項目では、設備の選定について述べているため、泊3号炉は、「要求機能を満足する設備」と記載する。</p> <p>記載表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<p>審査基準及び基準規則要求により選定した対応手順と、その対応に使用する重大事故等対処設備と多様性拡張設備を以下に示す。</p> <p>なお、重大事故等対処設備、多様性拡張設備及び整備する手順についての関係を第1.7.1表に示す。</p> <p>a. 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の対応手段及び設備</p> <p>(a) 対応手段</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、格納容器の圧力及び温度を低下させるため、格納容器スプレイにより格納容器内を冷却する手段がある。</p> <p>格納容器スプレイで使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 格納容器スプレイポンプ</li> <li>・ 燃料取替用水ピット</li> </ul> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、格納容器の圧力及び温度を低下させるため、格納容器内自然対流冷却により格納容器内を冷却する手段がある。</p> <p>格納容器内自然対流冷却に使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A、D格納容器再循環ユニット</li> <li>・ 可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度／出口温度（SA）用）</li> <li>・ A、B原子炉補機冷却水ポンプ</li> <li>・ A原子炉補機冷却水冷却器</li> <li>・ 原子炉補機冷却水サージタンク</li> <li>・ 窒素ポンベ（原子炉補機冷却水サージタンク加圧用）</li> <li>・ 海水ポンプ</li> <li>・ 液化窒素供給設備</li> </ul> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、格納容器の圧力及び温度を低下させるため、代替格納容器スプレイにより格納容器内を冷却する手段がある。</p> <p>代替格納容器スプレイに使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 恒設代替低圧注水ポンプ</li> <li>・ 空冷式非常用発電装置</li> <li>・ 燃料取替用水ピット</li> <li>・ 復水ピット</li> </ul>	<p>審査基準及び基準規則要求により選定した対応手段と、その対応に使用する重大事故等対処設備と多様性拡張設備を以下に示す。</p> <p>なお、重大事故等対処設備、多様性拡張設備及び整備する手順についての関係を第1.7.1表に示す。</p> <p>a. 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の対応手段及び設備</p> <p>(a) 対応手段</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、格納容器の圧力及び温度を低下させるため、格納容器スプレイにより格納容器内を冷却する手段がある。</p> <p>格納容器スプレイで使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 格納容器スプレイポンプ</li> <li>・ 燃料取替用水ピット</li> </ul> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、格納容器の圧力及び温度を低下させるため、格納容器内自然対流冷却により格納容器内を冷却する手段がある。</p> <p>格納容器内自然対流冷却に使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ C、D—格納容器再循環ユニット</li> <li>・ 可搬型温度計測装置</li> <li>・ C、D—原子炉補機冷却水ポンプ</li> <li>・ C、D—原子炉補機冷却水冷却器</li> <li>・ 原子炉補機冷却水サージタンク</li> <li>・ 原子炉補機冷却水サージタンク加圧用可搬型窒素ガスポンベ</li> <li>・ C、D—原子炉補機冷却海水ポンプ</li> </ul> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、格納容器の圧力及び温度を低下させるため、代替格納容器スプレイにより格納容器内を冷却する手段がある。</p> <p>代替格納容器スプレイに使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 代替格納容器スプレイポンプ</li> <li>・ 燃料取替用水ピット</li> <li>・ 補助給水ピット</li> </ul>		<p>記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本項目では、対応手段について述べているため、泊3号炉は、「手段」と記載する。</li> </ul> <p>設備の相違（差異理由②）</p> <p>設備の相違（差異理由③）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>・可搬式代替低圧注水ポンプ</li> <li>・電源車（可搬式代替低圧注水ポンプ用）</li> <li>・仮設組立式水槽</li> <li>・送水車</li> <li>・燃料油貯蔵タンク</li> <li>・重油タンク</li> <li>・タンクローリー</li> <li>・軽油ドラム缶</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電動消火ポンプ</li> <li>・ディーゼル消火ポンプ</li> <li>・No. 2淡水タンク</li> </ul> <p>(b) 重大事故等対処設備と多様性拡張設備                      格納容器スプレイに使用する設備のうち、格納容器スプレイポンプ及び燃料取替用水ピットは、いずれも重大事故等対処設備と位置づける。                      格納容器内自然対流冷却に使用する設備のうち、A、D格納容器再循環ユニット、可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度／出口温度（SA）用）、A、B原子炉補機冷却水ポンプ、A原子炉補機冷却水冷却器、原子炉補機冷却水サージタンク、窒素ポンベ（原子炉補機冷却水サージタンク加圧用）及び海水ポンプは、いずれも重大事故等対処設備と位置づける。                      代替格納容器スプレイに使用する設備のうち、恒設代替低圧注水ポンプ、空冷式非常用発電装置、燃料取替用水ピット、復水ピット、可搬式代替低圧注水ポンプ、電源車（可搬式代替低圧注水ポンプ用）、仮設組立式水槽、送水車、燃料油貯蔵タンク、重油タンク、タンクローリー及び軽油ドラム缶は、いずれも重大事故等対処設備と位置づける。                      これらの選定した設備は、審査基準及び基準規則に要求される設備をすべて網羅している。                      以上の重大事故等対処設備により格納容器内の圧力及び温度を低下させることが可能である。また、以下の設備はそれぞれに示す理由から多様性拡張設備と位置づける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電動機駆動消火ポンプ</li> <li>・ディーゼル駆動消火ポンプ</li> <li>・ろ過水タンク</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・可搬型大型送水ポンプ車</li> <li>・代替給水ピット</li> <li>・原水槽</li> <li>・2次系純水タンク</li> </ul> <p>(b) 重大事故等対処設備と多様性拡張設備                      格納容器スプレイに使用する設備のうち、格納容器スプレイポンプ及び燃料取替用水ピットは、いずれも重大事故等対処設備と位置づける。                      格納容器内自然対流冷却に使用する設備のうち、C、D一格納容器再循環ユニット、可搬型温度計測装置、C、D一原子炉補機冷却水ポンプ、C、D一原子炉補機冷却水冷却器、原子炉補機冷却水サージタンク、原子炉補機冷却水サージタンク加圧用可搬型窒素ガスポンベ及びC、D一原子炉補機冷却海水ポンプは、いずれも重大事故等対処設備と位置づける。                      代替格納容器スプレイに使用する設備のうち、代替格納容器スプレイポンプ、燃料取替用水ピット及び補助給水ピットは、いずれも重大事故等対処設備と位置づける。                      これらの選定した設備は、審査基準及び基準規則に要求される設備をすべて網羅している。                      以上の重大事故等対処設備により格納容器内の圧力及び温度を低下させることが可能である。また、以下の設備は、それぞれに示す理由から多様性拡張設備と位置づける。</p>		<p>記載方針の相違                      ・泊3号炉は、優先順位の高い設備から記載している。</p> <p>設備の相違（差異理由①）</p> <p>設備の相違（差異理由④）                      設備の相違（差異理由①）                      設備の相違（差異理由⑤）</p> <p>設備の相違（差異理由③）                      設備の相違（差異理由①、③、④、⑤）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大阪発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<p>・ 液化窒素供給設備                      通常運転中の窒素供給設備として設置しており、耐震性がないものの、液化窒素供給設備が健全であれば、原子炉補機冷却水サージタンク窒素加圧の代替手段として有効である。</p> <p>・ 電動消火ポンプ、ディーゼル消火ポンプ、No. 2 淡水タンク                      消火を目的として配備しているが、火災が発生していなければ格納容器スプレイの代替手段として有効である。</p> <p>b. 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失時の対応手段及び設備                      (a) 対応手段                      炉心の著しい損傷が発生した場合において、格納容器の圧力及び温度を低下させるため、格納容器内自然対流冷却により格納容器内を冷却する手段がある。                      格納容器内自然対流冷却に使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ A、D格納容器再循環ユニット</li> <li>・ 可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度／出口温度（SA）用）</li> <li>・ 大容量ポンプ</li> <li>・ 燃料油貯蔵タンク</li> <li>・ 重油タンク</li> <li>・ タンクローリー</li> </ul>	<p>・ 電動機駆動消火ポンプ、ディーゼル駆動消火ポンプ、ろ過水タンク                      消火を目的として配備しているが、火災が発生していなければ格納容器スプレイの代替手段として有効である。</p> <p>・ 可搬型大型送水ポンプ車、代替給水ピット、原水槽、2次系純水タンク、ろ過水タンク                      可搬型ホース等の運搬、接続作業に最短でも約2時間50分を要するが、格納容器スプレイの代替手段であり、長期的な事故収束手段として有効である。</p> <p>b. 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失時の対応手段及び設備                      (a) 対応手段                      炉心の著しい損傷が発生した場合において、格納容器の圧力及び温度を低下させるため、格納容器内自然対流冷却により格納容器内を冷却する手段がある。                      格納容器内自然対流冷却に使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ C、D-格納容器再循環ユニット</li> <li>・ 可搬型温度計測装置</li> <li>・ 可搬型大型送水ポンプ車</li> <li>・ ディーゼル発電機燃料油貯油槽</li> <li>・ 可搬型タンクローリー</li> <li>・ ディーゼル発電機燃料油移送ポンプ</li> </ul>		<p>設備の相違（差異理由②）</p> <p>設備の相違（差異理由①）</p> <p>設備の相違（差異理由④）</p> <p>設備の相違（差異理由⑥）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大阪発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、格納容器の圧力及び温度を低下させるため、代替格納容器スプレイにより格納容器内を冷却する手段がある。                      代替格納容器スプレイに使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 恒設代替低圧注水ポンプ</li> <li>・ 空冷式非常用発電装置</li> <li>・ 燃料取替用水ピット</li> <li>・ 復水ピット</li> <li>・ 可搬式代替低圧注水ポンプ</li> <li>・ 電源車（可搬式代替低圧注水ポンプ用）</li> <li>・ 仮設組立式水槽</li> <li>・ 送水車</li> <li>・ 燃料油貯蔵タンク</li> <li>・ 重油タンク</li> <li>・ タンクローリー</li> <li>・ 軽油ドラム缶</li> </ul> <p>・ ディーゼル消火ポンプ                      ・ No. 2 淡水タンク                      ・ A格納容器スプレイポンプ（自己冷却）</p> <p>(b) 重大事故等対処設備と多様性拡張設備                      格納容器内自然対流冷却に使用する設備のうち、A、D格納容器再循環ユニット、可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度／出口温度（SA）用）、大容量ポンプ、燃料油貯蔵タンク、重油タンク及びタンクローリーは、いずれも重大事故等対処設備と位置づける。                      代替格納容器スプレイに使用する設備のうち、恒設代替低圧注水ポンプ、空冷式非常用発電装置、燃料取替用水ピット、復水ピット、可搬式代替低圧注水ポンプ、電源車（可搬式代替低圧注水ポンプ用）、仮設組立式水槽、送水車、燃料油貯蔵タンク、重油タンク、タンクローリー及び軽油ドラム缶は、いずれも重大事故等対処設備と位置づける。                      これらの選定した設備は、審査基準及び基準規則に要求される設備をすべて網羅している。                      以上の重大事故等対処設備により格納容器内の圧力及び温度を低下させることが可能である。また、以下の設備はそれぞれに示す理由から多様性拡張設備と位置づける。</p>	<p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、格納容器の圧力及び温度を低下させるため、代替格納容器スプレイにより格納容器内を冷却する手段がある。                      代替格納容器スプレイに使用する設備は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 代替格納容器スプレイポンプ</li> <li>・ 代替非常用発電機</li> <li>・ 燃料取替用水ピット</li> <li>・ 補助給水ピット</li> </ul> <p>・ ディーゼル発電機燃料油貯油槽</p> <p>・ 可搬型タンクローリー</p> <p>・ ディーゼル発電機燃料油移送ポンプ</p> <p>・ B格納容器スプレイポンプ（自己冷却）                      ・ ディーゼル駆動消火ポンプ                      ・ ろ過水タンク                      ・ 可搬型大型送水ポンプ車                      ・ 代替給水ピット                      ・ 原水槽                      ・ 2次系純水タンク</p> <p>(b) 重大事故等対処設備と多様性拡張設備                      格納容器内自然対流冷却に使用する設備のうち、C、D格納容器再循環ユニット、可搬型温度計測装置、可搬型大型送水ポンプ車、ディーゼル発電機燃料油貯油槽、可搬型タンクローリー及びディーゼル発電機燃料油移送ポンプは、いずれも重大事故等対処設備と位置づける。                      代替格納容器スプレイに使用する設備のうち、代替格納容器スプレイポンプ、代替非常用発電機、燃料取替用水ピット、補助給水ピット、ディーゼル発電機燃料油貯油槽、可搬型タンクローリー及びディーゼル発電機燃料油移送ポンプは、いずれも重大事故等対処設備と位置づける。                      これらの選定した設備は、審査基準及び基準規則に要求される設備をすべて網羅している。                      以上の重大事故等対処設備により格納容器内の圧力及び温度を低下させることが可能である。また、以下の設備は、それぞれに示す理由から多様性拡張設備と位置づける。</p>		<p>設備の相違（差異理由①）</p> <p>設備の相違（差異理由④）</p> <p>設備の相違（差異理由⑤）                      設備の相違（差異理由⑥）</p> <p>設備の相違（差異理由①）</p> <p>設備の相違（差異理由④、⑥）</p> <p>設備の相違（差異理由①）                      設備の相違（差異理由④、⑤、⑥）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大阪発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<p>・ディーゼル消火ポンプ、No. 2淡水タンク                      消火を目的として配備しているが、火災が発生していなければ格納容器スプレイの代替手段として有効である。</p> <p>・A格納容器スプレイポンプ（自己冷却）、燃料取替用水ピット                      重大事故等対処設備である恒設代替低圧注水ポンプ等のバックアップであり、運転不能を判断してからの準備となるため系統構成に時間を要するが、流量が大きく格納容器スプレイ手段として有効である。</p> <p>c. 手順等                      上記のa. 及びb. における対応手段に係る手順を整備する。また、事故時に監視が必要となる計器及び給電が必要となる設備を整備する（第1.7.2表、第1.7.3表）。                      これらの手順は、発電所対策本部長<sup>※2</sup>、当直課長、運転員等<sup>※3</sup>及び緊急安全対策要員<sup>※4</sup>の対応として、格納容器再循環ユニットを用いた格納容器内自然対流冷却の手順等に定める（第1.7.1表）。                      ※2 発電所対策本部長：重大事故等発生時における発電所原子力防災管理者及び代行者をいう。                      ※3 運転員等：運転員及び重大事故等対策要員のうち当直課長の指示に基づき運転対応を実施する要員をいう。                      ※4 緊急安全対策要員：重大事故等対策要員のうち発電所対策本部長の指示に基づき対応する運転員等以外の要員をいう。</p>	<p>・B格納容器スプレイポンプ（自己冷却）、燃料取替用水ピット                      重大事故等対処設備である代替格納容器スプレイポンプのバックアップであり、運転不能を判断してからの準備となるため系統構成に時間を要するが、流量が大きく格納容器スプレイ手段として有効である。</p> <p>・ディーゼル駆動消火ポンプ、ろ過水タンク                      消火を目的として配備しているが、火災が発生していなければ格納容器スプレイの代替手段として有効である。</p> <p>・可搬型大型送水ポンプ車、代替給水ピット、原水槽、2次系純水タンク、ろ過水タンク                      可搬型ホース等の運搬、接続作業に最短でも約2時間50分を要するが、格納容器スプレイの代替手段であり、長期的な事故収束手段として有効である。</p> <p>c. 手順等                      上記のa. 及びb. における対応手段に係る手順を整備する。また、事故時に監視が必要となる計器及び給電が必要となる設備を整備する（第1.7.2表、第1.7.3表）。                      これらの手順は、発電課長（当直）、運転員及び災害対策要員の対応として、炉心の著しい損傷が発生した場合の対応手順等に定める（第1.7.1表）。</p>		<p>運用の相違（差異理由①）</p> <p>運用の相違                      ・大阪3/4号炉は格納容器スプレイポンプ（自己冷却）を恒設代替低圧注水ポンプ及び消火ポンプのバックアップとしているため、恒設代替低圧注水ポンプ「等」と記載。                      ・泊3号炉の格納容器スプレイポンプ（自己冷却）手段は代替格納容器スプレイポンプのバックアップ。</p> <p>設備の相違（差異理由①）</p> <p>記載方針の相違（差異理由①）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大阪発電所3 / 4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<p>1.7.2 重大事故等時の手順等</p> <p>1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の手順等</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合、格納容器の圧力及び温度を低下させるため、以下の手段を用いた手順を整備する。</p> <p>(1) 格納容器スプレイ</p> <p>a. 格納容器スプレイポンプによる格納容器スプレイ</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合、格納容器の圧力及び温度を低下させるために、格納容器スプレイポンプにより燃料取替用水ピット水を格納容器内へスプレイする手順を整備する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準</p> <p>格納容器圧力が<b>格納容器スプレイ作動設定値(196kPa [gage])</b>以上、かつ、格納容器スプレイポンプが起動していない場合に、格納容器へスプレイするために必要な燃料取替用水ピットの水位が確保されている場合。</p> <p>(b) 操作手順</p> <p>格納容器スプレイポンプによる格納容器スプレイの操作手順の概要は以下のとおり。</p> <p>① 当直課長は、手順着手の判断基準に基づき運転員等に、格納容器スプレイポンプの起動を指示する。</p> <p>② 運転員等は、中央制御室で格納容器スプレイポンプを起動する。</p> <p>③ 運転員等は、中央制御室で格納容器スプレイ流量、格納容器圧力、温度等の監視により格納容器内へスプレイされていることを確認する。</p> <p>(c) 操作の成立性</p> <p>上記の対応は中央制御室にて1ユニット当たり運転員等1名で実施する。</p> <p>格納容器スプレイについては、<b>格納容器圧力が格納容器スプレイ作動設定値(196kPa [gage])</b>以上にて動作することから格納容器にスプレイされていることを確認する。また、格納容器スプレイが動作していない場合は、格納容器スプレイを実施する。ただし、格納容器内自然対流冷却により格納容器の冷却が行われている場合は実施しない。また、水素濃度は、<b>可搬型格納容器水素ガス濃度計</b>で計測される水素濃度（ドライ）により継続的に監視を行う運用としており、測定による水素濃度が8vol%</p>	<p>1.7.2 重大事故等時の手順等</p> <p>1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の手順等</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合、格納容器の圧力及び温度を低下させるため、以下の手段を用いた手順を整備する。</p> <p>(1) 格納容器スプレイ</p> <p>a. 格納容器スプレイポンプによる格納容器スプレイ</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合、格納容器の圧力及び温度を低下させるために、格納容器スプレイポンプにより燃料取替用水ピット水を格納容器内へスプレイする手順を整備する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準</p> <p>格納容器圧力が<b>格納容器スプレイ作動設定値(0.127MPa[gage])</b>以上、かつ、格納容器スプレイポンプが起動していない場合に、格納容器へスプレイするために必要な燃料取替用水ピットの水位が確保されている場合。</p> <p>(b) 操作手順</p> <p>格納容器スプレイポンプによる格納容器スプレイの操作手順の概要は以下のとおり。<b>概略系統を第1.7.1図に示す。</b></p> <p>① 発電課長（当直）は、手順着手の判断基準に基づき、運転員に格納容器スプレイポンプの起動を指示する。</p> <p>② 運転員は、中央制御室で格納容器スプレイポンプを起動する。</p> <p>③ 運転員は、中央制御室で格納容器スプレイ流量及び格納容器圧力、温度等の監視により格納容器内へスプレイされていることを確認する。</p> <p>(c) 操作の成立性</p> <p>上記の対応は、中央制御室にて運転員1名で実施する。操作については、中央制御室で通常の運転操作にて対応する。</p> <p>格納容器スプレイについては、格納容器圧力が<b>格納容器スプレイ作動設定値(0.127MPa[gage])</b>以上にて動作することから格納容器にスプレイされていることを確認する。また、格納容器スプレイが作動していない場合は、格納容器スプレイを実施する。ただし、格納容器内自然対流冷却により格納容器の冷却が行われている場合は実施しない。また、水素濃度は、<b>可搬型格納容器内水素濃度計測ユニット</b>で計測される水素濃度（ドライ）により継続的に監視を行う運用としており、測定による水素濃度が8vol%（ド</p>	<p>女川発電所2号炉</p>	<p>差異理由</p> <p>設備の相違（差異理由⑦）</p> <p>記載方針の相違</p> <p>・泊3号炉は、重大事故等対処設備である格納容器スプレイポンプによる格納容器スプレイの概略系統を整理している。</p> <p>設備の相違（差異理由⑦）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大阪発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<p>(ドライ) 未満であれば減圧を継続する。                      格納容器内の冷却を目的とした格納容器スプレイを行う場合は、格納容器内への注水量の制限があることから、格納容器へスプレイを行っている際に、格納容器内の重要機器及び重要計器が水没しない高さまで注水されたことを確認すれば格納容器スプレイを停止し格納容器内自然対流冷却のみの冷却とする。                      (添付資料 1.7.8)</p> <p>(2) 格納容器内自然対流冷却                      a. A、D格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却                      炉心の著しい損傷が発生した場合、格納容器の圧力及び温度を低下させるために、A、D格納容器再循環ユニットにより格納容器内自然対流冷却を行う手順を整備する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準                      格納容器圧力が格納容器スプレイ作動設定値(196kPa [gage])以上の場合に、格納容器スプレイポンプの故障等により格納容器へのスプレイが格納容器スプレイ流量にて確認できない場合。</p> <p>(b) 操作手順                      A、D格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却手順の概要は以下のとおり。手順内の可搬型格納容器水素ガス濃度計による格納容器内水素濃度監視操作手順は「1.9水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための手順等」のうち1.9.2.1(2)「水素濃度監視」にて整備する。概略系統を第1.7.1図に、タイムチャートを第1.7.2図に示す。</p> <p>① 当直課長は、手順着手の判断基準に基づき運転員等にA、D格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却を指示する。                      ② 運転員等は、中央制御室及び現場で原子炉補機冷却水系を加圧するための系統構成を行う。                      ③ 運転員等は、原子炉補機冷却水系の沸騰を防止するため、現場で窒素ポンペ（原子炉補機冷却水サージタンク加圧用）により原子炉補機冷却水サージタンクを0.25MPa [gage] まで加圧操作を行う。液化窒素供給設備で加圧する場合は、中央制御室より行う。                      ④ 当直課長は、中央制御室で格納容器再循環ユニットの冷却水の温度監視を指示する。中央制御室での温度監視ができない場合は、発電所対策本部長に可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度（SA）用）の取付けを指示する。</p>	<p>(ドライ) 未満であれば減圧を継続する。                      格納容器内の冷却を目的とした格納容器スプレイを行う場合は、格納容器内への注水量の制限があることから、格納容器へスプレイを行っている際に、炉心発熱有効長上端位置から0.5m下まで注水されたことを確認すれば格納容器スプレイを停止し格納容器内自然対流冷却のみの冷却とする。                      (添付資料 1.7.9)</p> <p>(2) 格納容器内自然対流冷却                      a. C、D格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却                      炉心の著しい損傷が発生した場合、格納容器の圧力及び温度を低下させるために、C、D格納容器再循環ユニットにより格納容器内自然対流冷却を行う手順を整備する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準                      格納容器圧力が格納容器スプレイ作動設定値(0.127MPa [gage])以上の場合に、格納容器スプレイポンプの故障等により格納容器へのスプレイを格納容器スプレイ流量等にて確認できない場合。</p> <p>(b) 操作手順                      C、D格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却手順の概要は以下のとおり。手順内の可搬型格納容器内水素濃度計測ユニットによる格納容器内水素濃度監視操作手順は、「1.9水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための手順等」のうち、1.9.2.1(2) a. 「可搬型格納容器内水素濃度計測ユニット」にて整備する。概略系統を第1.7.2図に、タイムチャートを第1.7.3図に示す。</p> <p>① 発電課長（当直）は、手順着手の判断基準に基づき、運転員にC、D格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却の準備作業と系統構成を指示する。                      ② 運転員は、中央制御室及び現場で原子炉補機冷却水系を加圧するための系統構成を行う。                      ③ 運転員は、原子炉補機冷却水系の沸騰を防止するため、現場で原子炉補機冷却水サージタンク加圧用可搬型窒素ガスポンペにより原子炉補機冷却水サージタンクを0.28MPa [gage]まで加圧操作を行う。                      ④ 発電課長（当直）は中央制御室で格納容器再循環ユニットの冷却水の温度監視を指示する。中央制御室での温度監視ができない場合は、運転員に可搬型温度計測装置の取り付けを指示する。</p>	<p>設備の相違（差異理由⑦）</p> <p>記載表現の相違                      ・大阪 3/4 号炉の可搬型格納容器水素ガス濃度計による格納容器内水素濃度監視操作手順は1.9.2.1(2) a. 「可搬型格納容器水素ガス濃度計」に整備しており、泊3号炉と相違なし。</p> <p>設備の相違                      ・原子炉補機冷却水サージタンク加圧設定値の相違。炉心損傷及び原子炉容器破損に至った場合の格納容器内温度においても原子炉補機冷却水系統が沸騰しない圧力に設定しており、設定根拠に相違なし。</p>	

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大阪発電所 3 / 4号炉	泊発電所 3号炉	女川発電所 2号炉	差異理由
<p>⑤ 運転員等は、中央制御室で格納容器再循環ユニットへ原子炉補機冷却水を通水するための系統構成を行う。</p> <p>⑥ 運転員等は、中央制御室でA、D格納容器再循環ユニット冷却水出口弁の開操作により原子炉補機冷却水を通水する。                      なお、電源がない場合は、現場にてA、D格納容器再循環ユニット冷却水出口弁を手動で開操作する。</p> <p>⑦ 運転員等は、中央制御室で格納容器圧力が最高使用圧力から50kPa低下したことを確認すれば、A、D格納容器再循環ユニット冷却水入口弁を開操作し、原子炉補機冷却水の通水を停止する。なお、電源がない場合は、現場にてA、D格納容器再循環ユニット冷却水入口弁を手動で閉操作する。ただし、水素濃度は、可搬型格納容器水素ガス濃度計で計測される水素濃度（ドライ）により継続的に監視を行い、測定による水素濃度が8vol%（ドライ）未満であれば減圧を継続する。</p> <p>⑧ 運転員等は、中央制御室でA、D格納容器再循環ユニット冷却水出入口温度差、格納容器圧力及び温度の低下等により、格納容器が冷却状態であることを継続して確認する。</p> <p>(c) 操作の成立性                      上記の対応は中央制御室にて1ユニット当たり運転員等1名、現場にて1ユニット当たり運転員等1名及び緊急安全対策要員1名により作業を実施し、所要時間については約60分と想定する。</p>	<p>⑤ 運転員は、中央制御室でC、D一格納容器再循環ユニット冷却水入口弁、出口弁の開操作により原子炉補機冷却水を通水する。</p> <p>⑥ 運転員は、中央制御室で格納容器再循環ユニットの冷却水の温度監視ができない場合、現場でC、D一格納容器再循環ユニット冷却水入口及び出口配管に可搬型温度計測装置を取り付ける。</p> <p>⑦ 運転員は、中央制御室で格納容器内温度が上昇し、C、D一格納容器再循環ユニットのダクト開放機構が開く温度以上となっていることを確認する。</p> <p>⑧ 運転員は、中央制御室で、格納容器圧力が最高使用圧力から0.05MPa低下したことを確認すれば、中央制御室で、C、D一格納容器再循環ユニット冷却水入口弁を開操作し、原子炉補機冷却水の通水を停止する。ただし、水素濃度は、可搬型格納容器内水素濃度計測ユニットで計測される水素濃度（ドライ）により継続的に監視を行い、測定による水素濃度が8vol%（ドライ）未満であれば減圧を継続する。</p> <p>⑨ 運転員は、中央制御室でC、D一格納容器再循環ユニット冷却水出入口温度差、格納容器圧力及び温度の低下等により、格納容器内が冷却状態であることを継続して確認する。</p> <p>(c) 操作の成立性                      上記の対応は、中央制御室にて運転員1名、現場は運転員1名により作業を実施し、所要時間は約1時間5分と想定する。</p>	<p>女川発電所 2号炉</p>	<p>差異理由</p> <p>記載方針の相違                      ・泊3号炉も交流電源喪失時には現場手動にて冷却水出口弁を開操作する。                      （「1.7.2.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失時の手順等」に記載）</p> <p>記載方針の相違                      ・泊3号炉は中央制御室で温度監視ができない場合の可搬型温度計取付について明記。大阪3/4号炉も操作手順④に可搬型温度計取付の指示が記載されており、操作手順に相違なし。</p> <p>設備の相違                      ・大阪3/4号炉は、PCCVであることから格納容器換気空調系の系統構成が異なり、ダクト開放機構を設けていない。                      ・泊3号炉は、C、D一格納容器再循環ユニットにダクト開放機構を設けている。</p> <p>記載方針の相違                      ・泊3号炉も交流電源喪失時には現場手動操作にて冷却水入口弁を開操作する。（「1.7.2.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失時の手順等」に記載）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大阪発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<p>円滑に作業ができるように、移動経路を確保し、可搬型照明、通信設備等を整備する。操作に係る移動経路及び操作場所に高線量の区域はない。また、作業環境の周囲温度は通常運転状態と同程度である。                      (添付資料 1.7.4、1.7.5、1.7.7)</p> <p>(3) 代替格納容器スプレイ                      a. 恒設代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合、格納容器の圧力及び温度を低下させるために、恒設代替低圧注水ポンプにより燃料取替用水ピット水を格納容器へスプレイする手順を整備する。                      恒設代替低圧注水ポンプの水源として、燃料取替用水ピットが使用できない場合は、復水ピットを使用する。</p> <p>炉心損傷後に恒設代替低圧注水ポンプによる代替炉心注水（落下遅延・防止）を実施していた場合に、代替格納容器スプレイが必要と判断すれば、恒設代替低圧注水ポンプの注水先を原子炉から格納容器へ切り替え、代替格納容器スプレイを行う手順を整備する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準                      格納容器圧力が最高使用圧力(392kPa [gage])以上の場合に、格納容器スプレイポンプの故障等により格納容器へのスプレイが格納容器スプレイ流量等にて確認できない場合及び格納容器内自然対流冷却により格納容器圧力が低下しない場合に、格納容器へスプレイするために必要な燃料取替用水ピット等の水位が確保されている場合。</p> <p>(b) 操作手順                      代替格納容器スプレイの操作手順は、「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(a)「恒設代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。                      なお、操作に係る移動経路及び操作場所に高線量の区域はない。</p> <p>b. 電動消火ポンプ又はディーゼル消火ポンプによる代替格納容器スプレイ                      炉心の著しい損傷が発生した場合に、恒設代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイができない場合、常用設備である電動消火ポンプ又はディーゼル消火ポンプによりNo.2淡水タンク水を格納容器へスプレイする手順を整備する。</p>	<p>円滑に作業ができるように、移動経路を確保し、可搬型照明、通信設備等を整備する。操作に係る移動経路、操作場所に高線量の区域はない。また、作業環境の周囲温度は通常運転状態と同程度である。                      (添付資料 1.7.4、1.7.5、1.7.8)</p> <p>(3) 代替格納容器スプレイ                      a. 代替格納容器スプレイポンプによる代替格納容器スプレイ</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合、格納容器の圧力及び温度を低下させるために、代替格納容器スプレイポンプにより燃料取替用水ピット水を格納容器内へスプレイする手順を整備する。                      代替格納容器スプレイポンプの水源として、燃料取替用水ピットが使用できない場合は、補助給水ピットを使用する。</p> <p>炉心損傷後に代替格納容器スプレイポンプによる代替炉心注水（落下遅延・防止）を実施していた場合に、代替格納容器スプレイが必要と判断すれば、代替格納容器スプレイポンプの注水先を原子炉から格納容器へ切り替え、代替格納容器スプレイを行う手順を整備する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準                      格納容器圧力が最高使用圧力(0.283MPa [gage])以上の場合に、格納容器スプレイポンプの故障等により格納容器へのスプレイを格納容器スプレイ流量等にて確認できない場合、及び格納容器内自然対流冷却により格納容器内が冷却状態であることを格納容器圧力等で確認できない場合に、格納容器へスプレイするために必要な燃料取替用水ピット等の水位が確保されている場合。</p> <p>(b) 操作手順                      代替格納容器スプレイの操作手順は、「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(a)「代替格納容器スプレイポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。                      なお、操作に係る移動経路、操作場所に高線量の区域はない。</p> <p>b. 電動機駆動消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる代替格納容器スプレイ                      炉心の著しい損傷が発生した場合に、代替格納容器スプレイポンプによる代替格納容器スプレイができない場合、常用設備である電動機駆動消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプよりろ過水タンク水を格納容器へスプレイする手順を整備する。</p>		<p>設備の相違（差異理由㉞）</p> <p>記載表現の相違</p>

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<p>使用に際して、重大事故等対処に悪影響を与える火災が発生していないことを確認して使用する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準                      恒設代替低圧注水ポンプの故障等により格納容器へのスプレーがA格納容器スプレー流量等にて確認できない場合に、格納容器へスプレーするために必要なNo.2淡水タンクの水位が確保されており、重大事故等対処に悪影響を与える火災が発生しておらず、消火用として消火ポンプの必要がない場合。</p> <p>(b) 操作手順                      電動消火ポンプ又はディーゼル消火ポンプによる代替格納容器スプレーの操作手順は、「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(b)「電動消火ポンプ又はディーゼル消火ポンプによる代替格納容器スプレー」にて整備する。                      なお、操作に係る移動経路及び操作場所に高線量の区域はない。</p> <p>c. 可搬式代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレー                      炉心の著しい損傷が発生した場合に、電動消火ポンプ及びディーゼル消火ポンプの故障等により格納容器へのスプレーが格納容器スプレー流量等にて確認できない場合、可搬式代替低圧注水ポンプにより海水を格納容器内へスプレーする手順を整備する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準                      恒設代替低圧注水ポンプによる格納容器へのスプレーが必要となった場合。</p> <p>(b) 操作手順                      可搬式代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレーの操作手順は、「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(c)「可搬式代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレー」にて整備する。                      なお、操作に係る移動経路及び操作場所に高線量の区域はない。</p>	<p>使用に際して、重大事故等対処に悪影響を与える火災が発生していないことを確認して使用する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準                      代替格納容器スプレーポンプの故障等により格納容器へのスプレーを代替格納容器スプレーポンプ出口積算流量等にて確認できない場合、及び格納容器内自然対流冷却により格納容器内が冷却状態であることを格納容器圧力等で確認できない場合に、格納容器へスプレーするために必要な過水タンクの水位が確保されており、重大事故等対処に悪影響を与える火災が発生しておらず、消火用として消火ポンプの必要がない場合。</p> <p>(b) 操作手順                      電動機駆動消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる代替格納容器スプレーの操作手順は、「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(b)「電動機駆動消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる代替格納容器スプレー」にて整備する。                      なお、操作に係る移動経路、操作場所に高線量の区域はない。</p> <p>c. 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレー                      炉心の著しい損傷が発生した場合に、電動機駆動消火ポンプ及びディーゼル駆動消火ポンプの故障等により格納容器へのスプレーがAM用消火水積算流量等にて確認できない場合、可搬型大型送水ポンプ車により海水を格納容器内へスプレーする手順を整備する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準                      代替格納容器スプレーポンプの故障等により格納容器へのスプレーを代替格納容器スプレーポンプ出口積算流量等にて確認できない場合、及び格納容器内自然対流冷却により格納容器内が冷却状態であることを格納容器圧力等で確認できない場合。</p> <p>(b) 操作手順                      海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による操作手順は、「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(c)「海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレー」にて整備する。                      なお、操作に係る移動経路、操作場所に高線量の区域はない。</p>		<p>設備の相違（差異理由⑧）                      記載方針の相違（差異理由②）</p> <p>設備の相違（差異理由①）</p> <p>設備の相違（差異理由⑧）                      設備の相違（差異理由①）</p> <p>設備の相違（差異理由⑧）                      記載方針の相違（差異理由②）</p> <p>設備の相違（差異理由①）</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大阪発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<p>(4) その他の手順項目にて考慮する手順</p> <p>電源車（可搬式代替低圧注水ポンプ用）、送水車への燃料補給の手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.4(1)「電源車（可搬式代替低圧注水ポンプ用）、大容量ポンプへの燃料補給」、1.6.2.4(2)「送水車への燃料補給」にて整備する。</p> <p>可搬型格納容器水素ガス濃度計による格納容器内水素濃度監視操作手順は「1.9 水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための手順等」のうち1.9.2.1(2)「水素濃度監視」にて整備する。</p> <p>空冷式非常用発電装置の代替電源に関する手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」のうち、1.14.2.1(1)「空冷式非常用発電装置による代替電源（交流）からの給電」にて整備する。また、空冷式非常用発電装置への燃料補給の手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」のうち、1.14.2.4(1)「空冷式非常用発電装置等への燃料（重油）補給」にて整備する。</p> <p>燃料取替用水ピットの枯渇又は破損時の復水ピットからの補給手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」のうち、1.13.2.3(2)「燃料取替用水ピットから復水ピットへの水源切替」にて整備する。</p> <p>操作の判断及び確認に係る計装設備に関する手順は「1.15 事故時の計装に関する手順等」のうち、1.15.2「重大事故等時の手順等」にて整備する。</p> <p>(5) 優先順位</p> <p>交流動力電源及び原子炉補機冷却機能が健全な場合において、炉心の著しい損傷が発生した場合、格納容器の圧力及び温度を低下させる手段として、格納容器スプレイ、格納容器内自然対流冷却及び代替格納容器スプレイの3つの手段がある。格納容器圧力が格納容器スプレイ作動設定値(196kPa [gage])以上にて格納容器スプレイポンプに</p>	<p>作手順は、「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1) b. (e)「原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ」にて整備する。</p> <p>なお、操作に係る移動経路、操作場所に高線量の区域はない。</p> <p>(4) その他の手順項目にて考慮する手順</p> <p>可搬型格納容器内水素濃度計測ユニットによる格納容器内水素濃度監視操作手順は、「1.9 水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための手順等」のうち、1.9.2.1(2) a.「可搬型格納容器内水素濃度計測ユニット」にて整備する。</p> <p>燃料取替用水ピットの枯渇又は破損時の対応手順は、「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手段手順等」のうち、1.13.2.3「格納容器スプレイのための代替手段及び燃料取替用水ピットへの供給に係る手順等」にて整備する。</p> <p>操作の判断及び確認に係る計装設備に関する手順は、「1.15 事故時の計装に関する手順等」のうち、1.15.2「重大事故等時の手順等」にて整備する。</p> <p>(5) 優先順位</p> <p>交流動力電源及び原子炉補機冷却機能が健全な場合において、炉心の著しい損傷が発生した場合、格納容器の圧力及び温度を低下させる手段として、格納容器スプレイ、格納容器内自然対流冷却及び代替格納容器スプレイの3つの手段がある。格納容器圧力が格納容器作動設定値(0.127MPa[gage])以上にて格納容器スプレイポンプによ</p>		<p>設備の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪 3/4号炉は、可搬式代替低圧注水ポンプを重大事故等対処設備として整理しているため、電源車（可搬式代替低圧注水ポンプ用）、送水車及び大容量ポンプへの燃料補給について記載している。（設備の相違（差異理由①）参照）</li> </ul> <p>記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪 3/4号炉の可搬型格納容器水素ガス濃度計による格納容器内水素濃度監視操作手順は1.9.2.1(2) a.「可搬型格納容器水素ガス濃度計」に整備しており、泊3号炉と相違なし。</li> </ul> <p>設備の相違（差異理由③）</p> <p>記載方針の相違（差異理由③）</p> <p>設備の相違（差異理由⑦）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大阪発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<p>より格納容器にスプレイされていることを確認する。ただし、格納容器内自然対流冷却及び格納容器スプレイが行われていない場合は、格納容器スプレイを実施する。また、継続的な冷却及び格納容器内の重要機器の水没を未然に防止する観点から、格納容器圧力が<b>格納容器スプレイ作動設定値(196kPa [gage])</b>以上で格納容器内自然対流冷却の準備作業を開始し、準備が完了すれば格納容器内自然対流冷却を開始する。格納容器内自然対流冷却の手段が使用できるまでの間に、格納容器圧力が<b>最高使用圧力(392kPa [gage])</b>以上となる場合は代替格納容器スプレイを行う。格納容器内自然対流冷却を開始すれば格納容器圧力を監視し、状況に応じて代替格納容器スプレイを行う。</p> <p>代替格納容器スプレイの優先順位は、<b>恒設代替低圧注水ポンプ、電動消火ポンプ又はディーゼル消火ポンプ、可搬式代替低圧注水ポンプ</b>の順で使用する。</p> <p>詳細には、<b>恒設代替低圧注水ポンプ</b>による格納容器内へのスプレイができない場合は、常用母線が健全であれば<b>電動消火ポンプ</b>を使用し、電動消火ポンプが使用できなければ<b>ディーゼル消火ポンプ</b>を使用する。ただし、構内で火災が発生した場合においては、消火活動に優先して使用する。<b>可搬式代替低圧注水ポンプ</b>は<b>恒設代替低圧注水ポンプ</b>による代替格納容器スプレイの使用と並行して準備を開始し、<b>電動消火ポンプ又はディーゼル消火ポンプ</b>による格納容器へのスプレイができない場合に使用する。</p> <p>以上の対応手順のフローチャートを第1.7.3図に示す。</p>	<p>る格納容器にスプレイされていることを確認する。ただし、格納容器内自然対流冷却による<b>格納容器の冷却</b>及び格納容器スプレイが行われていない場合は、格納容器スプレイを実施する。また、継続的な冷却及び格納容器内の重要機器の水没を未然に防止する観点から、格納容器圧力が<b>格納容器スプレイ作動設定値(0.127MPa[gage])</b>以上で格納容器内自然対流冷却の準備作業を開始し、準備が完了すれば格納容器内自然対流冷却を開始する。格納容器内自然対流冷却の手段が使用できるまでの間に、格納容器圧力が<b>最高使用圧力(0.283MPa[gage])</b>以上に達した場合は代替格納容器スプレイを行う。格納容器内自然対流冷却を開始すれば格納容器圧力を監視し、状況に応じて代替格納容器スプレイを行う。</p> <p>代替格納容器スプレイの優先順位は、<b>代替格納容器スプレイポンプ、電動機駆動消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプ、可搬型大型送水ポンプ車</b>の順で使用する。</p> <p>詳細には、<b>代替格納容器スプレイポンプ</b>による格納容器内へのスプレイができない場合は、常用母線が健全であれば<b>電動機駆動消火ポンプ</b>を使用し、<b>電動機駆動消火ポンプ</b>が使用できなければ<b>ディーゼル駆動消火ポンプ</b>を使用する。ただし、<b>重大事故等対処に悪影響を与える火災</b>が発生していないことを確認して使用する。<b>可搬型大型送水ポンプ車</b>は、使用準備に時間を要することから、代替格納容器スプレイポンプによる代替格納容器スプレイが使用できない場合に<b>電動機駆動消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプ</b>による代替格納容器スプレイの使用と並行して準備を開始し、<b>電動機駆動消火ポンプ及びディーゼル駆動消火ポンプ</b>による格納容器へのスプレイができない場合に使用する。</p> <p><b>可搬型大型送水ポンプ車</b>による代替格納容器スプレイのための水源は、水源切替による注水の中断が発生しない海水を優先して使用し、海水取水箇所へのアクセスに時間を要する場合には、準備時間が最も短い代替給水ピットを使用する。海水の取水ができない場合は、保有水量が大きい原水槽を使用する。原水槽への補給は、2次系純水タンク又はろ過水タンクから移送することにより行う。ただし、ろ過水タンクは、<b>重大事故等対処に悪影響を与える火災</b>の発生がない場合に使用する。</p> <p>以上の対応手順のフローチャートを第1.7.4図に示す。</p>	<p>記載表現の相違</p> <p>設備の相違（差異理由⑦）</p> <p>設備の相違（差異理由⑦）</p> <p>設備の相違（差異理由①）</p> <p>記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消火設備は消火活動に優先して使用する手順に相違なし。</li> </ul> <p>設備の相違（差異理由①）</p> <p>運用の相違（差異理由①）</p> <p>設備の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊3号炉の可搬型大型送水ポンプ車は、淡水又は海水から直接格納容器へスプレイできることから、すべての水源を使用した手順の優先順位を記載している。（設備の相違（差異理由①）参照）</li> </ul>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大阪発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<p>1.7.2.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失時の手順等</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能が喪失した場合、格納容器内の圧力及び温度を低下させるために、以下の手段を用いた手順を整備する。</p> <p>なお、全交流動力電源が喪失している場合は、空冷式非常用発電装置により交流動力電源を確保する。</p> <p>(1) 格納容器内自然対流冷却</p> <p>a. 大容量ポンプを用いたA、D格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却機能喪失による格納容器スプレイポンプの機能が喪失した場合、格納容器の圧力及び温度を低下させるため、大容量ポンプ及びA、D格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却を行う手順を整備する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準</p> <p>全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能が喪失している場合に、原子炉補機冷却機能が喪失し、原子炉補機冷却水の通水を、原子炉補機冷却水供給母管流量等にて確認できない場合。</p> <p>(b) 操作手順</p> <p>大容量ポンプを用いたA、D格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却手順の概要は以下のとおり。手順内の可搬型格納容器水素ガス濃度計による格納容器内水素濃度監視操作手順は「1.9 水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための手順等」のうち1.9.2.1(2)「水素濃度監視」にて整備する。また、概略系統を第1.7.4図に、タイムチャートを第1.7.5図に、ホース敷設ルートを第1.7.6図に示す。</p> <p>① 当直課長は、手順着手の判断基準に基づき発電所対策本部長に大容量ポンプによるA、D格納容器再循環ユニットへの海水通水準備作業を指示する。</p> <p>② 発電所対策本部長は、緊急安全対策要員に大容量ポンプによるA、D格納容器再循環ユニットへの海水通水準備作業と系統構成を指示する。</p>	<p>1.7.2.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失時の手順等</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却機能が喪失した場合、格納容器内の圧力及び温度を低下させるために、以下の手段を用いた手順を整備する。</p> <p>なお、全交流動力電源が喪失している場合は、代替非常用発電機により交流動力電源を確保する。</p> <p>(1) 格納容器内自然対流冷却</p> <p>a. 可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却機能喪失による格納容器スプレイポンプの機能が喪失した場合、格納容器の圧力及び温度を低下させるため、可搬型大型送水ポンプ車及びC、D格納容器再循環ユニットで格納容器内自然対流冷却を行う手順を整備する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準</p> <p>全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却機能喪失が発生した場合。</p> <p>(b) 操作手順</p> <p>可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却手順の概要は以下のとおり。手順内の可搬型格納容器内水素濃度計測ユニットによる格納容器内水素濃度監視操作手順は、「1.9 水素爆発による原子炉格納容器の破損を防止するための手順等」のうち、1.9.2.1(2) a. 「可搬型格納容器内水素濃度計測ユニット」にて整備する。概略系統を第1.7.5図に、タイムチャートを第1.7.6図に、ホース敷設ルートを第1.7.7図に示す。</p> <p>① 発電課長（当直）は、手順着手の判断基準に基づき、運転員及び災害対策要員に可搬型大型送水ポンプ車によるC、D格納容器再循環ユニットへの海水通水準備作業と系統構成を指示する。</p>		<p>差異理由</p> <p>記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪3/4号炉では、「原子炉補機冷却機能が喪失し、原子炉補機冷却水の通水を、原子炉補機冷却水供給母管流量等にて確認できない場合」と原子炉補機冷却機能喪失を確認するための監視計器を記載しているが、泊3号炉では、監視計器一覧に記載している。</li> </ul> <p>記載表現の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪3/4号炉の可搬型格納容器水素ガス濃度計による格納容器内水素濃度監視操作手順は1.9.2.1(2) a. 「可搬型格納容器水素ガス濃度計」に整備しており、泊3号炉と相違なし</li> </ul>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大阪発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<p>③ 緊急安全対策要員は、現場でA、D格納容器再循環ユニット冷却水入口及び出口配管に冷却状態監視のため、可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度／出口温度（SA）用）を取り付ける。ただし、入口配管への計測装置取付けは、中央制御室で格納容器再循環ユニットの冷却水の温度監視ができない場合に実施する。</p> <p>④ 緊急安全対策要員は、中央制御室及び現場で大容量ポンプによるA、D格納容器再循環ユニットへの海水通水のための系統構成を実施する。</p> <p>⑤ 緊急安全対策要員は、現場で大容量ポンプの保管場所へ移動し、大容量ポンプを所定の位置に配置する。</p> <p>⑥ 緊急安全対策要員は、現場で可搬型ホース、水中ポンプ、その他付属品等の保管場所へ移動し、必要数を車両に積み込み、所定の位置に搬送し接続する。水中ポンプは、ユニッククレーンにて所定の位置へ吊り降ろす。</p> <p>⑦ 緊急安全対策要員は、現場でA海水系と原子炉補機冷却水系を接続するディスタンスピース取替えを実施する。</p> <p>⑧ 当直課長は、格納容器圧力が196kPa [gage]まで上昇したことを確認すれば、発電所対策本部長に大容量ポンプを起動し海水供給の開始を指示する。</p> <p>⑨ 発電所対策本部長は、緊急安全対策要員に大容量ポンプを起動し海水供給の開始及び冷却水の温度監視を指示する。</p> <p>⑩ 緊急安全対策要員は、現場で大容量ポンプを起動し、海水を供給する。</p> <p>⑪ 緊急安全対策要員は、現場でA、D格納容器再循環ユニット冷却水流量により海水が通水されていることを</p>	<p>② 運転員は、中央制御室及び現場で可搬型大型送水ポンプ車によるC、D-格納容器再循環ユニットへの海水通水のため、原子炉補機冷却水系統の系統構成を実施する。</p> <p>③ 災害対策要員は、資機材の保管場所へ移動し、可搬型大型送水ポンプ車及び可搬型ホースを所定の位置に移動する。</p> <p>④ 災害対策要員は、可搬型ホースを敷設し、原子炉補機冷却水系統のホース接続口と接続する。</p> <p>⑤ 災害対策要員は、ホース延長・回収車にて可搬型ホースを敷設する。</p> <p>⑥ 災害対策要員は、海水取水箇所近傍に可搬型大型送水ポンプ車を設置する。</p> <p>⑦ 災害対策要員は、可搬型大型送水ポンプ車から水中ポンプを取り出し、可搬型ホースと接続後、海水取水箇所に水中ポンプを水面より低く、かつ着底しない位置に設置する。</p> <p>⑧ 運転員は、現場でC、D-格納容器再循環ユニット冷却水入口及び出口配管に冷却状態監視のため、可搬型温度計測装置を取り付ける。</p> <p>⑨ 発電課長（当直）は、補機冷却水（海水）通水が可能となり、かつ格納容器圧力が0.127MPa [gage]まで上昇したことを確認すれば、運転員及び災害対策要員にC、D-格納容器再循環ユニットへ可搬型大型送水ポンプ車による海水通水開始を指示する。</p> <p>⑩ 発電課長（当直）は、運転員に冷却水の温度監視を指示する。</p> <p>⑪ 災害対策要員は、現場で可搬型大型送水ポンプ車を起動し、原子炉補機冷却水系統への海水通水を開始するとともに、可搬型大型送水ポンプ車の運転状態に異常がないことを確認する。</p> <p>⑫ 運転員は、中央制御室及び現場で原子炉補機冷却水系統の弁を開操作し、C、D-格納容器再循環ユニットへ</p>		<p>記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大阪 3/4 号炉は入口配管側の可搬型温度計（SA）については、中央制御室で監視できない場合に取付ける手順としている。</li> <li>泊 3 号炉は、本手順では入口配管側・出口配管側両方に可搬型温度計（SA）を取り付ける手順としている。</li> <li>大阪 3/4 号炉も本手順②では「可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度／出口温度（SA）用）」にて格納容器再循環ユニットの冷却水温度を監視する手順としており、温度監視手順に相違なし。</li> </ul> <p>設備の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大阪 3/4 号炉は、海水系母管を経由して原子炉補機冷却水系へ代替補機冷却水を供給する手順であり、系統間を接続するためにディスタンスピースの取替え作業が必要。</li> <li>泊 3 号炉は、海水系母管を経由しない手順であり、原子炉補機冷却水系へ直接代替補機冷却水を供給することから、系統間の接続作業は必要ない。</li> </ul> <p>設備の相違（差異理由⑦）</p> <p>記載表現の相違</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大阪発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<p>確認する。</p> <p>⑫ 緊急安全対策要員は、現場で可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度／出口温度（SA）用）によりA、D格納容器再循環ユニットの冷却水温度を確認し、運転員等へ連絡する。</p> <p>⑬ 運転員等は、中央制御室でA、D格納容器再循環ユニット冷却水出入口温度差、格納容器圧力及び温度の低下等により、格納容器が冷却状態であることを継続して確認する。</p> <p>⑭ 運転員等は、中央制御室で格納容器圧力が最高使用圧力から50kPa低下したことを確認すれば、現場にてA、D格納容器再循環ユニット冷却水入口弁を手動で閉操作する。</p> <p>なお、空冷式非常用発電装置により給電されていれば、中央制御室で、A、D格納容器再循環ユニット冷却水入口弁の閉操作により海水の通水を停止する。ただし、水素濃度は、可搬型格納容器水素ガス濃度計で計測される水素濃度（ドライ）により継続的に監視を行い、測定による水素濃度が8vol%（ドライ）未満であれば減圧を継続する。</p> <p>⑮ 緊急安全対策要員は、現場で大容量ポンプの運転状態を継続して監視し、定格負荷運転時における給油間隔を目安に燃料の給油を実施する（燃料を給油しない場合、大容量ポンプは約3.1時間の運転が可能。）</p> <p>(c) 操作の成立性                  上記の対応は中央制御室にて運転員等1名、中央制御室及び現場にて緊急安全対策要員20名により作業を実施し、所要時間は約8時間と想定する。                  円滑に作業できるように、移動経路を確保し、可搬型照明、通信設備等を整備する。操作に係る移動経路及び作業場所に高線量の区域はない。                  また、大容量ポンプによる格納容器内自然対流冷却に係る可搬型ホース等の接続については速やかに作業ができるように大容量ポンプの保管場所に使用工具及び可搬型ホースを配備する。周囲温度は外気温度と同程度である。                  ディスタンスピース取替えについては速やかに作業ができるよう作業場所近傍に使用工具を配備する。室温は通常運転状態と同程度である。</p> <p>(添付資料 1.7.6、1.7.7)</p>	<p>海水通水を開始する。また、現場で格納容器再循環ユニット補機冷却水流量により海水が通水されていることを確認する。</p> <p>⑬ 運転員は、現場にて可搬型温度計測装置によりC、D一格納容器再循環ユニットの冷却水温度を確認する。</p> <p>⑭ 運転員は、中央制御室にてC、D一格納容器再循環ユニット冷却水出入口温度差、格納容器圧力及び温度の低下等により、格納容器内が冷却状態であることを継続して確認する。</p> <p>⑮ 運転員は、中央制御室で格納容器圧力が最高使用圧力から0.05MPa低下したことを確認すれば、現場でC、D一格納容器再循環ユニット冷却水入口弁を手動で閉操作する。</p> <p>なお、代替非常用発電機により給電されていれば、中央制御室でC、D一格納容器再循環ユニット冷却水入口弁の閉操作により海水の通水を停止する。ただし、水素濃度は、可搬型格納容器内水素濃度計測ユニットで計測される水素濃度（ドライ）により継続的に監視を行い、測定による水素濃度が8vol%（ドライ）未満であれば減圧を継続する。</p> <p>⑯ 災害対策要員は、現場で可搬型大型送水ポンプ車の運転状態を継続して監視し、定格負荷運転時における燃料補給間隔を目安に燃料補給を実施する。（燃料補給しない場合、可搬型大型送水ポンプ車は約5.5時間の運転が可能。）</p> <p>(c) 操作の成立性                  上記の対応は、中央制御室にて運転員1名、現場は運転員2名及び災害対策要員3名により作業を実施し、所要時間は約4時間35分と想定する。                  追而                  円滑に作業ができるように、移動経路を確保し、可搬型照明、通信設備等を整備する。操作に係る移動経路、作業場所に高線量の区域はない。また、作業環境の周囲温度は通常運転状態と同程度である。                  可搬型大型送水ポンプ車による格納容器内自然対流冷却に係る可搬型ホースの接続については速やかに作業ができるように可搬型大型送水ポンプ車の保管場所及び作業場所近傍に可搬型ホースを配備するとともに、作業場所近傍に使用工具を配備する。</p> <p>(添付資料 1.7.6、1.7.8)</p>	<p>設備の相違                  ・燃費の相違</p> <p>記載表現の相違                  ・記載の順番及び表現は異なるが、内容に相違なし。</p> <p>設備の相違                  ・大阪3/4号炉は、海水系母管を経由して原子炉補機冷却水系へ代替補機冷却水を供給する手順であり、系統間を接続するためにディスタンスピースの取替え作業が必要。                  ・泊3号炉は、海水系母管を経由しない手</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<p>(2) 代替格納容器スプレイ</p> <p>a. 恒設代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能が喪失した場合、格納容器の圧力及び温度を低下させるため、<b>恒設代替低圧注水ポンプ</b>により燃料取替用水ピット水を格納容器内へスプレイする手順を整備する。</p> <p><b>恒設代替低圧注水ポンプ</b>の水源として、燃料取替用水ピットが使用できない場合は、<b>復水ピット</b>を使用する。</p> <p>炉心損傷後に恒設代替低圧注水ポンプによる代替炉心注水（落下遅延・防止）を実施していた場合に、代替格納容器スプレイが必要と判断すれば、<b>恒設代替低圧注水ポンプ</b>の注水先を原子炉から格納容器へ切り替え、代替格納容器スプレイを行う手順を整備する。</p>	<p>なお、想定される重大事故等のうち「大破断LOCA時に低圧注入機能、高圧注入機能及び格納容器スプレイ注入機能が喪失する事故」等発生時は炉心溶融が起こり、可搬型ホース敷設及び可搬型大型送水ポンプ車準備における線量が高くなり、作業員の被ばくが懸念される。これらの作業における対応手順、所要時間、格納容器からの漏えい率及びアニュラス空気浄化設備等から被ばく評価した結果、作業員の被ばく線量は100mSvを下回る。                      （添付資料 1.7.7）</p> <p>(2) 代替格納容器スプレイ</p> <p>a. 代替格納容器スプレイポンプによる代替格納容器スプレイ</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却機能が喪失した場合、格納容器の圧力及び温度を低下させるため、<b>代替格納容器スプレイポンプ</b>により燃料取替用水ピット水を格納容器内へスプレイする手順を整備する。</p> <p><b>代替格納容器スプレイポンプ</b>の水源として、燃料取替用水ピットが使用できない場合は、<b>補助給水ピット</b>を使用する。</p> <p>炉心損傷後に代替格納容器スプレイポンプによる代替炉心注水（落下遅延・防止）を実施していた場合に、代替格納容器スプレイが必要と判断すれば、<b>代替格納容器スプレイポンプ</b>の注水先を原子炉から格納容器へ切り替え、代替格納容器スプレイを行う手順を整備する。</p>		<p>差異理由</p> <p>順であり、原子炉補機冷却水系へ直接代替補機冷却水を供給することから、系統間の接続作業は必要ない。</p> <p>記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊3号炉は、屋外作業員に対する被ばく評価対象の屋外作業を「燃料取替用水ピットへの補給（海水）」、「使用済燃料ピットへの注水確保（海水）」及び「原子炉補機冷却水系への通水確保（海水）」としていることから、「原子炉補機冷却水系への通水確保（海水）」の手順を整備している技術的能力 1.7 まとめ資料に被ばく評価に関する資料を添付している。</li> </ul>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大阪発電所3 / 4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<p>(a) 手順着手の判断基準                      原子炉補機冷却機能が喪失し、原子炉補機冷却水の通水を、原子炉補機冷却水供給母管流量等にて確認できない場合に、格納容器最高使用圧力(392kPa [gage])以上で、格納容器へスプレイするために必要な燃料取替用水ピット等の水位が確保されている場合。</p> <p>(b) 操作手順                      代替格納容器スプレイの操作手順は、「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(2)a.(a)「恒設代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。                      なお、操作に係る移動経路及び操作場所に高線量の区域はない。</p> <p>b. ディーゼル消火ポンプによる代替格納容器スプレイ                      炉心の著しい損傷が発生した場合において、全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能が喪失した場合に、恒設代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイができない場合、常用設備であるディーゼル消火ポンプによりNo. 2淡水タンク水を格納容器内へスプレイする手順を整備する。                      使用に際しては、重大事故等対処に悪影響を与える火災が発生していないことを確認して使用する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準                      恒設代替低圧注水ポンプの故障等により、格納容器へのスプレイがA格納容器スプレイ流量等にて確認できない場合に、格納容器へスプレイするために必要なNo. 2淡水タンクの水位が確保されており、重大事故等対処に悪影響を与える火災が発生しておらず、消火用として消火ポンプの必要がない場合。</p> <p>(b) 操作手順                      ディーゼル消火ポンプによる代替格納容器スプレイの操作手順は、「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(2)a.(b)「ディーゼル消火ポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。                      なお、操作に係る移動経路及び操作場所に高線量の区域はない。</p>	<p>(a) 手順着手の判断基準                      全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却機能が喪失時に、格納容器最高使用圧力(0.283MPa [gage])以上かつ、格納容器内自然対流冷却により格納容器内が冷却状態であることを格納容器圧力等で確認できない場合に、格納容器へスプレイするために必要な燃料取替用水ピット等の水位が確保されている場合。</p> <p>(b) 操作手順                      代替格納容器スプレイの操作手順は、「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(a)「代替格納容器スプレイポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。                      なお、操作に係る移動経路、操作場所に高線量の区域はない。                      【比較のため再掲（比較表p.1.7-22,23より）】</p> <p>c. ディーゼル駆動消火ポンプによる代替格納容器スプレイ                      炉心の著しい損傷が発生した場合において、全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却機能が喪失した場合に、B-格納容器スプレイポンプ（自己冷却）による代替格納容器スプレイができない場合、常用設備であるディーゼル駆動消火ポンプによりろ過水タンク水を格納容器内へスプレイする手順を整備する。                      使用に際しては、重大事故等対処に悪影響を与える火災が発生していないことを確認して使用する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準                      B-格納容器スプレイポンプ（自己冷却）の故障等により、格納容器へのスプレイをB-格納容器スプレイ流量等にて確認できない場合かつ、格納容器内自然対流冷却により格納容器内が冷却状態であることを格納容器圧力等で確認できない場合に、格納容器へスプレイするために必要なろ過水タンクの水位が確保されており、重大事故等対処に悪影響を与える火災が発生しておらず、消火用として消火ポンプの必要がない場合。</p> <p>(b) 操作手順                      ディーゼル駆動消火ポンプによる代替格納容器スプレイ操作手順は、「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(b)「電動機駆動消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。ただし、電動機駆動消火ポンプは、常用母線に電源がなく起動できないため除く。                      なお、操作に係る移動経路、操作場所に高線量の区域はない。</p>	<p>記載表現の相違                      ・「全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却機能が喪失時」の対応手順であることに相違なし。                      設備の相違（差異理由①）                      記載方針の相違（差異理由②）</p> <p>記載箇所の相違                      ・大阪3/4号との比較のため、泊3号炉の操作手順を再掲。</p> <p>運用の相違（差異理由①）</p> <p>運用の相違（差異理由①）</p> <p>記載方針の相違（差異理由②）</p> <p>記載方針の相違                      ・大阪3/4の最終的なリンク先は、泊3号炉と相違なし。                      ・泊3号炉は、操作手順へ直接リンクさせる記載としている。</p>	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大阪発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<p>c. <b>A格納容器スプレイポンプ（自己冷却）</b>による代替格納容器スプレイ                      炉心の著しい損傷が発生した場合において、全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能が喪失した場合に、<b>ディーゼル消火ポンプ</b>による代替格納容器スプレイができない場合、<b>A格納容器スプレイポンプ（自己冷却）</b>により燃料取替用水ピット水を格納容器内へスプレイする手順を整備する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準  <b>ディーゼル消火ポンプの故障等</b>により、格納容器へのスプレイが<b>A格納容器スプレイ流量等</b>にて確認できない場合に、格納容器へスプレイするために必要な燃料取替用水ピットの水位が確保されている場合。</p> <p>(b) 操作手順  <b>A格納容器スプレイポンプ（自己冷却）</b>による代替格納容器スプレイの操作手順は、「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(2)a.(c)「<b>A格納容器スプレイポンプ（自己冷却）</b>による代替格納容器スプレイ」にて整備する。                      なお、操作に係る移動経路及び操作場所に高線量の区域はない。</p>	<p>b. <b>B格納容器スプレイポンプ（自己冷却）</b>による代替格納容器スプレイ                      炉心の著しい損傷が発生した場合において、全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却機能が喪失した場合に、<b>代替格納容器スプレイポンプ</b>による代替格納容器スプレイができない場合、<b>B格納容器スプレイポンプ（自己冷却）</b>により燃料取替用水ピット水を格納容器内へスプレイする手順を整備する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準  <b>代替格納容器スプレイポンプの故障等</b>により、格納容器へのスプレイを<b>代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量等</b>にて確認できない場合及び格納容器内自然対流冷却により格納容器内が冷却状態であることを格納容器圧力等で確認できない場合に、格納容器へスプレイするために必要な燃料取替用水ピットの水位が確保されている場合。</p> <p>(b) 操作手順  <b>B格納容器スプレイポンプ（自己冷却）</b>による代替格納容器スプレイの操作手順は、「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(2) a.(b)「<b>B格納容器スプレイポンプ（自己冷却）</b>による代替格納容器スプレイ」にて整備する。                      なお、操作に係る移動経路、操作場所に高線量の区域はない。                      比較表 p 1.7-21にて比較</p> <p>c. <b>ディーゼル駆動消火ポンプ</b>による代替格納容器スプレイ                      炉心の著しい損傷が発生した場合において、全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却機能が喪失した場合に、<b>B格納容器スプレイポンプ（自己冷却）</b>による代替格納容器スプレイができない場合、常用設備である<b>ディーゼル駆動消火ポンプ</b>によりろ過水タンク水を格納容器内へスプレイする手順を整備する。                      使用に際しては、重大事故等対処に悪影響を与える火災が発生していないことを確認して使用する。</p>		<p>運用の相違（差異理由①）</p> <p>運用の相違（差異理由①）                      設備の相違（差異理由③）                      記載方針の相違（差異理由②）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大阪発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<p>大飯発電所3/4号炉</p> <p>d. 可搬式代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレ イ 炉心の著しい損傷が発生した場合において、全交流動力 電源又は原子炉補機冷却機能が喪失した場合に、<b>A格納容 器スプレイポンプ（自己冷却）</b>による代替格納容器スプレ イができない場合、可搬式代替低圧注水ポンプにより海水 を格納容器内へスプレイする手順を整備する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準 恒設代替低圧注水ポンプによる格納容器へのスプレ イが必要となった場合。</p> <p>(b) 操作手順 可搬式代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレ イの操作手順は、「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のため の手順等」のうち、1.6.2.2(2)a.(d)「<b>可搬式代替低圧注水 ポンプによる代替格納容器スプレイ</b>」にて整備する。</p> <p>なお、操作に係る移動経路及び操作場所に高線量の区域 はない。</p>	<p>泊発電所3号炉</p> <p>比較表 p.1.7-21にて比較</p> <p>(a) 手順着手の判断基準 B-格納容器スプレイポンプ（自己冷却）の故障等によ り、格納容器へのスプレイをB-格納容器スプレイ流量等 にて確認できない場合かつ、格納容器内自然対流冷却によ り格納容器内が冷却状態であることを格納容器圧力等で 確認できない場合に、格納容器へスプレイするために必要 なる過水タンクの水位が確保されており、重大事故等対処 に悪影響を与える火災が発生しておらず、消火用として消 火ポンプの必要がない場合。</p> <p>(b) 操作手順 ディーゼル駆動消火ポンプによる代替格納容器スプレ イ操作手順は、「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のため の手順等」のうち、1.6.2.2(1) b. (b)「<b>電動機駆動消火ポン プ又はディーゼル駆動消火ポンプによる代替格納容器ス プレイ</b>」にて整備する。ただし、電動機駆動消火ポンプは、 常用母線に電源がなく起動できないため除く。 なお、操作に係る移動経路、操作場所に高線量の区域は ない。</p> <p>d. 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による代替格納 容器スプレイ 炉心の著しい損傷が発生した場合において、全交流動力 電源喪失又は原子炉補機冷却機能が喪失した場合に、<b>ディ ーゼル駆動消火ポンプ</b>による代替格納容器スプレイがで きない場合、可搬型大型送水ポンプ車により海水を格納容 器内へスプレイする手順を整備する。</p> <p>(a) 手順着手の判断基準 B-格納容器スプレイポンプ（自己冷却）の故障等によ り、格納容器へのスプレイをB-格納容器スプレイ流量等 にて確認できない場合及び格納容器内自然対流冷却によ り格納容器内が冷却状態であることを格納容器圧力等で 確認できない場合。</p> <p>(b) 操作手順 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による代替格納 容器スプレイの操作手順は、「1.6 原子炉格納容器内の冷 却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1) b. (c)「<b>海水を 用いた可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレ イ</b>」にて整備する。 なお、操作に係る移動経路、操作場所に高線量の区域は ない。</p>	<p>女川発電所2号炉</p>	<p>差異理由</p> <p>設備の相違（差異理由①）</p> <p>運用の相違（差異理由①）</p> <p>設備の相違（差異理由⑨）</p> <p>記載方針の相違（差異理由②）</p> <p>設備の相違（差異理由①）</p>



1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<p>(3) その他の手順項目にて考慮する手順</p> <p>電源車（可搬式代替低圧注水ポンプ用）、大容量ポンプへの燃料補給の手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.4(1)「電源車（可搬式代替低圧注水ポンプ用）、大容量ポンプへの燃料補給」にて整備する。</p> <p>空冷式非常用発電装置の代替電源に関する手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」のうち、1.14.2.1(i)「空冷式非常用発電装置による代替電源（交流）からの給電」にて整備する。また、空冷式非常用発電装置への燃料補給の手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」のうち、1.14.2.4(1)「空冷式非常用発電装置等への燃料（重油）補給」にて整備する。</p> <p>送水車への燃料補給の手順は「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.4(2)「送水車への燃料補給」にて整備する。</p> <p>燃料取替用水ピットの枯渇又は破損時の復水ピットからの補給手順は「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手順等」のうち、1.13.2.3(2)「燃料取替用水ピットから復水ピットへの水源切替」にて整備する。</p> <p>操作の判断及び確認に係る計装設備に関する手順は「1.15 事故時の計装に関する手順等」のうち、1.15.2「重大事故等時の手順等」にて整備する。</p>	<p>(b) 操作手順</p> <p>原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイの操作手順は、「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1) b. (e)「原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ」にて整備する。</p> <p>なお、操作に係る移動経路、操作場所に高線量の区域はない。</p> <p>(3) その他の手順項目にて考慮する手順</p> <p>可搬型大型送水ポンプ車への燃料補給の手順は、「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手段手順等」のうち、1.13.2.8「可搬型大型送水ポンプ車への燃料補給の手順等」にて整備する。</p> <p>代替非常用発電機の代替電源に関する手順は、「1.14 電源の確保に関する手順等」のうち、1.14.2.1(1)「代替非常用発電機による代替電源（交流）からの給電」にて整備する。また、代替非常用発電機への燃料補給の手順は、「1.14 電源の確保に関する手順等」のうち、1.14.2.4「代替非常用発電機等への燃料補給の手順等」にて整備する。</p> <p>燃料取替用水ピットの枯渇又は破損時の対応手順は、「1.13 重大事故等の収束に必要な水の供給手段手順等」のうち、1.13.2.3「格納容器スプレイのための代替手段及び燃料取替用水ピットへの供給に係る手段等」にて整備する。</p> <p>操作の判断及び確認に係る計装設備に関する手順は、「1.15 事故時の計装に関する手順等」のうち、1.15.2「重大事故等時の手順等」にて整備する。</p>	<p>設備の相違（差異理由①）                  記載方針の相違（差異理由④）</p> <p>記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯3/4号炉は、設備によって重油又は軽油を使用することから、補給する燃料を明確にしている。</li> <li>・泊3号炉は、重大事故等時に使用する設備の燃料はすべて軽油のため識別不要。なお、燃料補給の手順を整備する審査項目の本文にて燃料がすべて軽油であることを記載している。</li> </ul> <p>設備の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯3/4号炉の送水車はSA設備のため、燃料補給手順のリンクを記載。（設備の相違（差異理由①）参照）</li> </ul> <p>記載方針の相違（差異理由③）</p>	<p>設備の相違（差異理由①）                  記載方針の相違（差異理由④）</p> <p>記載方針の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯3/4号炉は、設備によって重油又は軽油を使用することから、補給する燃料を明確にしている。</li> <li>・泊3号炉は、重大事故等時に使用する設備の燃料はすべて軽油のため識別不要。なお、燃料補給の手順を整備する審査項目の本文にて燃料がすべて軽油であることを記載している。</li> </ul> <p>設備の相違</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大飯3/4号炉の送水車はSA設備のため、燃料補給手順のリンクを記載。（設備の相違（差異理由①）参照）</li> </ul> <p>記載方針の相違（差異理由③）</p>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<p>(4) 優先順位</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能が喪失した場合、格納容器の圧力及び温度を低下させる手段として、代替格納容器スプレイと大容量ポンプを用いた格納容器内自然対流冷却の2つの手段がある。この手段のうち、継続的な冷却及び格納容器内の重要機器の水没を未然に防止する観点から、大容量ポンプを用いた格納容器内自然対流冷却を優先するが、格納容器内自然対流冷却は準備に約8時間を要することから、この間に格納容器圧力が最高使用圧力(392kPa [gage])以上となる場合は、代替格納容器スプレイを行う。大容量ポンプを用いた格納容器内自然対流冷却を開始すれば格納容器圧力を監視し、状況に応じて代替格納容器スプレイを行う。</p> <p>代替格納容器スプレイの優先順位は、恒設代替低圧注水ポンプ、ディーゼル消火ポンプ、A格納容器スプレイポンプ(自己冷却)、可搬式代替低圧注水ポンプの順で使用する。</p> <p>詳細には、恒設代替低圧注水ポンプによる格納容器内へのスプレイができない場合は、ディーゼル消火ポンプを使用する。ただし、構内で火災が発生した場合には、消火活動に優先して使用する。ディーゼル消火ポンプからの格納容器内へのスプレイ手段を失った場合は、A格納容器スプレイポンプ(自己冷却)を使用する。</p> <p>また、可搬式代替低圧注水ポンプは恒設代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイの使用と並行して準備を開始しA格納容器スプレイポンプ(自己冷却)が使用できない場合に使用する。</p> <p>以上の対応手順のフローチャートを第1.7.7図に示す。</p>	<p>(4) 優先順位</p> <p>炉心の著しい損傷が発生した場合において、全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却機能が喪失した場合、格納容器の圧力及び温度を低下させる手段として、代替格納容器スプレイと可搬型大型送水ポンプ車を用いた格納容器内自然対流冷却の2つの手段がある。この手段のうち、継続的な冷却及び格納容器内の重要機器の水没を未然に防止する観点から、可搬型大型送水ポンプ車を用いた格納容器内自然対流冷却を優先するが、格納容器内自然対流冷却は準備に約4時間35分を要することから、この間に格納容器圧力が最高使用圧力(0.283MPa [gage])以上に達した場合は、代替格納容器スプレイを行う。可搬型大型送水ポンプ車を用いた格納容器内自然対流冷却を開始すれば格納容器圧力を監視し、状況に応じて代替格納容器スプレイを行う。</p> <p>代替格納容器スプレイの優先順位は、代替格納容器スプレイポンプ、B格納容器スプレイポンプ(自己冷却)、ディーゼル駆動消火ポンプ、可搬型大型送水ポンプ車の順で使用する。</p> <p>詳細には、代替格納容器スプレイポンプによる格納容器内へのスプレイができない場合は、B格納容器スプレイポンプ(自己冷却)を使用する。B格納容器スプレイポンプ(自己冷却)からの格納容器内へのスプレイ手段を失った場合は、ディーゼル駆動消火ポンプを使用する。ただし、重大事故等対処に悪影響を与える火災が発生していないことを確認して使用する。</p> <p>また、可搬型大型送水ポンプ車は、使用準備に時間を要することから、B格納容器スプレイポンプ(自己冷却)による代替格納容器スプレイの手段を失った場合に準備を開始し、ディーゼル駆動消火ポンプが使用できない場合に使用する。</p> <p>可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイのための水源は、水源切替による注水の中断が発生しない海水を優先して使用し、海水取水箇所へのアクセスに時間を要する場合には、準備時間が最も短い代替給水ピットを使用する。海水の取水ができない場合は、保有水量が大きい原水槽を使用する。原水槽への補給は、2次系純水タンク又はろ過水タンクから移送することにより行う。ただし、ろ過水タンクは、重大事故等対処に悪影響を与える火災の発生がない場合に使用する。</p> <p>以上の対応手順のフローチャートを第1.7.8図に示す。</p>		<p>設備の相違（差異理由㉑）                  記載表現の相違</p> <p>運用の相違（差異理由㉑）</p> <p>運用の相違（差異理由㉑）                  記載表現の相違                  ・消火設備は消火活動に優先して使用する手順に相違なし。</p> <p>設備の相違（差異理由㉑）                  運用の相違（差異理由㉑）</p> <p>設備の相違                  ・泊3号炉の可搬型大型送水ポンプ車は、淡水又は海水から直接格納容器へスプレイできることから、すべての水源を使用した手順の優先順位を記載している。（設備の相違（差異理由㉑）参照）</p>



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大飯発電所3/4号炉

第1.7.1表 重大事故等時における対応手段と整備する手順 (2/2)

分類	機能喪失を想定する設計基準事故対応設備	対応手段	対応設備	整備する手順書	手順の分類
全交流動力電源又は原子炉冷却機能喪失	-	-	八、D格納容器内循環ヘユニット	格納容器再循環ユニット	S A所定 <sup>1)</sup>
			格納容器内循環再循環装置（格納容器再循環ユニット入口流量/出口流量（S/A）用）	格納容器再循環再循環ユニット	
			大容量ポンプ	大容量ポンプによる原子炉冷却回路の循環	
			燃料冷却ポンプ	燃料冷却ポンプによる原子炉冷却回路の循環	
			重湯タンク <sup>2)</sup>	重湯タンクによる原子炉冷却回路の循環	
			タンクローリー <sup>3)</sup>	タンクローリーによる原子炉冷却回路の循環	
			加圧式代替格納圧注水ポンプ <sup>4)</sup>	加圧式代替格納圧注水ポンプを用いた代替格納圧注水ポンプの手順	
			空冷式代替用発電機 <sup>5)</sup>	空冷式代替用発電機による原子炉冷却回路の循環	
			燃料冷却用水ピット	燃料冷却用水ピットからの注水	
			放水ピット	放水ピットからの注水	
			可搬式代替格納圧注水ポンプ <sup>6)</sup>	可搬式代替格納圧注水ポンプを用いた代替格納圧注水ポンプの手順	
			電源車（可搬式代替格納圧注水ポンプ用）	電源車による原子炉冷却回路の循環	
			応急組立式水塔	応急組立式水塔による原子炉冷却回路の循環	
			送水車	送水車による原子炉冷却回路の循環	
			燃料冷却ポンプ	燃料冷却ポンプによる原子炉冷却回路の循環	
重湯タンク <sup>2)</sup>	重湯タンクによる原子炉冷却回路の循環				
タンクローリー <sup>3)</sup>	タンクローリーによる原子炉冷却回路の循環				
軽油ドランタン <sup>7)</sup>	軽油ドランタンによる原子炉冷却回路の循環				
ディーゼル駆動ポンプ <sup>8)</sup>	ディーゼル駆動ポンプを用いた代替格納圧注水ポンプの手順				
N <sub>2</sub> 、2取水タンク	N <sub>2</sub> 、2取水タンクを用いた代替格納圧注水ポンプの手順				
A格納容器スプレイポンプ（自己冷却） <sup>9)</sup>	A格納容器スプレイポンプを用いた代替格納圧注水ポンプの手順				
燃料冷却用水ピット	燃料冷却用水ピットからの注水				

※1：1号機発電所、重大事故等発生時に原子炉格納容器内の格納圧を維持するための注水の供給に関する規定。  
 ※2：手順は「1.6 原子炉格納容器内の格納圧を維持するための手順等」にて整備する。  
 ※3：手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。  
 ※4：空冷式代替用発電機は燃料供給に使用する。手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。  
 ※5：原水塔への供給は、2号機取水タンクから移送することにより行う。  
 ※6：大容量ポンプの燃料供給に使用する。手順は「1.6 原子炉格納容器内の格納圧を維持するための手順等」にて整備する。  
 ※7：送水車の燃料供給に使用する。手順は「1.6 原子炉格納容器内の格納圧を維持するための手順等」にて整備する。  
 ※8：ディーゼル駆動ポンプは、可搬式タンクローリーによるディーゼル発電機燃料供給設備からの燃料供給が可能な場合に使用する。  
 ※9：重大事故等発生時に用いる設備の分類  
 a：当該本文に記述する重大事故等対応設備 b：27条に適合する重大事故等対応設備 c：自主的対策として整備する重大事故等対応設備

泊発電所3号炉

第1.7.1表 重大事故等時における対応手段と整備する手順 (2/2)

分類	機能喪失を想定する設計基準事故対応設備	対応手段	対応設備	整備する手順書	手順の分類
全交流動力電源又は原子炉冷却機能喪失	-	-	C、D-格納容器再循環ヘユニット	格納容器再循環ユニット	S A所定 <sup>1)</sup>
			可搬式代替格納圧注水ポンプ	可搬式代替格納圧注水ポンプ	
			ディーゼル発電機燃料供給設備 <sup>※6</sup>	ディーゼル発電機燃料供給設備	
			可搬式タンクローリー <sup>※6</sup>	可搬式タンクローリー	
			ディーゼル発電機燃料供給設備 <sup>※6</sup>	ディーゼル発電機燃料供給設備	
			代替格納容器スプレイポンプ <sup>※1</sup>	代替格納容器スプレイポンプ	
			代替格納圧注水ポンプ <sup>※2</sup>	代替格納圧注水ポンプ	
			燃料冷却用水ピット	燃料冷却用水ピット	
			放水ピット	放水ピット	
			ディーゼル発電機燃料供給設備 <sup>※3</sup>	ディーゼル発電機燃料供給設備	
			可搬式タンクローリー <sup>※3</sup>	可搬式タンクローリー	
			ディーゼル発電機燃料供給設備 <sup>※6</sup>	ディーゼル発電機燃料供給設備	
			ディーゼル駆動ポンプ <sup>※1</sup> （自己冷却） <sup>※1</sup>	ディーゼル駆動ポンプ	
			燃料冷却用水ピット	燃料冷却用水ピット	
			ディーゼル駆動ポンプ <sup>※1</sup>	ディーゼル駆動ポンプ	
2号機取水タンク <sup>※5</sup>	2号機取水タンク				
1号機取水タンク <sup>※5</sup>	1号機取水タンク				
可搬式代替格納圧注水ポンプ <sup>※1</sup>	可搬式代替格納圧注水ポンプ				
燃料冷却用水ピット	燃料冷却用水ピット				
可搬式代替格納圧注水ポンプ <sup>※1</sup>	可搬式代替格納圧注水ポンプ				
2号機取水タンク <sup>※5</sup>	2号機取水タンク				
1号機取水タンク <sup>※5</sup>	1号機取水タンク				

※1：手順は「1.6 原子炉格納容器内の格納圧を維持するための手順等」にて整備する。  
 ※2：手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。  
 ※3：代替用発電機は燃料供給に使用する。燃料供給の手順は「1.14 電源の確保に関する手順等」にて整備する。  
 ※4：可搬式代替格納圧注水ポンプは原子炉格納容器ヘスプレイする。  
 ※5：原水塔への供給は、2号機取水タンクから移送することにより行う。  
 ※6：可搬式代替格納圧注水ポンプの燃料供給に使用する。燃料供給の手順は「1.13 重大事故等の発生に必要な水の供給手順等」にて整備する。  
 ※7：ディーゼル発電機燃料供給設備は、可搬式タンクローリーによるディーゼル発電機燃料供給設備からの燃料供給が可能な場合に使用する。  
 ※8：重大事故等発生時に用いる設備の分類  
 a：当該本文に記述する重大事故等対応設備 b：27条に適合する重大事故等対応設備 c：自主的対策として整備する重大事故等対応設備

女川発電所2号炉

差異理由

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由																																																															
<p>第1.7.2表 重大事故等対処に係る監視計器</p> <p>1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等</p> <p>監視計器一覧（1/5）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要な監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の手順等</td> </tr> <tr> <td colspan="3">(1) 格納容器スプレイ</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">a. 格納容器スプレイポンプによる格納容器スプレイ</td> <td rowspan="5">判断基準</td> <td>原子炉圧力容器内の温度</td> <td>・ 炉心出口温度計</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の放射熱量率</td> <td>・ 格納容器内高レンジエリアモニタ（高レンジ）</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>・ 格納容器圧力計（広域） ・ AM用格納容器圧力計</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器への注水量</td> <td>・ 格納容器スプレイ流量計</td> </tr> <tr> <td>水源の確保</td> <td>・ 燃料取替用水ピット水位計</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">操作</td> <td rowspan="5">操作</td> <td>原子炉格納容器内の温度</td> <td>・ 格納容器内温度計</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>・ 格納容器圧力計（広域） ・ AM用格納容器圧力計</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の水位</td> <td>・ 格納容器再循環サンプ水位計（広域） ・ 原子炉格納容器水位計</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器への注水量</td> <td>・ 格納容器スプレイ流量計</td> </tr> <tr> <td>水源の確保</td> <td>・ 燃料取替用水ピット水位計</td> </tr> </tbody> </table>	対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器	1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の手順等			(1) 格納容器スプレイ			a. 格納容器スプレイポンプによる格納容器スプレイ	判断基準	原子炉圧力容器内の温度	・ 炉心出口温度計	原子炉格納容器内の放射熱量率	・ 格納容器内高レンジエリアモニタ（高レンジ）	原子炉格納容器内の圧力	・ 格納容器圧力計（広域） ・ AM用格納容器圧力計	原子炉格納容器への注水量	・ 格納容器スプレイ流量計	水源の確保	・ 燃料取替用水ピット水位計	操作	操作	原子炉格納容器内の温度	・ 格納容器内温度計	原子炉格納容器内の圧力	・ 格納容器圧力計（広域） ・ AM用格納容器圧力計	原子炉格納容器内の水位	・ 格納容器再循環サンプ水位計（広域） ・ 原子炉格納容器水位計	原子炉格納容器への注水量	・ 格納容器スプレイ流量計	水源の確保	・ 燃料取替用水ピット水位計	<p>第1.7.2表 重大事故等対処に係る監視計器</p> <p>1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等</p> <p>監視計器一覧（1/8）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要な監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の手順等</td> </tr> <tr> <td colspan="3">(1) 格納容器スプレイ</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">a. 格納容器スプレイポンプによる格納容器スプレイ</td> <td rowspan="5">判断基準</td> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>・ 原子炉格納容器圧力 ・ 格納容器圧力（AM用）</td> </tr> <tr> <td>水源の確保</td> <td>・ 燃料取替用水ピット水位</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器への注水量</td> <td>・ 格納容器スプレイ流量計 ・ B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量（AM用）</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">操作</td> <td>原子炉格納容器内の温度</td> <td>・ 格納容器内温度</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>・ 原子炉格納容器圧力 ・ 格納容器圧力（AM用）</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">操作</td> <td rowspan="3">操作</td> <td>原子炉格納容器への注水量</td> <td>・ 格納容器スプレイ流量計 ・ B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量（AM用）</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の水位</td> <td>・ 格納容器再循環サンプ水位（広域） ・ 格納容器水位</td> </tr> <tr> <td>水源の確保</td> <td>・ 燃料取替用水ピット水位</td> </tr> </tbody> </table>	対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器	1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の手順等			(1) 格納容器スプレイ			a. 格納容器スプレイポンプによる格納容器スプレイ	判断基準	原子炉格納容器内の圧力	・ 原子炉格納容器圧力 ・ 格納容器圧力（AM用）	水源の確保	・ 燃料取替用水ピット水位	原子炉格納容器への注水量	・ 格納容器スプレイ流量計 ・ B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量（AM用）	操作	原子炉格納容器内の温度	・ 格納容器内温度	原子炉格納容器内の圧力	・ 原子炉格納容器圧力 ・ 格納容器圧力（AM用）	操作	操作	原子炉格納容器への注水量	・ 格納容器スプレイ流量計 ・ B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量（AM用）	原子炉格納容器内の水位	・ 格納容器再循環サンプ水位（広域） ・ 格納容器水位	水源の確保	・ 燃料取替用水ピット水位		
対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器																																																																
1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の手順等																																																																		
(1) 格納容器スプレイ																																																																		
a. 格納容器スプレイポンプによる格納容器スプレイ	判断基準	原子炉圧力容器内の温度	・ 炉心出口温度計																																																															
		原子炉格納容器内の放射熱量率	・ 格納容器内高レンジエリアモニタ（高レンジ）																																																															
		原子炉格納容器内の圧力	・ 格納容器圧力計（広域） ・ AM用格納容器圧力計																																																															
		原子炉格納容器への注水量	・ 格納容器スプレイ流量計																																																															
		水源の確保	・ 燃料取替用水ピット水位計																																																															
操作	操作	原子炉格納容器内の温度	・ 格納容器内温度計																																																															
		原子炉格納容器内の圧力	・ 格納容器圧力計（広域） ・ AM用格納容器圧力計																																																															
		原子炉格納容器内の水位	・ 格納容器再循環サンプ水位計（広域） ・ 原子炉格納容器水位計																																																															
		原子炉格納容器への注水量	・ 格納容器スプレイ流量計																																																															
		水源の確保	・ 燃料取替用水ピット水位計																																																															
対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器																																																																
1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の手順等																																																																		
(1) 格納容器スプレイ																																																																		
a. 格納容器スプレイポンプによる格納容器スプレイ	判断基準	原子炉格納容器内の圧力	・ 原子炉格納容器圧力 ・ 格納容器圧力（AM用）																																																															
		水源の確保	・ 燃料取替用水ピット水位																																																															
		原子炉格納容器への注水量	・ 格納容器スプレイ流量計 ・ B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量（AM用）																																																															
		操作	原子炉格納容器内の温度	・ 格納容器内温度																																																														
			原子炉格納容器内の圧力	・ 原子炉格納容器圧力 ・ 格納容器圧力（AM用）																																																														
操作	操作	原子炉格納容器への注水量	・ 格納容器スプレイ流量計 ・ B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量（AM用）																																																															
		原子炉格納容器内の水位	・ 格納容器再循環サンプ水位（広域） ・ 格納容器水位																																																															
		水源の確保	・ 燃料取替用水ピット水位																																																															

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由																																																				
<p>監視計器一覧（2/5）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要な監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の手順等</td> </tr> <tr> <td colspan="3">(2) 格納容器内自然対流冷却</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">a. A、D格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却</td> <td>原子炉圧力容器内の温度</td> <td>・炉心出口温度計</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の放射線量率</td> <td>・格納容器内高レンジエリアモニタ（高レンジ）</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>・格納容器圧力計（広域） ・AM用格納容器圧力計</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器への注水量</td> <td>・格納容器スプレイ流量計</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">操作</td> <td>原子炉格納容器内の温度</td> <td>・格納容器内温度計</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">最終ヒートシンクの確保</td> <td>・AM用原子炉補機冷却水サージタンク圧力計</td> </tr> <tr> <td>・A、D格納容器再循環ユニット冷却水流量計</td> </tr> <tr> <td>・可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度（SA）用） ・A原子炉補機冷却水冷却器出口温度計（CRT） ・A原子炉補機冷却水戻り母管温度計（CRT）</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の水素濃度</td> <td>・可搬型格納容器水素ガス濃度計</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>・格納容器圧力計（広域） ・AM用格納容器圧力計</td> </tr> </tbody> </table>	対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器	1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の手順等			(2) 格納容器内自然対流冷却			a. A、D格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却	原子炉圧力容器内の温度	・炉心出口温度計	原子炉格納容器内の放射線量率	・格納容器内高レンジエリアモニタ（高レンジ）	原子炉格納容器内の圧力	・格納容器圧力計（広域） ・AM用格納容器圧力計	原子炉格納容器への注水量	・格納容器スプレイ流量計	操作	原子炉格納容器内の温度	・格納容器内温度計	最終ヒートシンクの確保	・AM用原子炉補機冷却水サージタンク圧力計	・A、D格納容器再循環ユニット冷却水流量計	・可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度（SA）用） ・A原子炉補機冷却水冷却器出口温度計（CRT） ・A原子炉補機冷却水戻り母管温度計（CRT）	原子炉格納容器内の水素濃度	・可搬型格納容器水素ガス濃度計	原子炉格納容器内の圧力	・格納容器圧力計（広域） ・AM用格納容器圧力計	<p>監視計器一覧（2/8）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要な監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の手順等</td> </tr> <tr> <td colspan="3">(2) 格納容器内自然対流冷却</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">監視基準</td> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>・原子炉格納容器圧力 ・格納容器圧力（AM用）</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の注水量</td> <td>・格納容器スプレイ流量 ・B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量（AM用）</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">操作</td> <td>原子炉格納容器内の温度</td> <td>・格納容器内温度</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">最終ヒートシンクの確保</td> <td>・原子炉補機冷却水サージタンク圧力（AM用） ・原子炉補機冷却水サージタンク水位 ・C、D-格納容器再循環ユニット補機冷却水流量 ・C、D-原子炉補機冷却水冷却器出口格納冷却水温度 ・B-原子炉補機冷却水戻り母管温度 ・格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>・原子炉格納容器圧力 ・格納容器圧力（AM用）</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の水素濃度</td> <td>・格納容器内水素濃度</td> </tr> </tbody> </table>	対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器	1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の手順等			(2) 格納容器内自然対流冷却			監視基準	原子炉格納容器内の圧力	・原子炉格納容器圧力 ・格納容器圧力（AM用）	原子炉格納容器内の注水量	・格納容器スプレイ流量 ・B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量（AM用）	操作	原子炉格納容器内の温度	・格納容器内温度	最終ヒートシンクの確保	・原子炉補機冷却水サージタンク圧力（AM用） ・原子炉補機冷却水サージタンク水位 ・C、D-格納容器再循環ユニット補機冷却水流量 ・C、D-原子炉補機冷却水冷却器出口格納冷却水温度 ・B-原子炉補機冷却水戻り母管温度 ・格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度	原子炉格納容器内の圧力	・原子炉格納容器圧力 ・格納容器圧力（AM用）	原子炉格納容器内の水素濃度	・格納容器内水素濃度		
対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器																																																					
1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の手順等																																																							
(2) 格納容器内自然対流冷却																																																							
a. A、D格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却	原子炉圧力容器内の温度	・炉心出口温度計																																																					
	原子炉格納容器内の放射線量率	・格納容器内高レンジエリアモニタ（高レンジ）																																																					
	原子炉格納容器内の圧力	・格納容器圧力計（広域） ・AM用格納容器圧力計																																																					
	原子炉格納容器への注水量	・格納容器スプレイ流量計																																																					
操作	原子炉格納容器内の温度	・格納容器内温度計																																																					
	最終ヒートシンクの確保	・AM用原子炉補機冷却水サージタンク圧力計																																																					
		・A、D格納容器再循環ユニット冷却水流量計																																																					
		・可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度（SA）用） ・A原子炉補機冷却水冷却器出口温度計（CRT） ・A原子炉補機冷却水戻り母管温度計（CRT）																																																					
	原子炉格納容器内の水素濃度	・可搬型格納容器水素ガス濃度計																																																					
	原子炉格納容器内の圧力	・格納容器圧力計（広域） ・AM用格納容器圧力計																																																					
対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器																																																					
1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の手順等																																																							
(2) 格納容器内自然対流冷却																																																							
監視基準	原子炉格納容器内の圧力	・原子炉格納容器圧力 ・格納容器圧力（AM用）																																																					
	原子炉格納容器内の注水量	・格納容器スプレイ流量 ・B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量（AM用）																																																					
操作	原子炉格納容器内の温度	・格納容器内温度																																																					
	最終ヒートシンクの確保	・原子炉補機冷却水サージタンク圧力（AM用） ・原子炉補機冷却水サージタンク水位 ・C、D-格納容器再循環ユニット補機冷却水流量 ・C、D-原子炉補機冷却水冷却器出口格納冷却水温度 ・B-原子炉補機冷却水戻り母管温度 ・格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度																																																					
		原子炉格納容器内の圧力	・原子炉格納容器圧力 ・格納容器圧力（AM用）																																																				
		原子炉格納容器内の水素濃度	・格納容器内水素濃度																																																				

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由																																																																																																							
<p>監視計器一覧（3/5）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要な監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能喪失時の手順等 (3) 代替格納容器スプレイ</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">a. 恒設代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ</td> <td rowspan="5">判断基準</td> <td>原子炉压力容器内の温度</td> <td>・炉心出口温度計</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の放射線量率</td> <td>・格納容器内高レンジエアモニタ（高レンジ）</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>・格納容器圧力計（広域） ・AM用格納容器圧力計</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器への注水量</td> <td>・格納容器スプレイ流量計</td> </tr> <tr> <td>水源の確保</td> <td>・燃料取扱用水ビット水位計 ・復水ビット水位計</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">b. 電動消火ポンプ又はディーゼル消火ポンプによる代替格納容器スプレイ</td> <td rowspan="5">判断基準</td> <td>原子炉压力容器内の温度</td> <td>・炉心出口温度計</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の放射線量率</td> <td>・格納容器内高レンジエアモニタ（高レンジ）</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>・格納容器圧力計（広域） ・AM用格納容器圧力計</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器への注水量</td> <td>・A格納容器スプレイ流量計 ・恒設代替低圧注水積算流量計</td> </tr> <tr> <td>水源の確保</td> <td>・No. 2淡水タンク水位計（CRT）</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">c. 可搬式代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ</td> <td rowspan="5">判断基準</td> <td>原子炉压力容器内の温度</td> <td>・炉心出口温度計</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の放射線量率</td> <td>・格納容器内高レンジエアモニタ（高レンジ）</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>・格納容器圧力計（広域） ・AM用格納容器圧力計</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器への注水量</td> <td>・格納容器スプレイ流量計</td> </tr> <tr> <td>操作</td> <td>「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(c)「可搬式代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>泊3号炉との比較対象なし</p> <p>泊3号炉との比較対象なし</p>	対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器	1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能喪失時の手順等 (3) 代替格納容器スプレイ			a. 恒設代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉压力容器内の温度	・炉心出口温度計	原子炉格納容器内の放射線量率	・格納容器内高レンジエアモニタ（高レンジ）	原子炉格納容器内の圧力	・格納容器圧力計（広域） ・AM用格納容器圧力計	原子炉格納容器への注水量	・格納容器スプレイ流量計	水源の確保	・燃料取扱用水ビット水位計 ・復水ビット水位計	b. 電動消火ポンプ又はディーゼル消火ポンプによる代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉压力容器内の温度	・炉心出口温度計	原子炉格納容器内の放射線量率	・格納容器内高レンジエアモニタ（高レンジ）	原子炉格納容器内の圧力	・格納容器圧力計（広域） ・AM用格納容器圧力計	原子炉格納容器への注水量	・A格納容器スプレイ流量計 ・恒設代替低圧注水積算流量計	水源の確保	・No. 2淡水タンク水位計（CRT）	c. 可搬式代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉压力容器内の温度	・炉心出口温度計	原子炉格納容器内の放射線量率	・格納容器内高レンジエアモニタ（高レンジ）	原子炉格納容器内の圧力	・格納容器圧力計（広域） ・AM用格納容器圧力計	原子炉格納容器への注水量	・格納容器スプレイ流量計	操作	「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(c)「可搬式代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。	<p>監視計器一覧（3/8）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要な監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能喪失時の手順等 (3) 代替格納容器スプレイ</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">a. 代替格納容器スプレイポンプによる代替格納容器スプレイ</td> <td rowspan="5">判断基準</td> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>・原子炉格納容器圧力 ・格納容器圧力（AM用） ・格納容器スプレイ流量</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器への注水量</td> <td>・B格納容器スプレイ冷却器出口積算流量（AM用）</td> </tr> <tr> <td>水源の確保</td> <td>・燃料取扱用水ビット水位</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">操作</td> <td>「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(a)「代替格納容器スプレイポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(a)「代替格納容器スプレイポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">b. 電動駆動型消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる代替格納容器スプレイ</td> <td rowspan="5">判断基準</td> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>・原子炉格納容器圧力 ・格納容器圧力（AM用）</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器への注水量</td> <td>・代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量</td> </tr> <tr> <td>水源の確保</td> <td>・ろ過水タンク水位</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">操作</td> <td>「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(b)「電動駆動型消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(b)「電動駆動型消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。</td> </tr> </tbody> </table> <p>監視計器一覧（4/8）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要な監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能喪失時の手順等 (3) 代替格納容器スプレイ</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">c. 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ</td> <td rowspan="5">判断基準</td> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>・原子炉格納容器圧力 ・格納容器圧力（AM用）</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器への注水量</td> <td>・代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">操作</td> <td>「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(c)「海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(c)「海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">d. 代替給水ビットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ</td> <td rowspan="5">判断基準</td> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>・原子炉格納容器圧力 ・格納容器圧力（AM用）</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器への注水量</td> <td>・代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">操作</td> <td>「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(d)「代替給水ビットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(d)「代替給水ビットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">e. 原水種を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ</td> <td rowspan="5">判断基準</td> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>・原子炉格納容器圧力 ・格納容器圧力（AM用）</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器への注水量</td> <td>・代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">操作</td> <td>「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(e)「原水種を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td>「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(e)「原水種を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ」にて整備する。</td> </tr> </tbody> </table>	対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器	1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能喪失時の手順等 (3) 代替格納容器スプレイ			a. 代替格納容器スプレイポンプによる代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉格納容器内の圧力	・原子炉格納容器圧力 ・格納容器圧力（AM用） ・格納容器スプレイ流量	原子炉格納容器への注水量	・B格納容器スプレイ冷却器出口積算流量（AM用）	水源の確保	・燃料取扱用水ビット水位	操作	「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(a)「代替格納容器スプレイポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。	「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(a)「代替格納容器スプレイポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。	b. 電動駆動型消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉格納容器内の圧力	・原子炉格納容器圧力 ・格納容器圧力（AM用）	原子炉格納容器への注水量	・代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量	水源の確保	・ろ過水タンク水位	操作	「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(b)「電動駆動型消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。	「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(b)「電動駆動型消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。	対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器	1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能喪失時の手順等 (3) 代替格納容器スプレイ			c. 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉格納容器内の圧力	・原子炉格納容器圧力 ・格納容器圧力（AM用）	原子炉格納容器への注水量	・代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量	操作	「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(c)「海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ」にて整備する。	「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(c)「海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ」にて整備する。	d. 代替給水ビットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉格納容器内の圧力	・原子炉格納容器圧力 ・格納容器圧力（AM用）	原子炉格納容器への注水量	・代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量	操作	「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(d)「代替給水ビットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ」にて整備する。	「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(d)「代替給水ビットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ」にて整備する。	e. 原水種を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉格納容器内の圧力	・原子炉格納容器圧力 ・格納容器圧力（AM用）	原子炉格納容器への注水量	・代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量	操作	「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(e)「原水種を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ」にて整備する。	「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(e)「原水種を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ」にて整備する。		<p>設備の相違（差異理由①）</p> <p>設備の相違（差異理由①）</p>
対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器																																																																																																								
1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能喪失時の手順等 (3) 代替格納容器スプレイ																																																																																																										
a. 恒設代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉压力容器内の温度	・炉心出口温度計																																																																																																							
		原子炉格納容器内の放射線量率	・格納容器内高レンジエアモニタ（高レンジ）																																																																																																							
		原子炉格納容器内の圧力	・格納容器圧力計（広域） ・AM用格納容器圧力計																																																																																																							
		原子炉格納容器への注水量	・格納容器スプレイ流量計																																																																																																							
		水源の確保	・燃料取扱用水ビット水位計 ・復水ビット水位計																																																																																																							
b. 電動消火ポンプ又はディーゼル消火ポンプによる代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉压力容器内の温度	・炉心出口温度計																																																																																																							
		原子炉格納容器内の放射線量率	・格納容器内高レンジエアモニタ（高レンジ）																																																																																																							
		原子炉格納容器内の圧力	・格納容器圧力計（広域） ・AM用格納容器圧力計																																																																																																							
		原子炉格納容器への注水量	・A格納容器スプレイ流量計 ・恒設代替低圧注水積算流量計																																																																																																							
		水源の確保	・No. 2淡水タンク水位計（CRT）																																																																																																							
c. 可搬式代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉压力容器内の温度	・炉心出口温度計																																																																																																							
		原子炉格納容器内の放射線量率	・格納容器内高レンジエアモニタ（高レンジ）																																																																																																							
		原子炉格納容器内の圧力	・格納容器圧力計（広域） ・AM用格納容器圧力計																																																																																																							
		原子炉格納容器への注水量	・格納容器スプレイ流量計																																																																																																							
		操作	「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(c)「可搬式代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。																																																																																																							
対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器																																																																																																								
1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能喪失時の手順等 (3) 代替格納容器スプレイ																																																																																																										
a. 代替格納容器スプレイポンプによる代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉格納容器内の圧力	・原子炉格納容器圧力 ・格納容器圧力（AM用） ・格納容器スプレイ流量																																																																																																							
		原子炉格納容器への注水量	・B格納容器スプレイ冷却器出口積算流量（AM用）																																																																																																							
		水源の確保	・燃料取扱用水ビット水位																																																																																																							
		操作	「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(a)「代替格納容器スプレイポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。																																																																																																							
			「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(a)「代替格納容器スプレイポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。																																																																																																							
b. 電動駆動型消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉格納容器内の圧力	・原子炉格納容器圧力 ・格納容器圧力（AM用）																																																																																																							
		原子炉格納容器への注水量	・代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量																																																																																																							
		水源の確保	・ろ過水タンク水位																																																																																																							
		操作	「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(b)「電動駆動型消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。																																																																																																							
			「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(b)「電動駆動型消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。																																																																																																							
対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器																																																																																																								
1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能喪失時の手順等 (3) 代替格納容器スプレイ																																																																																																										
c. 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉格納容器内の圧力	・原子炉格納容器圧力 ・格納容器圧力（AM用）																																																																																																							
		原子炉格納容器への注水量	・代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量																																																																																																							
		操作	「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(c)「海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ」にて整備する。																																																																																																							
			「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(c)「海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ」にて整備する。																																																																																																							
		d. 代替給水ビットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉格納容器内の圧力	・原子炉格納容器圧力 ・格納容器圧力（AM用）																																																																																																					
原子炉格納容器への注水量	・代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量																																																																																																									
操作	「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(d)「代替給水ビットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ」にて整備する。																																																																																																									
	「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(d)「代替給水ビットを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ」にて整備する。																																																																																																									
e. 原水種を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ	判断基準			原子炉格納容器内の圧力	・原子炉格納容器圧力 ・格納容器圧力（AM用）																																																																																																					
		原子炉格納容器への注水量	・代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量																																																																																																							
		操作	「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(e)「原水種を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ」にて整備する。																																																																																																							
			「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(e)「原水種を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ」にて整備する。																																																																																																							

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由																																																																																						
<p>監視計器一覧（4/5）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要な監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">1.7.2.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失時の手順等 (1) 格納容器内自然対流冷却</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">a. 大容量ポンプを用いたA、D格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却</td> <td rowspan="3">判断基準</td> <td>原子炉圧力容器内の温度</td> <td>・炉心出口温度計</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の放射線量率</td> <td>・格納容器内高レンジエアモニタ（高レンジ）</td> </tr> <tr> <td>電源</td> <td>・4-3（4）A、B、C1、C2、D1、D2母線電圧計</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">操作</td> <td>補機監視機能</td> <td>・原子炉補機冷却水供給母管流量計（CRT） ・原子炉補機冷却水冷却器海水流量計（CRT）</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の温度</td> <td>・格納容器内温度計</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">最終ヒートシンクの確保</td> <td>・A、D格納容器再循環ユニット冷却水流量計</td> <td>・A、D格納容器再循環ユニット冷却器出口温度計（CRT）</td> </tr> <tr> <td>・可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度（SA）用）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の水素濃度</td> <td>・可搬型格納容器水素ガス濃度計</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>・格納容器圧力計（広域） ・AM用格納容器圧力計</td> </tr> <tr> <td colspan="3">(2) 代替格納容器スプレイ</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">a. 恒設代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ</td> <td rowspan="3">判断基準</td> <td>原子炉圧力容器内の温度</td> <td>・炉心出口温度計</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の放射線量率</td> <td>・格納容器内高レンジエアモニタ（高レンジ）</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>・格納容器圧力計（広域） ・AM用格納容器圧力計</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">操作</td> <td>水源の確保</td> <td>・燃料取替用水ピット水位計 ・復水ピット水位計</td> </tr> <tr> <td>電源</td> <td>・4-3（4）A、B、C1、C2、D1、D2母線電圧計</td> </tr> <tr> <td>補機監視機能</td> <td>・原子炉補機冷却水供給母管流量計（CRT） ・原子炉補機冷却水冷却器海水流量計（CRT）</td> </tr> <tr> <td colspan="2">[1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等]のうち、1.6.2.2(a)「恒設代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。</td> </tr> </tbody> </table>	対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器	1.7.2.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失時の手順等 (1) 格納容器内自然対流冷却			a. 大容量ポンプを用いたA、D格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却	判断基準	原子炉圧力容器内の温度	・炉心出口温度計	原子炉格納容器内の放射線量率	・格納容器内高レンジエアモニタ（高レンジ）	電源	・4-3（4）A、B、C1、C2、D1、D2母線電圧計	操作	補機監視機能	・原子炉補機冷却水供給母管流量計（CRT） ・原子炉補機冷却水冷却器海水流量計（CRT）	原子炉格納容器内の温度	・格納容器内温度計	最終ヒートシンクの確保	・A、D格納容器再循環ユニット冷却水流量計	・A、D格納容器再循環ユニット冷却器出口温度計（CRT）	・可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度（SA）用）		原子炉格納容器内の水素濃度	・可搬型格納容器水素ガス濃度計	原子炉格納容器内の圧力	・格納容器圧力計（広域） ・AM用格納容器圧力計	(2) 代替格納容器スプレイ			a. 恒設代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉圧力容器内の温度	・炉心出口温度計	原子炉格納容器内の放射線量率	・格納容器内高レンジエアモニタ（高レンジ）	原子炉格納容器内の圧力	・格納容器圧力計（広域） ・AM用格納容器圧力計	操作	水源の確保	・燃料取替用水ピット水位計 ・復水ピット水位計	電源	・4-3（4）A、B、C1、C2、D1、D2母線電圧計	補機監視機能	・原子炉補機冷却水供給母管流量計（CRT） ・原子炉補機冷却水冷却器海水流量計（CRT）	[1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等]のうち、1.6.2.2(a)「恒設代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。		<p>監視計器一覧（5/8）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要な監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">1.7.2.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失時の手順等 (1) 格納容器内自然対流冷却</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">a. 可搬型大容量ポンプを用いたC、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却</td> <td rowspan="3">判断基準</td> <td>電源</td> <td>・ 消線路1L、2L電圧 ・ 後志線路1L、2L電圧 ・ 甲母線電圧、乙母線電圧 ・ 6-A、B、C1、C2、D母線電圧</td> </tr> <tr> <td>補機監視機能</td> <td>・ 原子炉補機冷却水供給母管流量計 ・ 原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量計</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の温度</td> <td>・ 格納容器内温度 ・ C、D-格納容器再循環ユニット補機冷却水流量計 ・ 格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">操作</td> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>・ 原子炉格納容器圧力 ・ 格納容器圧力（AM用）</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の水素濃度</td> <td>・ 格納容器内水素濃度</td> </tr> </tbody> </table> <p>監視計器一覧（6/8）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要な監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">1.7.2.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失時の手順等 (2) 代替格納容器スプレイ</td> </tr> <tr> <td rowspan="10">a. 代替格納容器スプレイポンプによる代替格納容器スプレイ</td> <td rowspan="3">判断基準</td> <td>電源</td> <td>・ 消線路1L、2L電圧 ・ 後志線路1L、2L電圧 ・ 甲母線電圧、乙母線電圧 ・ 6-A、B、C1、C2、D母線電圧</td> </tr> <tr> <td>補機監視機能</td> <td>・ 原子炉補機冷却水供給母管流量計 ・ 原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量計</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>・ 原子炉格納容器圧力 ・ 格納容器圧力（AM用）</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">操作</td> <td>水源の確保</td> <td>・ 燃料取替用水ピット水位</td> </tr> <tr> <td colspan="2">[1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等]のうち、1.6.2.2(a) b. (a) 代替格納容器スプレイポンプによる代替格納容器スプレイにて整備する。</td> </tr> </tbody> </table>	対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器	1.7.2.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失時の手順等 (1) 格納容器内自然対流冷却			a. 可搬型大容量ポンプを用いたC、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却	判断基準	電源	・ 消線路1L、2L電圧 ・ 後志線路1L、2L電圧 ・ 甲母線電圧、乙母線電圧 ・ 6-A、B、C1、C2、D母線電圧	補機監視機能	・ 原子炉補機冷却水供給母管流量計 ・ 原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量計	原子炉格納容器内の温度	・ 格納容器内温度 ・ C、D-格納容器再循環ユニット補機冷却水流量計 ・ 格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度	操作	原子炉格納容器内の圧力	・ 原子炉格納容器圧力 ・ 格納容器圧力（AM用）	原子炉格納容器内の水素濃度	・ 格納容器内水素濃度	対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器	1.7.2.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失時の手順等 (2) 代替格納容器スプレイ			a. 代替格納容器スプレイポンプによる代替格納容器スプレイ	判断基準	電源	・ 消線路1L、2L電圧 ・ 後志線路1L、2L電圧 ・ 甲母線電圧、乙母線電圧 ・ 6-A、B、C1、C2、D母線電圧	補機監視機能	・ 原子炉補機冷却水供給母管流量計 ・ 原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量計	原子炉格納容器内の圧力	・ 原子炉格納容器圧力 ・ 格納容器圧力（AM用）	操作	水源の確保	・ 燃料取替用水ピット水位	[1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等]のうち、1.6.2.2(a) b. (a) 代替格納容器スプレイポンプによる代替格納容器スプレイにて整備する。			
対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器																																																																																							
1.7.2.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失時の手順等 (1) 格納容器内自然対流冷却																																																																																									
a. 大容量ポンプを用いたA、D格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却	判断基準	原子炉圧力容器内の温度	・炉心出口温度計																																																																																						
		原子炉格納容器内の放射線量率	・格納容器内高レンジエアモニタ（高レンジ）																																																																																						
		電源	・4-3（4）A、B、C1、C2、D1、D2母線電圧計																																																																																						
	操作	補機監視機能	・原子炉補機冷却水供給母管流量計（CRT） ・原子炉補機冷却水冷却器海水流量計（CRT）																																																																																						
		原子炉格納容器内の温度	・格納容器内温度計																																																																																						
		最終ヒートシンクの確保	・A、D格納容器再循環ユニット冷却水流量計	・A、D格納容器再循環ユニット冷却器出口温度計（CRT）																																																																																					
			・可搬型温度計測装置（格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度（SA）用）																																																																																						
		原子炉格納容器内の水素濃度	・可搬型格納容器水素ガス濃度計																																																																																						
		原子炉格納容器内の圧力	・格納容器圧力計（広域） ・AM用格納容器圧力計																																																																																						
		(2) 代替格納容器スプレイ																																																																																							
a. 恒設代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉圧力容器内の温度	・炉心出口温度計																																																																																						
		原子炉格納容器内の放射線量率	・格納容器内高レンジエアモニタ（高レンジ）																																																																																						
		原子炉格納容器内の圧力	・格納容器圧力計（広域） ・AM用格納容器圧力計																																																																																						
	操作	水源の確保	・燃料取替用水ピット水位計 ・復水ピット水位計																																																																																						
		電源	・4-3（4）A、B、C1、C2、D1、D2母線電圧計																																																																																						
		補機監視機能	・原子炉補機冷却水供給母管流量計（CRT） ・原子炉補機冷却水冷却器海水流量計（CRT）																																																																																						
		[1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等]のうち、1.6.2.2(a)「恒設代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。																																																																																							
		対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器																																																																																					
		1.7.2.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失時の手順等 (1) 格納容器内自然対流冷却																																																																																							
		a. 可搬型大容量ポンプを用いたC、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却	判断基準	電源	・ 消線路1L、2L電圧 ・ 後志線路1L、2L電圧 ・ 甲母線電圧、乙母線電圧 ・ 6-A、B、C1、C2、D母線電圧																																																																																				
補機監視機能	・ 原子炉補機冷却水供給母管流量計 ・ 原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量計																																																																																								
原子炉格納容器内の温度	・ 格納容器内温度 ・ C、D-格納容器再循環ユニット補機冷却水流量計 ・ 格納容器再循環ユニット入口温度/出口温度																																																																																								
操作	原子炉格納容器内の圧力		・ 原子炉格納容器圧力 ・ 格納容器圧力（AM用）																																																																																						
	原子炉格納容器内の水素濃度		・ 格納容器内水素濃度																																																																																						
	対応手段		重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器																																																																																					
	1.7.2.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失時の手順等 (2) 代替格納容器スプレイ																																																																																								
a. 代替格納容器スプレイポンプによる代替格納容器スプレイ	判断基準		電源	・ 消線路1L、2L電圧 ・ 後志線路1L、2L電圧 ・ 甲母線電圧、乙母線電圧 ・ 6-A、B、C1、C2、D母線電圧																																																																																					
			補機監視機能	・ 原子炉補機冷却水供給母管流量計 ・ 原子炉補機冷却水冷却器補機冷却海水流量計																																																																																					
			原子炉格納容器内の圧力	・ 原子炉格納容器圧力 ・ 格納容器圧力（AM用）																																																																																					
	操作	水源の確保	・ 燃料取替用水ピット水位																																																																																						
		[1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等]のうち、1.6.2.2(a) b. (a) 代替格納容器スプレイポンプによる代替格納容器スプレイにて整備する。																																																																																							

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由																																																																																																																																	
<p>監視計器一覧（5/5）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要な監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">1.7.2.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機喪失時の手順等 (2) 代替格納容器スプレイ</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">b. ディーゼル消火ポンプによる代替格納容器スプレイ</td> <td rowspan="6">判断基準</td> <td>原子炉圧力容器内の温度</td> <td>・ 炉心出口温度計</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の放射線量率</td> <td>・ 格納容器内高レンジエリアモニタ（高レンジ）</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>・ 格納容器圧力計（広域） ・ AM用格納容器圧力計</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器への注水量</td> <td>・ A格納容器スプレイ流量計 ・ 恒設代替低圧注水積算流量計</td> </tr> <tr> <td>水源の確保</td> <td>・ No. 2 汲水タンク水位計（CRT）</td> </tr> <tr> <td>電源</td> <td>・ 4-3（4）A、B、C1、C2、D1、D2母線電圧計</td> </tr> <tr> <td colspan="3">補機監視機能</td> </tr> <tr> <td colspan="3">「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(2)a.(b)「ディーゼル消火ポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">c. A格納容器スプレイポンプ（自己冷却）による代替格納容器スプレイ</td> <td rowspan="6">判断基準</td> <td>原子炉圧力容器内の温度</td> <td>・ 炉心出口温度計</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の放射線量率</td> <td>・ 格納容器内高レンジエリアモニタ（高レンジ）</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>・ 格納容器圧力計（広域） ・ AM用格納容器圧力計</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器への注水量</td> <td>・ A格納容器スプレイ流量計 ・ AM用消火水積算流量計</td> </tr> <tr> <td>水源の確保</td> <td>・ 燃料取替用水レベル計</td> </tr> <tr> <td>電源</td> <td>・ 4-3（4）A、B、C1、C2、D1、D2母線電圧計</td> </tr> <tr> <td colspan="3">補機監視機能</td> </tr> <tr> <td colspan="3">「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(2)a.(c)「A格納容器スプレイポンプ（自己冷却）による代替格納容器スプレイ」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">d. 可搬式代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ</td> <td rowspan="6">判断基準</td> <td>原子炉圧力容器内の温度</td> <td>・ 炉心出口温度計</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の放射線量率</td> <td>・ 格納容器内高レンジエリアモニタ（高レンジ）</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>・ 格納容器圧力計（広域） ・ AM用格納容器圧力計</td> </tr> <tr> <td>電源</td> <td>・ 4-3（4）A、B、C1、C2、D1、D2母線電圧計</td> </tr> <tr> <td colspan="2">補機監視機能</td> <td>・ 原子炉補機冷却水供給母管流量計（CRT） ・ 原子炉補機冷却水冷却器排水流量計（CRT）</td> </tr> <tr> <td colspan="3">「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(2)a.(d)「可搬式代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td colspan="3">操作</td> </tr> </tbody> </table>	対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器	1.7.2.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機喪失時の手順等 (2) 代替格納容器スプレイ			b. ディーゼル消火ポンプによる代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉圧力容器内の温度	・ 炉心出口温度計	原子炉格納容器内の放射線量率	・ 格納容器内高レンジエリアモニタ（高レンジ）	原子炉格納容器内の圧力	・ 格納容器圧力計（広域） ・ AM用格納容器圧力計	原子炉格納容器への注水量	・ A格納容器スプレイ流量計 ・ 恒設代替低圧注水積算流量計	水源の確保	・ No. 2 汲水タンク水位計（CRT）	電源	・ 4-3（4）A、B、C1、C2、D1、D2母線電圧計	補機監視機能			「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(2)a.(b)「ディーゼル消火ポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。			c. A格納容器スプレイポンプ（自己冷却）による代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉圧力容器内の温度	・ 炉心出口温度計	原子炉格納容器内の放射線量率	・ 格納容器内高レンジエリアモニタ（高レンジ）	原子炉格納容器内の圧力	・ 格納容器圧力計（広域） ・ AM用格納容器圧力計	原子炉格納容器への注水量	・ A格納容器スプレイ流量計 ・ AM用消火水積算流量計	水源の確保	・ 燃料取替用水レベル計	電源	・ 4-3（4）A、B、C1、C2、D1、D2母線電圧計	補機監視機能			「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(2)a.(c)「A格納容器スプレイポンプ（自己冷却）による代替格納容器スプレイ」にて整備する。			d. 可搬式代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉圧力容器内の温度	・ 炉心出口温度計	原子炉格納容器内の放射線量率	・ 格納容器内高レンジエリアモニタ（高レンジ）	原子炉格納容器内の圧力	・ 格納容器圧力計（広域） ・ AM用格納容器圧力計	電源	・ 4-3（4）A、B、C1、C2、D1、D2母線電圧計	補機監視機能		・ 原子炉補機冷却水供給母管流量計（CRT） ・ 原子炉補機冷却水冷却器排水流量計（CRT）	「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(2)a.(d)「可搬式代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。			操作			<p>監視計器一覧（7/8）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要な監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">1.7.2.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機喪失時の手順等 (2) 代替格納容器スプレイ</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">b. B-格納容器スプレイポンプ（自己冷却）による代替格納容器スプレイ</td> <td rowspan="3">判断基準</td> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>・ 原子炉格納容器圧力 ・ 格納容器圧力（AM用）</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内への注水量</td> <td>・ 代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量</td> </tr> <tr> <td>水源の確保</td> <td>・ 燃料取替用水レベル計</td> </tr> <tr> <td colspan="3">「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(2)a.(b)「B-格納容器スプレイポンプ（自己冷却）による代替格納容器スプレイ」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">c. ディーゼル駆動消火ポンプによる代替格納容器スプレイ</td> <td rowspan="3">判断基準</td> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>・ 原子炉格納容器圧力 ・ 格納容器圧力（AM用）</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内への注水量</td> <td>・ B-格納容器スプレイ流量 ・ B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量（AM用）</td> </tr> <tr> <td>水源の確保</td> <td>・ ろ過タンク水位</td> </tr> <tr> <td colspan="3">「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(b)「ディーゼル駆動消火ポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td colspan="3">操作</td> </tr> </tbody> </table> <p>監視計器一覧（8/8）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>重大事故等の対応に必要な監視項目</th> <th>監視計器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">1.7.2.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機喪失時の手順等 (2) 代替格納容器スプレイ</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">d. 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ</td> <td rowspan="3">判断基準</td> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>・ 原子炉格納容器圧力 ・ 格納容器圧力（AM用）</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内への注水量</td> <td>・ B-格納容器スプレイ流量 ・ B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量（AM用）</td> </tr> <tr> <td colspan="2">「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(c)「海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">e. 代替給水レベルを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ</td> <td rowspan="3">判断基準</td> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>・ 原子炉格納容器圧力 ・ 格納容器圧力（AM用）</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内への注水量</td> <td>・ 代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量 ・ B-格納容器スプレイ流量 ・ B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量（AM用）</td> </tr> <tr> <td colspan="2">「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(d)「代替給水レベルを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">f. 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ</td> <td rowspan="3">判断基準</td> <td>原子炉格納容器内の圧力</td> <td>・ 原子炉格納容器圧力 ・ 格納容器圧力（AM用）</td> </tr> <tr> <td>原子炉格納容器内への注水量</td> <td>・ 代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量 ・ B-格納容器スプレイ流量 ・ B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量（AM用）</td> </tr> <tr> <td colspan="2">「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(e)「原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ」にて整備する。</td> </tr> <tr> <td colspan="3">操作</td> </tr> </tbody> </table>	対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器	1.7.2.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機喪失時の手順等 (2) 代替格納容器スプレイ			b. B-格納容器スプレイポンプ（自己冷却）による代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉格納容器内の圧力	・ 原子炉格納容器圧力 ・ 格納容器圧力（AM用）	原子炉格納容器内への注水量	・ 代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量	水源の確保	・ 燃料取替用水レベル計	「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(2)a.(b)「B-格納容器スプレイポンプ（自己冷却）による代替格納容器スプレイ」にて整備する。			c. ディーゼル駆動消火ポンプによる代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉格納容器内の圧力	・ 原子炉格納容器圧力 ・ 格納容器圧力（AM用）	原子炉格納容器内への注水量	・ B-格納容器スプレイ流量 ・ B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量（AM用）	水源の確保	・ ろ過タンク水位	「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(b)「ディーゼル駆動消火ポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。			操作			対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器	1.7.2.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機喪失時の手順等 (2) 代替格納容器スプレイ			d. 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉格納容器内の圧力	・ 原子炉格納容器圧力 ・ 格納容器圧力（AM用）	原子炉格納容器内への注水量	・ B-格納容器スプレイ流量 ・ B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量（AM用）	「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(c)「海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ」にて整備する。		e. 代替給水レベルを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉格納容器内の圧力	・ 原子炉格納容器圧力 ・ 格納容器圧力（AM用）	原子炉格納容器内への注水量	・ 代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量 ・ B-格納容器スプレイ流量 ・ B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量（AM用）	「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(d)「代替給水レベルを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ」にて整備する。		f. 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉格納容器内の圧力	・ 原子炉格納容器圧力 ・ 格納容器圧力（AM用）	原子炉格納容器内への注水量	・ 代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量 ・ B-格納容器スプレイ流量 ・ B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量（AM用）	「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(e)「原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ」にて整備する。		操作				<p>設備の相違（差異理由①）</p> <p>設備の相違（差異理由①）</p>
対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器																																																																																																																																		
1.7.2.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機喪失時の手順等 (2) 代替格納容器スプレイ																																																																																																																																				
b. ディーゼル消火ポンプによる代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉圧力容器内の温度	・ 炉心出口温度計																																																																																																																																	
		原子炉格納容器内の放射線量率	・ 格納容器内高レンジエリアモニタ（高レンジ）																																																																																																																																	
		原子炉格納容器内の圧力	・ 格納容器圧力計（広域） ・ AM用格納容器圧力計																																																																																																																																	
		原子炉格納容器への注水量	・ A格納容器スプレイ流量計 ・ 恒設代替低圧注水積算流量計																																																																																																																																	
		水源の確保	・ No. 2 汲水タンク水位計（CRT）																																																																																																																																	
		電源	・ 4-3（4）A、B、C1、C2、D1、D2母線電圧計																																																																																																																																	
補機監視機能																																																																																																																																				
「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(2)a.(b)「ディーゼル消火ポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。																																																																																																																																				
c. A格納容器スプレイポンプ（自己冷却）による代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉圧力容器内の温度	・ 炉心出口温度計																																																																																																																																	
		原子炉格納容器内の放射線量率	・ 格納容器内高レンジエリアモニタ（高レンジ）																																																																																																																																	
		原子炉格納容器内の圧力	・ 格納容器圧力計（広域） ・ AM用格納容器圧力計																																																																																																																																	
		原子炉格納容器への注水量	・ A格納容器スプレイ流量計 ・ AM用消火水積算流量計																																																																																																																																	
		水源の確保	・ 燃料取替用水レベル計																																																																																																																																	
		電源	・ 4-3（4）A、B、C1、C2、D1、D2母線電圧計																																																																																																																																	
補機監視機能																																																																																																																																				
「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(2)a.(c)「A格納容器スプレイポンプ（自己冷却）による代替格納容器スプレイ」にて整備する。																																																																																																																																				
d. 可搬式代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉圧力容器内の温度	・ 炉心出口温度計																																																																																																																																	
		原子炉格納容器内の放射線量率	・ 格納容器内高レンジエリアモニタ（高レンジ）																																																																																																																																	
		原子炉格納容器内の圧力	・ 格納容器圧力計（広域） ・ AM用格納容器圧力計																																																																																																																																	
		電源	・ 4-3（4）A、B、C1、C2、D1、D2母線電圧計																																																																																																																																	
		補機監視機能		・ 原子炉補機冷却水供給母管流量計（CRT） ・ 原子炉補機冷却水冷却器排水流量計（CRT）																																																																																																																																
		「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(2)a.(d)「可搬式代替低圧注水ポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。																																																																																																																																		
操作																																																																																																																																				
対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器																																																																																																																																		
1.7.2.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機喪失時の手順等 (2) 代替格納容器スプレイ																																																																																																																																				
b. B-格納容器スプレイポンプ（自己冷却）による代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉格納容器内の圧力	・ 原子炉格納容器圧力 ・ 格納容器圧力（AM用）																																																																																																																																	
		原子炉格納容器内への注水量	・ 代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量																																																																																																																																	
		水源の確保	・ 燃料取替用水レベル計																																																																																																																																	
「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(2)a.(b)「B-格納容器スプレイポンプ（自己冷却）による代替格納容器スプレイ」にて整備する。																																																																																																																																				
c. ディーゼル駆動消火ポンプによる代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉格納容器内の圧力	・ 原子炉格納容器圧力 ・ 格納容器圧力（AM用）																																																																																																																																	
		原子炉格納容器内への注水量	・ B-格納容器スプレイ流量 ・ B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量（AM用）																																																																																																																																	
		水源の確保	・ ろ過タンク水位																																																																																																																																	
	「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(b)「ディーゼル駆動消火ポンプによる代替格納容器スプレイ」にて整備する。																																																																																																																																			
	操作																																																																																																																																			
	対応手段	重大事故等の対応に必要な監視項目	監視計器																																																																																																																																	
1.7.2.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機喪失時の手順等 (2) 代替格納容器スプレイ																																																																																																																																				
d. 海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉格納容器内の圧力	・ 原子炉格納容器圧力 ・ 格納容器圧力（AM用）																																																																																																																																	
		原子炉格納容器内への注水量	・ B-格納容器スプレイ流量 ・ B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量（AM用）																																																																																																																																	
		「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(c)「海水を用いた可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ」にて整備する。																																																																																																																																		
e. 代替給水レベルを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉格納容器内の圧力	・ 原子炉格納容器圧力 ・ 格納容器圧力（AM用）																																																																																																																																	
		原子炉格納容器内への注水量	・ 代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量 ・ B-格納容器スプレイ流量 ・ B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量（AM用）																																																																																																																																	
		「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(d)「代替給水レベルを水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ」にて整備する。																																																																																																																																		
f. 原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ	判断基準	原子炉格納容器内の圧力	・ 原子炉格納容器圧力 ・ 格納容器圧力（AM用）																																																																																																																																	
		原子炉格納容器内への注水量	・ 代替格納容器スプレイポンプ出口積算流量 ・ B-格納容器スプレイ流量 ・ B-格納容器スプレイ冷却器出口積算流量（AM用）																																																																																																																																	
		「1.6 原子炉格納容器内の冷却等のための手順等」のうち、1.6.2.2(1)b.(e)「原水槽を水源とした可搬型大型送水ポンプ車による代替格納容器スプレイ」にて整備する。																																																																																																																																		
操作																																																																																																																																				

泊3号炉との比較対象なし

泊3号炉との比較対象なし

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由																																															
<p>第1.7.3表 審査基準における要求事項ごとの給電対象設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象条文</th> <th>供給対象設備</th> <th>給電元</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">【1.7】 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等</td> <td>恒設代替低圧注水ポンプ</td> <td>空冷式非常用発電装置</td> </tr> <tr> <td>A格納容器スプレイポンプ</td> <td>4-3(4)A 非常用高圧母線</td> </tr> <tr> <td>B格納容器スプレイポンプ</td> <td>4-3(4)B 非常用高圧母線</td> </tr> <tr> <td>A原子炉補機冷却水ポンプ</td> <td>4-3(4)A 非常用高圧母線</td> </tr> <tr> <td>B原子炉補機冷却水ポンプ</td> <td>4-3(4)A 非常用高圧母線</td> </tr> <tr> <td>A海水ポンプ</td> <td>4-3(4)A 非常用高圧母線</td> </tr> <tr> <td>B1海水ポンプ</td> <td>4-3(4)A 非常用高圧母線</td> </tr> <tr> <td>B2海水ポンプ</td> <td>4-3(4)B 非常用高圧母線</td> </tr> <tr> <td>C海水ポンプ</td> <td>4-3(4)B 非常用高圧母線</td> </tr> </tbody> </table>	対象条文	供給対象設備	給電元	【1.7】 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等	恒設代替低圧注水ポンプ	空冷式非常用発電装置	A格納容器スプレイポンプ	4-3(4)A 非常用高圧母線	B格納容器スプレイポンプ	4-3(4)B 非常用高圧母線	A原子炉補機冷却水ポンプ	4-3(4)A 非常用高圧母線	B原子炉補機冷却水ポンプ	4-3(4)A 非常用高圧母線	A海水ポンプ	4-3(4)A 非常用高圧母線	B1海水ポンプ	4-3(4)A 非常用高圧母線	B2海水ポンプ	4-3(4)B 非常用高圧母線	C海水ポンプ	4-3(4)B 非常用高圧母線	<p>第1.7.3表 審査基準における要求事項ごとの給電対象設備</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象条文</th> <th>供給対象設備</th> <th>給電元</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">【1.7】 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等</td> <td>A-格納容器スプレイポンプ</td> <td>6-A 非常用高圧母線</td> </tr> <tr> <td>B-格納容器スプレイポンプ</td> <td>6-B 非常用高圧母線</td> </tr> <tr> <td>C-原子炉補機冷却水ポンプ</td> <td>6-B 非常用高圧母線</td> </tr> <tr> <td>D-原子炉補機冷却水ポンプ</td> <td>6-B 非常用高圧母線</td> </tr> <tr> <td>C-原子炉補機冷却水ポンプ</td> <td>6-B 非常用高圧母線</td> </tr> <tr> <td>D-原子炉補機冷却水ポンプ</td> <td>6-B 非常用高圧母線</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">代替格納容器スプレイポンプ</td> <td></td> <td>6-A 非常用高圧母線</td> </tr> <tr> <td></td> <td>6-B 非常用高圧母線</td> </tr> <tr> <td>A-ディーゼル発電機 燃料油移送ポンプ</td> <td>A-ディーゼル発電機 コントロールセンタ</td> </tr> <tr> <td>B-ディーゼル発電機 燃料油移送ポンプ</td> <td>B-ディーゼル発電機 コントロールセンタ</td> </tr> </tbody> </table>	対象条文	供給対象設備	給電元	【1.7】 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等	A-格納容器スプレイポンプ	6-A 非常用高圧母線	B-格納容器スプレイポンプ	6-B 非常用高圧母線	C-原子炉補機冷却水ポンプ	6-B 非常用高圧母線	D-原子炉補機冷却水ポンプ	6-B 非常用高圧母線	C-原子炉補機冷却水ポンプ	6-B 非常用高圧母線	D-原子炉補機冷却水ポンプ	6-B 非常用高圧母線	代替格納容器スプレイポンプ		6-A 非常用高圧母線		6-B 非常用高圧母線	A-ディーゼル発電機 燃料油移送ポンプ	A-ディーゼル発電機 コントロールセンタ	B-ディーゼル発電機 燃料油移送ポンプ	B-ディーゼル発電機 コントロールセンタ		
対象条文	供給対象設備	給電元																																																
【1.7】 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等	恒設代替低圧注水ポンプ	空冷式非常用発電装置																																																
	A格納容器スプレイポンプ	4-3(4)A 非常用高圧母線																																																
	B格納容器スプレイポンプ	4-3(4)B 非常用高圧母線																																																
	A原子炉補機冷却水ポンプ	4-3(4)A 非常用高圧母線																																																
	B原子炉補機冷却水ポンプ	4-3(4)A 非常用高圧母線																																																
	A海水ポンプ	4-3(4)A 非常用高圧母線																																																
	B1海水ポンプ	4-3(4)A 非常用高圧母線																																																
	B2海水ポンプ	4-3(4)B 非常用高圧母線																																																
	C海水ポンプ	4-3(4)B 非常用高圧母線																																																
	対象条文	供給対象設備	給電元																																															
【1.7】 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等	A-格納容器スプレイポンプ	6-A 非常用高圧母線																																																
	B-格納容器スプレイポンプ	6-B 非常用高圧母線																																																
	C-原子炉補機冷却水ポンプ	6-B 非常用高圧母線																																																
	D-原子炉補機冷却水ポンプ	6-B 非常用高圧母線																																																
	C-原子炉補機冷却水ポンプ	6-B 非常用高圧母線																																																
	D-原子炉補機冷却水ポンプ	6-B 非常用高圧母線																																																
	代替格納容器スプレイポンプ		6-A 非常用高圧母線																																															
			6-B 非常用高圧母線																																															
	A-ディーゼル発電機 燃料油移送ポンプ	A-ディーゼル発電機 コントロールセンタ																																																
	B-ディーゼル発電機 燃料油移送ポンプ	B-ディーゼル発電機 コントロールセンタ																																																



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<p>第1.7.1図 A、D格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 概略系統</p>	<p>第1.7.2図 C、D格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 概略系統</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大飯発電所3/4号炉

手順の項目	要員(数)	経過時間(分)												備考		
		30	45	60	75	90	105	120	135	150	165	180				
運転員等 (中央制御室)	1															
A、D格納容器内再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却	1															
運転員(現場)	1															
運転員(現場)	1															
運転員(現場)	1															

注 運転員は、A、D格納容器内再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却を開始する。また、運転員は、運転員(現場)による格納容器内自然対流冷却を開始する。

第1.7.2図 A、D格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 タイムチャート

泊発電所3号炉

手順の項目	要員(数)	経過時間(分)					
		30	60	90	120	150	180
C、D一格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却開始	1						
運転員(中央制御室)	1						
運転員(現場)	1						

注 1 既設設備による冷却状態の監視ができない場合に使用する。

第1.7.3図 C、D一格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却  
タイムチャート

女川発電所2号炉

差異理由

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<p>図1.7.3図 格納容器の過圧破損を防止するための対応手順（交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時）</p>	<p>第1.7.4図 格納容器の過圧破損防止に対する対応手順          （交流動力電源及び原子炉補機冷却機能が健全である場合）（1/2）</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<div data-bbox="197 769 607 815" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">泊3号炉との比較対象なし</div>	<div data-bbox="741 411 1332 1002" style="text-align: center;"> </div> <p data-bbox="786 1042 1301 1058">※1：海水取水設備へのアクセスルート復旧作業の結果、アクセスの再開に経過しがつく場合は、「海水の取水が可能か」の判断へ移行する。</p> <p data-bbox="779 1114 1301 1169" style="text-align: center;">第1.7.4図 格納容器の過圧破損防止に対する対応手順              （交流動力電源及び原子炉補機冷却機能が健全である場合）（2/2）</p>		<p>設備の相違（差異理由①）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・泊3号炉は、可搬型大型送水ポンプ車の水源の選択の手順を本フローで整理している。</li> </ul>

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

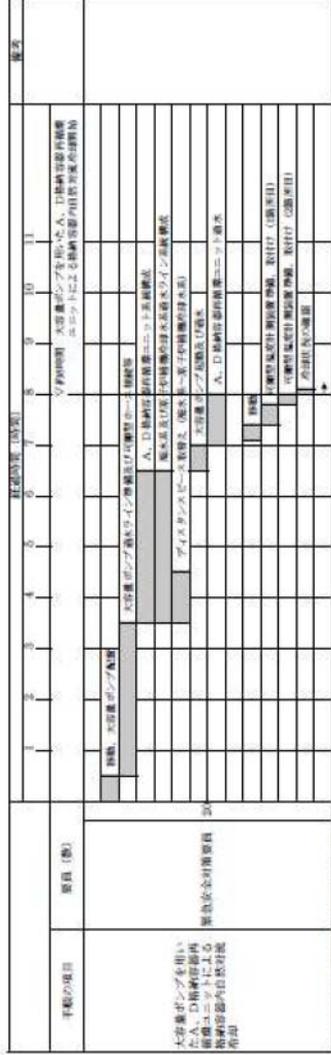
1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<p>第1.7.4図 大容量ポンプを用いたA、D格納容器用循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 概略系統</p>	<p>第1.7.5図 可搬型大型送水ポンプを用いたC、D格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 概略系統</p>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

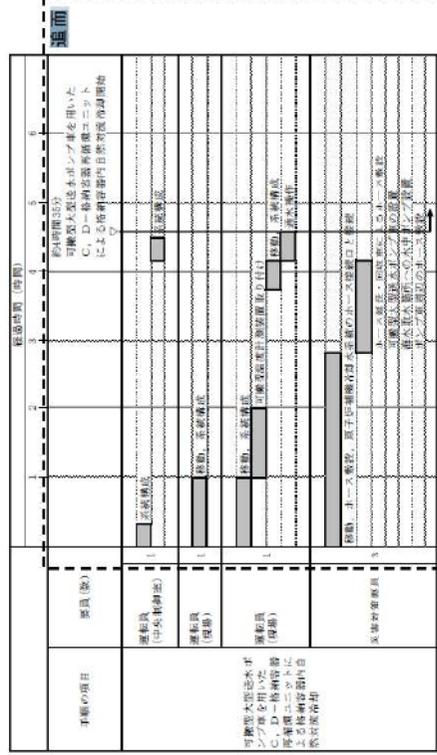
1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大飯発電所3/4号炉



第1.7.5図 大容量ポンプを用いたA、D格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 タイムチャート

泊発電所3号炉



第1.7.6図 可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 タイムチャート

女川発電所2号炉

差異理由

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<div data-bbox="107 338 586 1248" style="border: 2px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <div data-bbox="600 338 645 619" style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">                     枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開できません。                 </div> <div data-bbox="667 667 698 960" style="text-align: center;">                     第1.7.6図 ホース敷設ルート図（1/2）                 </div>	<div data-bbox="743 443 1249 1168" style="border: 2px dashed black; width: 100%; height: 100%;"></div> <div data-bbox="1249 497 1294 1120" style="text-align: center;">                     第1.7.7図 可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 ホース敷設ルート図（1/3）                 </div> <div data-bbox="1303 746 1339 794" style="border: 1px solid black; width: 15px; height: 15px; margin: 0 auto;"></div> <div data-bbox="1303 379 1339 794" style="text-align: center;">                     □：枠囲みの内容は機密情報に類しますので公開できません。                 </div>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<div data-bbox="107 316 622 1273" style="border: 2px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <div data-bbox="629 320 669 579" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">                     特選みの電閉は機密に係る事項ですので公開することはできません。                 </div> <div data-bbox="667 659 689 935" style="text-align: center; margin-top: 20px;">                     第1.7.6図 ホース駆動レート図 (2/2)                 </div>	<div data-bbox="831 220 1167 679" style="border: 2px solid black; width: 100%; height: 100%;"></div> <div data-bbox="1173 292 1214 756" style="margin-top: 10px;">                     第1.7.7図 可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 ホース駆動レート図 (2/3)                 </div> <div data-bbox="831 815 1167 1291" style="border: 2px dashed black; width: 100%; height: 100%;"></div> <div data-bbox="1189 890 1229 1370" style="margin-top: 10px;">                     第1.7.7図 可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 ホース駆動レート図 (3/3)                 </div> <div data-bbox="1236 810 1256 1150" style="margin-top: 10px;">                     □：特選みの内容は機密情報に属しますので公開できません。                 </div>		

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

大飯発電所3/4号炉	泊発電所3号炉	女川発電所2号炉	差異理由
<p>第1.7.7図 格納容器の過圧破損を防止するための対応手順（全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失時）</p> <p>図1.7 格納容器の過圧破損を防止するための対応手順（全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失時）</p> <p>① 全交流動力電源喪失等の場合は、代替冷却装置（ポンプ又は冷却機）を稼働させ、格納容器内の圧力を低下させる。また、必要に応じて、格納容器内の圧力を監視し、過圧防止のために必要な措置を講ずる。</p> <p>② 格納容器内の圧力が過剰な場合は、格納容器内の圧力を低下させるための措置を講ずる。また、必要に応じて、格納容器内の圧力を監視し、過圧防止のために必要な措置を講ずる。</p>	<p>第1.7.8図 格納容器の過圧破損防止に対する対応手順（全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却機能喪失時）（1/2）</p> <p>図1.7 格納容器の過圧破損防止に対する対応手順（全交流動力電源喪失又は原子炉補機冷却機能喪失時）</p> <p>① 格納容器内の圧力が過剰な場合は、格納容器内の圧力を低下させるための措置を講ずる。また、必要に応じて、格納容器内の圧力を監視し、過圧防止のために必要な措置を講ずる。</p> <p>② 格納容器内の圧力が過剰な場合は、格納容器内の圧力を低下させるための措置を講ずる。また、必要に応じて、格納容器内の圧力を監視し、過圧防止のために必要な措置を講ずる。</p>		



赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

女川発電所2号炉	泊発電所3号炉	差異理由																																																																									
<p style="text-align: center;">添付資料 1.7.7</p> <p style="text-align: center;">解釈一覧</p> <p style="text-align: center;">1. 判断基準の解釈一覧</p> <table border="1" data-bbox="114 284 936 454"> <thead> <tr> <th>手順</th> <th>判断基準記載内容</th> <th>解釈</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.7.2.1 原子炉格納容器の過圧破損防止のための対応手順 (2) 原子炉格納容器フィルタベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱（現場操作含む。）</td> <td>b. フィルタ装置への水補給 e. フィルタ装置スクラバ溶液移送 f. フィルタ装置への薬液補給</td> <td>フィルタ装置の水位が規定水位まで低下した場合 サブプレッションチェン内の圧力が規定値以下 フィルタ装置への水補給を行う場合</td> <td>フィルタ装置の水位が [ ] まで低下した場合 圧力抑制高圧力指示値が [ ] 以下 フィルタ装置の水位が [ ] まで低下し、フィルタ装置への水補給を実施した場合</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">2. 操作手順の解釈一覧</p> <table border="1" data-bbox="114 853 936 1252"> <thead> <tr> <th>手順</th> <th>操作手順記載内容</th> <th>解釈</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">1.7.2.1 原子炉格納容器の過圧破損防止のための対応手順 (1) 代替循環冷却系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</td> <td>a. 代替循環冷却系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱</td> <td>代替循環冷却ポンプ出口流量指示値の上昇 (150m<sup>3</sup>/h程度)</td> <td>代替循環冷却ポンプ出口流量指示値の上昇 (150m<sup>3</sup>/h程度)</td> </tr> <tr> <td>原子炉圧力容器への注水及び原子炉格納容器内へのスプレーが開始</td> <td>代替循環冷却ポンプ出口流量指示値の上昇 (150m<sup>3</sup>/h程度) 及び残留熱除去系洗浄ライン流量指示値にて 50 m<sup>3</sup>/h程度</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="5">1.7.2.1 原子炉格納容器の過圧破損防止のための対応手順 (2) 原子炉格納容器フィルタベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱（現場操作含む。）</td> <td>a. 原子炉格納容器フィルタベント系による原子炉格納容器内の減圧および除熱（現場操作含む。）</td> <td>フィルタ装置水位指示値が通常水位範囲内</td> <td>フィルタ装置の水位が [ ]</td> </tr> <tr> <td>b. フィルタ装置への水補給</td> <td>通常水位範囲内に到達</td> <td>フィルタ装置の水位が [ ]</td> </tr> <tr> <td>d. 原子炉格納容器フィルタベント系停止後の室蒸発ヘージ</td> <td>薬液の供給を開始</td> <td>可搬型薬液供給装置流量(220m<sup>3</sup>/h)にて注入を実施</td> </tr> <tr> <td>e. フィルタ装置スクラバ溶液移送</td> <td>通常水位範囲内に到達</td> <td>フィルタ装置の水位が [ ]</td> </tr> <tr> <td>f. フィルタ装置への薬液補給</td> <td>規定量の薬液</td> <td>[ ]</td> </tr> <tr> <td>1.7.2.1 原子炉格納容器の過圧破損防止のための対応手順 (3) 原子炉格納容器内 pH調整</td> <td>規定量の薬液が注入されたことを格納容器 pH調整系タンク水位指示値により確認後</td> <td>2.6m<sup>3</sup>以上注入されたことを格納容器 pH調整系タンク水位指示値にて確認後</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">特囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p> <p style="text-align: center;">特囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。</p>	手順	判断基準記載内容	解釈	1.7.2.1 原子炉格納容器の過圧破損防止のための対応手順 (2) 原子炉格納容器フィルタベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱（現場操作含む。）	b. フィルタ装置への水補給 e. フィルタ装置スクラバ溶液移送 f. フィルタ装置への薬液補給	フィルタ装置の水位が規定水位まで低下した場合 サブプレッションチェン内の圧力が規定値以下 フィルタ装置への水補給を行う場合	フィルタ装置の水位が [ ] まで低下した場合 圧力抑制高圧力指示値が [ ] 以下 フィルタ装置の水位が [ ] まで低下し、フィルタ装置への水補給を実施した場合	手順	操作手順記載内容	解釈	1.7.2.1 原子炉格納容器の過圧破損防止のための対応手順 (1) 代替循環冷却系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱	a. 代替循環冷却系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱	代替循環冷却ポンプ出口流量指示値の上昇 (150m <sup>3</sup> /h程度)	代替循環冷却ポンプ出口流量指示値の上昇 (150m <sup>3</sup> /h程度)	原子炉圧力容器への注水及び原子炉格納容器内へのスプレーが開始	代替循環冷却ポンプ出口流量指示値の上昇 (150m <sup>3</sup> /h程度) 及び残留熱除去系洗浄ライン流量指示値にて 50 m <sup>3</sup> /h程度		1.7.2.1 原子炉格納容器の過圧破損防止のための対応手順 (2) 原子炉格納容器フィルタベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱（現場操作含む。）	a. 原子炉格納容器フィルタベント系による原子炉格納容器内の減圧および除熱（現場操作含む。）	フィルタ装置水位指示値が通常水位範囲内	フィルタ装置の水位が [ ]	b. フィルタ装置への水補給	通常水位範囲内に到達	フィルタ装置の水位が [ ]	d. 原子炉格納容器フィルタベント系停止後の室蒸発ヘージ	薬液の供給を開始	可搬型薬液供給装置流量(220m <sup>3</sup> /h)にて注入を実施	e. フィルタ装置スクラバ溶液移送	通常水位範囲内に到達	フィルタ装置の水位が [ ]	f. フィルタ装置への薬液補給	規定量の薬液	[ ]	1.7.2.1 原子炉格納容器の過圧破損防止のための対応手順 (3) 原子炉格納容器内 pH調整	規定量の薬液が注入されたことを格納容器 pH調整系タンク水位指示値により確認後	2.6m <sup>3</sup> 以上注入されたことを格納容器 pH調整系タンク水位指示値にて確認後		<p style="text-align: center;">添付資料 1.7.10-(1)</p> <p style="text-align: center;">解釈一覧</p> <p style="text-align: center;">1. 「手順着手の判断基準」及び「操作手順」解釈一覧</p> <table border="1" data-bbox="974 507 1758 646"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>記載内容</th> <th>解釈</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の手順等 (1) 格納容器スプレー a. 格納容器スプレーポンプによる格納容器スプレー</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>操作手順 ②</td> <td>格納容器スプレーポンプを起動</td> <td>「2. 操作対象機器一覧（添付資料1.7.10-(3)）」参照</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="974 670 1758 965"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>記載内容</th> <th>解釈</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の手順等 (2) 格納容器内自然対流冷却 a. C, D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>操作手順 ②</td> <td>原子炉補機冷却水系統を加圧するための系統構成</td> <td>「2. 操作対象機器一覧（添付資料1.7.10-(4) (5)）」参照</td> </tr> <tr> <td>操作手順 ③</td> <td>原子炉補機冷却水サージタンク加圧用可搬型薬液ガスボンベにより原子炉補機冷却水サージタンクを0.28MPa[表圧]まで加圧操作</td> <td>「2. 操作対象機器一覧（添付資料1.7.10-(4) (5)）」参照</td> </tr> <tr> <td>操作手順 ⑤</td> <td>C, D-格納容器再循環ユニット冷却水入口弁、出口弁の開操作により原子炉補機冷却水を通水</td> <td>「2. 操作対象機器一覧（添付資料1.7.10-(4) (5)）」参照</td> </tr> <tr> <td>操作手順 ⑦</td> <td>格納容器内温度が上昇し、C, D-格納容器再循環ユニットのダクト開放機構が開く温度</td> <td>ダクト開放機構作動温度：110℃</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="974 989 1758 1125"> <thead> <tr> <th>対応手段</th> <th>記載内容</th> <th>解釈</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の手順等 (3) 代替格納容器スプレー a. 代替格納容器スプレーポンプによる代替格納容器スプレー</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>判断基準</td> <td>格納容器へスプレーするために必要な燃料取替用水ビット等の水位が確保されている</td> <td>・燃料取替用水ビット水位： [ ]%以上 ・補助給水ビット水位： [ ]%以上</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">特囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。</p>	対応手段	記載内容	解釈	1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の手順等 (1) 格納容器スプレー a. 格納容器スプレーポンプによる格納容器スプレー			操作手順 ②	格納容器スプレーポンプを起動	「2. 操作対象機器一覧（添付資料1.7.10-(3)）」参照	対応手段	記載内容	解釈	1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の手順等 (2) 格納容器内自然対流冷却 a. C, D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却			操作手順 ②	原子炉補機冷却水系統を加圧するための系統構成	「2. 操作対象機器一覧（添付資料1.7.10-(4) (5)）」参照	操作手順 ③	原子炉補機冷却水サージタンク加圧用可搬型薬液ガスボンベにより原子炉補機冷却水サージタンクを0.28MPa[表圧]まで加圧操作	「2. 操作対象機器一覧（添付資料1.7.10-(4) (5)）」参照	操作手順 ⑤	C, D-格納容器再循環ユニット冷却水入口弁、出口弁の開操作により原子炉補機冷却水を通水	「2. 操作対象機器一覧（添付資料1.7.10-(4) (5)）」参照	操作手順 ⑦	格納容器内温度が上昇し、C, D-格納容器再循環ユニットのダクト開放機構が開く温度	ダクト開放機構作動温度：110℃	対応手段	記載内容	解釈	1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の手順等 (3) 代替格納容器スプレー a. 代替格納容器スプレーポンプによる代替格納容器スプレー			判断基準	格納容器へスプレーするために必要な燃料取替用水ビット等の水位が確保されている	・燃料取替用水ビット水位： [ ]%以上 ・補助給水ビット水位： [ ]%以上	<p>【大飯 3/4 号炉】          記載方針の相違          ・比較対象の添付資料なし。</p> <p>【女川 2 号炉】          プラント型式の相違          ・泊 3 号炉の重大事故等への対応に用いている設備のうち、格納容器内自然対流冷却手段の活用による対応等については、PWR 固有の設計に基づくものであり、重大事故等への対応設備・手段が大きく女川 2 号炉と異なる。PWR プラントとしての基準への適合性を網羅的に比較する観点では、まとめ資料本文比較表にて大飯 3/4 号炉と比較する。</p> <p>【女川 2 号炉】          記載方針の相違          ・泊 3 号炉は、本文中の「手順着手の判断基準」及び「操作手順」において、具体的な数値または操作内容を示していない事項について、解釈一覧の 1. に整理し、概略系統図と具体的な弁名称を含む操作対象機器を解釈一覧の 2. に記載。          ・女川 2 号炉は「判断基準」、「操作手順」及び「弁番号及び弁名称」をそれぞれ一覧表で整理している。          ・本文中に具体的な数値または操作内容を示していない事項について、添付資料で明確化の方針に相違なし。以下、同様。</p>
手順	判断基準記載内容	解釈																																																																									
1.7.2.1 原子炉格納容器の過圧破損防止のための対応手順 (2) 原子炉格納容器フィルタベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱（現場操作含む。）	b. フィルタ装置への水補給 e. フィルタ装置スクラバ溶液移送 f. フィルタ装置への薬液補給	フィルタ装置の水位が規定水位まで低下した場合 サブプレッションチェン内の圧力が規定値以下 フィルタ装置への水補給を行う場合	フィルタ装置の水位が [ ] まで低下した場合 圧力抑制高圧力指示値が [ ] 以下 フィルタ装置の水位が [ ] まで低下し、フィルタ装置への水補給を実施した場合																																																																								
手順	操作手順記載内容	解釈																																																																									
1.7.2.1 原子炉格納容器の過圧破損防止のための対応手順 (1) 代替循環冷却系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱	a. 代替循環冷却系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱	代替循環冷却ポンプ出口流量指示値の上昇 (150m <sup>3</sup> /h程度)	代替循環冷却ポンプ出口流量指示値の上昇 (150m <sup>3</sup> /h程度)																																																																								
	原子炉圧力容器への注水及び原子炉格納容器内へのスプレーが開始	代替循環冷却ポンプ出口流量指示値の上昇 (150m <sup>3</sup> /h程度) 及び残留熱除去系洗浄ライン流量指示値にて 50 m <sup>3</sup> /h程度																																																																									
1.7.2.1 原子炉格納容器の過圧破損防止のための対応手順 (2) 原子炉格納容器フィルタベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱（現場操作含む。）	a. 原子炉格納容器フィルタベント系による原子炉格納容器内の減圧および除熱（現場操作含む。）	フィルタ装置水位指示値が通常水位範囲内	フィルタ装置の水位が [ ]																																																																								
	b. フィルタ装置への水補給	通常水位範囲内に到達	フィルタ装置の水位が [ ]																																																																								
	d. 原子炉格納容器フィルタベント系停止後の室蒸発ヘージ	薬液の供給を開始	可搬型薬液供給装置流量(220m <sup>3</sup> /h)にて注入を実施																																																																								
	e. フィルタ装置スクラバ溶液移送	通常水位範囲内に到達	フィルタ装置の水位が [ ]																																																																								
	f. フィルタ装置への薬液補給	規定量の薬液	[ ]																																																																								
1.7.2.1 原子炉格納容器の過圧破損防止のための対応手順 (3) 原子炉格納容器内 pH調整	規定量の薬液が注入されたことを格納容器 pH調整系タンク水位指示値により確認後	2.6m <sup>3</sup> 以上注入されたことを格納容器 pH調整系タンク水位指示値にて確認後																																																																									
対応手段	記載内容	解釈																																																																									
1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の手順等 (1) 格納容器スプレー a. 格納容器スプレーポンプによる格納容器スプレー																																																																											
操作手順 ②	格納容器スプレーポンプを起動	「2. 操作対象機器一覧（添付資料1.7.10-(3)）」参照																																																																									
対応手段	記載内容	解釈																																																																									
1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の手順等 (2) 格納容器内自然対流冷却 a. C, D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却																																																																											
操作手順 ②	原子炉補機冷却水系統を加圧するための系統構成	「2. 操作対象機器一覧（添付資料1.7.10-(4) (5)）」参照																																																																									
操作手順 ③	原子炉補機冷却水サージタンク加圧用可搬型薬液ガスボンベにより原子炉補機冷却水サージタンクを0.28MPa[表圧]まで加圧操作	「2. 操作対象機器一覧（添付資料1.7.10-(4) (5)）」参照																																																																									
操作手順 ⑤	C, D-格納容器再循環ユニット冷却水入口弁、出口弁の開操作により原子炉補機冷却水を通水	「2. 操作対象機器一覧（添付資料1.7.10-(4) (5)）」参照																																																																									
操作手順 ⑦	格納容器内温度が上昇し、C, D-格納容器再循環ユニットのダクト開放機構が開く温度	ダクト開放機構作動温度：110℃																																																																									
対応手段	記載内容	解釈																																																																									
1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の手順等 (3) 代替格納容器スプレー a. 代替格納容器スプレーポンプによる代替格納容器スプレー																																																																											
判断基準	格納容器へスプレーするために必要な燃料取替用水ビット等の水位が確保されている	・燃料取替用水ビット水位： [ ]%以上 ・補助給水ビット水位： [ ]%以上																																																																									

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

女川発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	差異理由																																	
<div data-bbox="405 762 651 815" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">比較対象なし</div>	<p style="text-align: right;">添付資料 1.7.10-(2)</p> <table border="1" data-bbox="967 481 1756 1046"> <tr> <td data-bbox="967 481 1061 544">対応手段</td> <td colspan="2" data-bbox="1061 481 1756 544">1.7.2.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失時の手順等 (1) 格納容器内自然対流冷却 a. 可搬型大型送水ポンプ車を用いた C、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却</td> </tr> <tr> <td data-bbox="967 544 1061 571"></td> <td data-bbox="1061 544 1435 571" style="text-align: center;">記載内容</td> <td data-bbox="1435 544 1756 571" style="text-align: center;">解釈</td> </tr> <tr> <td data-bbox="967 571 1061 624">操作手順 ②</td> <td data-bbox="1061 571 1435 624">可搬型大型送水ポンプ車による C、D-格納容器再循環ユニットへの海水通水のため、原子炉補機冷却水系統の系統構成</td> <td data-bbox="1435 571 1756 624">「2. 操作対象機器一覧（添付資料1.7.10-(6)(7)）」参照</td> </tr> <tr> <td data-bbox="967 624 1061 676">操作手順 ④</td> <td data-bbox="1061 624 1435 676">可搬型ホースを原子炉補機冷却水系統のホース接続口と接続</td> <td data-bbox="1435 624 1756 676">「2. 操作対象機器一覧（添付資料1.7.10-(6)(7)）」参照</td> </tr> <tr> <td data-bbox="967 676 1061 729">操作手順 ⑦</td> <td data-bbox="1061 676 1435 729">水中ポンプを可搬型ホースと接続</td> <td data-bbox="1435 676 1756 729">「2. 操作対象機器一覧（添付資料1.7.10-(6)(7)）」参照</td> </tr> <tr> <td data-bbox="967 729 1061 782">操作手順 ⑧</td> <td data-bbox="1061 729 1435 782">可搬型温度計測装置を取り付け</td> <td data-bbox="1435 729 1756 782">「2. 操作対象機器一覧（添付資料1.7.10-(6)(7)）」参照</td> </tr> <tr> <td data-bbox="967 782 1061 834">操作手順 ⑩</td> <td data-bbox="1061 782 1435 834">可搬型大型送水ポンプ車を起動</td> <td data-bbox="1435 782 1756 834">「2. 操作対象機器一覧（添付資料1.7.10-(6)(7)）」参照</td> </tr> <tr> <td data-bbox="967 834 1061 887">操作手順 ⑫</td> <td data-bbox="1061 834 1435 887">原子炉補機冷却水系統の弁を開操作し、C、D-格納容器再循環ユニットへ海水通水</td> <td data-bbox="1435 834 1756 887">「2. 操作対象機器一覧（添付資料1.7.10-(6)(7)）」参照</td> </tr> <tr> <td data-bbox="967 906 1061 968">対応手段</td> <td colspan="2" data-bbox="1061 906 1756 968">1.7.2.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失時の手順等 (2) 代替格納容器スプレイ a. 代替格納容器スプレイポンプによる代替格納容器スプレイ</td> </tr> <tr> <td data-bbox="967 968 1061 995"></td> <td data-bbox="1061 968 1435 995" style="text-align: center;">記載内容</td> <td data-bbox="1435 968 1756 995" style="text-align: center;">解釈</td> </tr> <tr> <td data-bbox="967 995 1061 1046">切断基準</td> <td data-bbox="1061 995 1435 1046">格納容器へスプレイするための必要な燃料取替用ビット等の水位が確保されている</td> <td data-bbox="1435 995 1756 1046">・燃料取替用ビット水位：<input type="checkbox"/>%以上 ・補助給水ビット水位：<input type="checkbox"/>%以上</td> </tr> </table> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;"> <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 30px; height: 15px; vertical-align: middle;"></span>         枠囲みの内容は機密情報に属しますので公開できません。     </p>	対応手段	1.7.2.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失時の手順等 (1) 格納容器内自然対流冷却 a. 可搬型大型送水ポンプ車を用いた C、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却			記載内容	解釈	操作手順 ②	可搬型大型送水ポンプ車による C、D-格納容器再循環ユニットへの海水通水のため、原子炉補機冷却水系統の系統構成	「2. 操作対象機器一覧（添付資料1.7.10-(6)(7)）」参照	操作手順 ④	可搬型ホースを原子炉補機冷却水系統のホース接続口と接続	「2. 操作対象機器一覧（添付資料1.7.10-(6)(7)）」参照	操作手順 ⑦	水中ポンプを可搬型ホースと接続	「2. 操作対象機器一覧（添付資料1.7.10-(6)(7)）」参照	操作手順 ⑧	可搬型温度計測装置を取り付け	「2. 操作対象機器一覧（添付資料1.7.10-(6)(7)）」参照	操作手順 ⑩	可搬型大型送水ポンプ車を起動	「2. 操作対象機器一覧（添付資料1.7.10-(6)(7)）」参照	操作手順 ⑫	原子炉補機冷却水系統の弁を開操作し、C、D-格納容器再循環ユニットへ海水通水	「2. 操作対象機器一覧（添付資料1.7.10-(6)(7)）」参照	対応手段	1.7.2.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失時の手順等 (2) 代替格納容器スプレイ a. 代替格納容器スプレイポンプによる代替格納容器スプレイ			記載内容	解釈	切断基準	格納容器へスプレイするための必要な燃料取替用ビット等の水位が確保されている	・燃料取替用ビット水位： <input type="checkbox"/> %以上 ・補助給水ビット水位： <input type="checkbox"/> %以上	
対応手段	1.7.2.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失時の手順等 (1) 格納容器内自然対流冷却 a. 可搬型大型送水ポンプ車を用いた C、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却																																		
	記載内容	解釈																																	
操作手順 ②	可搬型大型送水ポンプ車による C、D-格納容器再循環ユニットへの海水通水のため、原子炉補機冷却水系統の系統構成	「2. 操作対象機器一覧（添付資料1.7.10-(6)(7)）」参照																																	
操作手順 ④	可搬型ホースを原子炉補機冷却水系統のホース接続口と接続	「2. 操作対象機器一覧（添付資料1.7.10-(6)(7)）」参照																																	
操作手順 ⑦	水中ポンプを可搬型ホースと接続	「2. 操作対象機器一覧（添付資料1.7.10-(6)(7)）」参照																																	
操作手順 ⑧	可搬型温度計測装置を取り付け	「2. 操作対象機器一覧（添付資料1.7.10-(6)(7)）」参照																																	
操作手順 ⑩	可搬型大型送水ポンプ車を起動	「2. 操作対象機器一覧（添付資料1.7.10-(6)(7)）」参照																																	
操作手順 ⑫	原子炉補機冷却水系統の弁を開操作し、C、D-格納容器再循環ユニットへ海水通水	「2. 操作対象機器一覧（添付資料1.7.10-(6)(7)）」参照																																	
対応手段	1.7.2.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失時の手順等 (2) 代替格納容器スプレイ a. 代替格納容器スプレイポンプによる代替格納容器スプレイ																																		
	記載内容	解釈																																	
切断基準	格納容器へスプレイするための必要な燃料取替用ビット等の水位が確保されている	・燃料取替用ビット水位： <input type="checkbox"/> %以上 ・補助給水ビット水位： <input type="checkbox"/> %以上																																	

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

女川発電所2号炉		
3. 弁番号及び弁名称一覧 (1/2)		
弁番号	弁名称	操作場所
E11-M0-F083	代替循環冷却ポンプバイパス弁	中央制御室
E11-M0-F082	代替循環冷却ポンプ流量調整弁	中央制御室
E11-M0-F080	代替循環冷却ポンプ吸込弁	中央制御室
E11-M0-F010A	R/R A系格納容器スプレイ隔離弁	中央制御室
E11-M0-F004A	R/R A系 LPCI 注入隔離弁	中央制御室
E11-M0-F009A	R/R A系格納容器スプレイ流量調整弁	中央制御室
E11-M0-F003A	R/R 熱交換器 (A) バイパス弁	中央制御室
P13-M0-F070	T/B 緊急時隔離弁	中央制御室
P13-M0-F071	R/B BIF 緊急時隔離弁	中央制御室
P13-M0-F171	R/B IF 緊急時隔離弁	中央制御室
E11-M0-F086	R/R M/WC 連絡第一弁	中央制御室
E11-M0-F087	R/R M/WC 連絡第二弁	中央制御室
E11-M0-F004B	R/R B系 LPCI 注入隔離弁	中央制御室
E11-M0-F002B	R/R B系格納容器冷却ライン洗浄流量調整弁	中央制御室
T48-M0-F020	ベント用 SGTS 開閉弁	中央制御室
T48-M0-F045	格納容器排気 SGTS 個止め弁	中央制御室
T48-M0-F021	ベント用 HVAC 開閉弁	中央制御室
T48-M0-F046	格納容器排気 HVAC 個止め弁	中央制御室
T48-M0-F043	PCV 耐圧強化ベント用連絡配管隔離弁	中央制御室
T48-M0-F044	PCV 耐圧強化ベント用連絡配管止め弁	中央制御室
T63-M0-F001	FCVS ベントライン隔離弁 (A)	中央制御室 遠隔手動弁操作設備：原子炉建屋 地上1階 (原子炉建屋付属棟内)
T63-M0-F002	FCVS ベントライン隔離弁 (B)	中央制御室 遠隔手動弁操作設備：原子炉建屋 地上1階 (原子炉建屋付属棟内)
T48-M0-F022	S/C ベント用出口隔離弁	中央制御室 遠隔手動弁操作設備：原子炉建屋 地下1階 (原子炉建屋付属棟内)
T48-M0-F019	D/W ベント用出口隔離弁	中央制御室 遠隔手動弁操作設備：原子炉建屋 地上1階 (原子炉建屋付属棟内)
T48-M0-F063	S/C 側 PSA 窒素供給ライン第一隔離弁	中央制御室
T48-M0-F011	D/W 補給用窒素ガス供給用第一隔離弁	中央制御室
T63-F042A	フィルタ装置 (A) 補給水ライン弁	原子炉建屋 地上1階 (原子炉建屋付属棟内)
T63-F042B	フィルタ装置 (B) 補給水ライン弁	原子炉建屋 地上1階 (原子炉建屋付属棟内)
T63-F042C	フィルタ装置 (C) 補給水ライン弁	原子炉建屋 地上1階 (原子炉建屋付属棟内)

3. 弁番号及び弁名称一覧 (2/2)		
弁番号	弁名称	操作場所
T63-F045A	フィルタ装置 (A) 屋外側重大事故時給水ライン弁	屋外
T63-F045B	フィルタ装置 (B) 屋外側重大事故時給水ライン弁	屋外
T63-F045C	フィルタ装置 (C) 屋外側重大事故時給水ライン弁	屋外
T63-F051	建屋内事故時給水ライン元弁	原子炉建屋 地上1階 (原子炉建屋付属棟内)
T63-F701	フィルタ装置出口水素濃度計ドレン排出弁	原子炉建屋 地上1階 (原子炉建屋付属棟内)
T63-F702	フィルタ装置出口水素濃度計入口弁	原子炉建屋 地上1階 (原子炉建屋付属棟内)
T63-F703	フィルタ装置出口水素濃度計出口弁	原子炉建屋 地上1階 (原子炉建屋付属棟内)
T48-F055	PSA 窒素供給ライン元弁	原子炉建屋 地上1階 (原子炉建屋付属棟内)
T48-F066	FCVS 側 PSA 窒素供給ライン元弁	原子炉建屋 地上1階 (原子炉建屋付属棟内)
T48-F067	建屋内 PSA 窒素供給ライン元弁	原子炉建屋 地上1階 (原子炉建屋付属棟内)
T63-F035	FCVS PSA 側窒素補給ライン止め弁	中央制御室
T63-M0-F066	FCVS 排水移送ライン第一隔離弁	中央制御室
T63-M0-F065	FCVS 排水移送ライン第二隔離弁	中央制御室
T63-F063	FCVS 排水移送ライン弁	屋外
T63-F004	フィルタ装置出口弁	原子炉建屋 地上2階 (原子炉建屋付属棟内)
T63-F049A	フィルタ装置 (A) 薬液注入ライン弁	屋外
T63-F049B	フィルタ装置 (B) 薬液注入ライン弁	屋外
T63-F049C	フィルタ装置 (C) 薬液注入ライン弁	屋外
T61-M0-F002	PHRS ポンプ填込弁	中央制御室
T61-M0-F004	PHRS 注入第二隔離弁	中央制御室

泊発電所3号炉		差異理由			
2. 操作対象機器一覧					
対応手段	1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の手順等 (1) 格納容器スプレイ a. 格納容器スプレイポンプによる格納容器スプレイ				
添付資料 1.7.10-(3)					
概略系統					
操作対象機器					
操作手順番号	操作内容	操作対象機器	状態の変化	操作場所	備考
②	格納容器スプレイポンプ起動	A-格納容器スプレイポンプ	停止→起動	中央制御室	交流電源
②		B-格納容器スプレイポンプ	停止→起動	中央制御室	交流電源

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

女川発電所2号炉

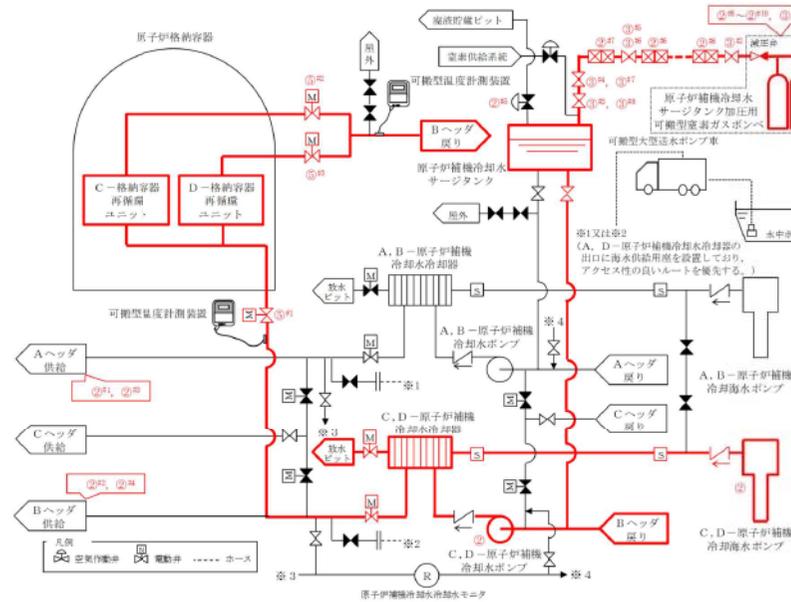
泊発電所3号炉

差異理由

添付資料 1.7.10-(4)

1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の手順等  
 (2) 格納容器内自然対流冷却  
 a. C、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 (1/2)

概略系統



比較対象なし

操作対象機器

操作手順番号	操作内容	操作対象機器	状態の変化	操作場所	備考
②	系統構成	C-原子炉補機冷却海水ポンプ	停止→起動	中央制御室	うち1台使用 交流電源
②		D-原子炉補機冷却海水ポンプ	停止→起動	中央制御室	
②		C-原子炉補機冷却海水ポンプ	停止→起動	中央制御室	うち1台使用 交流電源
②		D-原子炉補機冷却海水ポンプ	停止→起動	中央制御室	
② <sup>21</sup>	A-余熱除去冷却器補機冷却水出口弁	全開確認	中央制御室	交流電源	
② <sup>22</sup>		B-余熱除去冷却器補機冷却水出口弁	全開確認	中央制御室	交流電源
② <sup>23</sup>		A-格納容器スプレッド冷却器補機冷却水出口弁	全開確認	中央制御室	交流電源
② <sup>24</sup>		B-格納容器スプレッド冷却器補機冷却水出口弁	全開確認	中央制御室	交流電源
② <sup>25</sup>	原子炉補機冷却水サージタンク弁	全開確認	中央制御室	直流電源、制御用空気	
② <sup>26</sup>		ホース	ホース接続	原子炉建屋T.P.43.6m	-
② <sup>27</sup>		配管	配管接続	原子炉建屋T.P.43.6m	-
② <sup>28</sup>		原子炉補機冷却水サージタンク加圧用可搬型窒素ガスボンベ入口弁	全開→全閉	原子炉建屋T.P.43.6m	-
② <sup>29</sup>	原子炉補機冷却水サージタンク加圧用窒素供給パネ6入口弁	全開→全閉	原子炉建屋T.P.43.6m	-	
② <sup>30</sup>		全開→全閉	原子炉建屋T.P.43.6m	-	

次頁へつづく

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

女川発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	差異理由																																																																			
<div data-bbox="405 762 651 815" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">比較対象なし</div>	<p style="text-align: right;">添付資料 1.7.10-(5)</p> <table border="1" data-bbox="967 643 1805 956" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td data-bbox="967 643 1093 703">対応手段</td> <td colspan="3" data-bbox="1093 643 1805 703">                     1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の手順等                      (2) 格納容器内自然対流冷却                      a. C、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 (2/2)                 </td> </tr> <tr> <th data-bbox="967 703 1070 719">操作手順番号</th> <th data-bbox="1070 703 1137 719">操作内容</th> <th data-bbox="1137 703 1458 719">操作対象機器</th> <th data-bbox="1458 703 1585 719">状態の変化</th> <th data-bbox="1585 703 1697 719">操作場所</th> <th data-bbox="1697 703 1805 719">備考</th> </tr> <tr> <td data-bbox="967 719 1070 735">①<sup>注</sup></td> <td data-bbox="1070 719 1137 735" rowspan="10" style="text-align: center;">加圧操作</td> <td data-bbox="1137 719 1458 735">原子炉補機冷却水サージタンク加圧用要素供給パネル給圧弁</td> <td data-bbox="1458 719 1585 735">全閉→調整開</td> <td data-bbox="1585 719 1697 735">原子炉建屋1F、E-41.6m</td> <td data-bbox="1697 719 1805 735">—</td> </tr> <tr> <td data-bbox="967 735 1070 751">②<sup>注</sup></td> <td data-bbox="1137 735 1458 751">原子炉補機冷却水サージタンク加圧用要素供給パネル出口弁</td> <td data-bbox="1458 735 1585 751">全閉→全開</td> <td data-bbox="1585 735 1697 751">原子炉建屋1F、E-41.6m</td> <td data-bbox="1697 735 1805 751">—</td> </tr> <tr> <td data-bbox="967 751 1070 767">③<sup>注</sup></td> <td data-bbox="1137 751 1458 767">原子炉補機冷却水サージタンク蒸気溢流口第2止め弁</td> <td data-bbox="1458 751 1585 767">全閉→全開</td> <td data-bbox="1585 751 1697 767">原子炉建屋1F、E-41.6m</td> <td data-bbox="1697 751 1805 767">—</td> </tr> <tr> <td data-bbox="967 767 1070 783">④<sup>注</sup></td> <td data-bbox="1137 767 1458 783">原子炉補機冷却水サージタンク蒸気溢流口第1止め弁</td> <td data-bbox="1458 767 1585 783">全閉→全開</td> <td data-bbox="1585 767 1697 783">原子炉建屋1F、E-41.6m</td> <td data-bbox="1697 767 1805 783">—</td> </tr> <tr> <td data-bbox="967 783 1070 799">⑤<sup>注</sup></td> <td data-bbox="1137 783 1458 799">原子炉補機冷却水サージタンク可搬型圧力付接続用配管要素供給止め弁</td> <td data-bbox="1458 783 1585 799">全閉→調整開</td> <td data-bbox="1585 783 1697 799">原子炉建屋1F、E-41.6m</td> <td data-bbox="1697 783 1805 799">—</td> </tr> <tr> <td data-bbox="967 799 1070 815">⑥<sup>注</sup></td> <td data-bbox="1137 799 1458 815">原子炉補機冷却水サージタンク可搬型圧力付接続用配管要素供給止め弁</td> <td data-bbox="1458 799 1585 815">調整開→全閉</td> <td data-bbox="1585 799 1697 815">原子炉建屋1F、E-41.6m</td> <td data-bbox="1697 799 1805 815">—</td> </tr> <tr> <td data-bbox="967 815 1070 831">⑦<sup>注</sup></td> <td data-bbox="1137 815 1458 831">原子炉補機冷却水サージタンク蒸気溢流口第1止め弁</td> <td data-bbox="1458 815 1585 831">全閉→全閉</td> <td data-bbox="1585 815 1697 831">原子炉建屋1F、E-41.6m</td> <td data-bbox="1697 815 1805 831">—</td> </tr> <tr> <td data-bbox="967 831 1070 847">⑧<sup>注</sup></td> <td data-bbox="1137 831 1458 847">原子炉補機冷却水サージタンク蒸気溢流口第2止め弁</td> <td data-bbox="1458 831 1585 847">全閉→全閉</td> <td data-bbox="1585 831 1697 847">原子炉建屋1F、E-41.6m</td> <td data-bbox="1697 831 1805 847">—</td> </tr> <tr> <td data-bbox="967 847 1070 863">⑨<sup>注</sup></td> <td data-bbox="1137 847 1458 863" rowspan="3" style="text-align: center;">送水操作</td> <td data-bbox="1458 847 1585 863">C、D-C/V再循環ユニット補機冷却水入口C/V外側隔離弁</td> <td data-bbox="1585 847 1697 863">全閉→全開</td> <td data-bbox="1697 847 1805 863">中央制御室</td> <td data-bbox="1805 847 1825 863">交流電源</td> </tr> <tr> <td data-bbox="967 863 1070 879">⑩<sup>注</sup></td> <td data-bbox="1458 863 1585 879">C-C/V再循環ユニット補機冷却水出口C/V外側隔離弁</td> <td data-bbox="1585 863 1697 879">全閉→全開</td> <td data-bbox="1697 863 1805 879">中央制御室</td> <td data-bbox="1805 863 1825 879">交流電源</td> </tr> <tr> <td data-bbox="967 879 1070 895">⑪<sup>注</sup></td> <td data-bbox="1458 879 1585 895">D-C/V再循環ユニット補機冷却水出口C/V外側隔離弁</td> <td data-bbox="1585 879 1697 895">全閉→全開</td> <td data-bbox="1697 879 1805 895">中央制御室</td> <td data-bbox="1805 879 1825 895">交流電源</td> </tr> </table> <p data-bbox="967 930 1805 956"># 1～：同一操作手順番号内に複数の操作又は確認を実施する弁があることを示す。</p>	対応手段	1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の手順等 (2) 格納容器内自然対流冷却 a. C、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 (2/2)			操作手順番号	操作内容	操作対象機器	状態の変化	操作場所	備考	① <sup>注</sup>	加圧操作	原子炉補機冷却水サージタンク加圧用要素供給パネル給圧弁	全閉→調整開	原子炉建屋1F、E-41.6m	—	② <sup>注</sup>	原子炉補機冷却水サージタンク加圧用要素供給パネル出口弁	全閉→全開	原子炉建屋1F、E-41.6m	—	③ <sup>注</sup>	原子炉補機冷却水サージタンク蒸気溢流口第2止め弁	全閉→全開	原子炉建屋1F、E-41.6m	—	④ <sup>注</sup>	原子炉補機冷却水サージタンク蒸気溢流口第1止め弁	全閉→全開	原子炉建屋1F、E-41.6m	—	⑤ <sup>注</sup>	原子炉補機冷却水サージタンク可搬型圧力付接続用配管要素供給止め弁	全閉→調整開	原子炉建屋1F、E-41.6m	—	⑥ <sup>注</sup>	原子炉補機冷却水サージタンク可搬型圧力付接続用配管要素供給止め弁	調整開→全閉	原子炉建屋1F、E-41.6m	—	⑦ <sup>注</sup>	原子炉補機冷却水サージタンク蒸気溢流口第1止め弁	全閉→全閉	原子炉建屋1F、E-41.6m	—	⑧ <sup>注</sup>	原子炉補機冷却水サージタンク蒸気溢流口第2止め弁	全閉→全閉	原子炉建屋1F、E-41.6m	—	⑨ <sup>注</sup>	送水操作	C、D-C/V再循環ユニット補機冷却水入口C/V外側隔離弁	全閉→全開	中央制御室	交流電源	⑩ <sup>注</sup>	C-C/V再循環ユニット補機冷却水出口C/V外側隔離弁	全閉→全開	中央制御室	交流電源	⑪ <sup>注</sup>	D-C/V再循環ユニット補機冷却水出口C/V外側隔離弁	全閉→全開	中央制御室	交流電源	
対応手段	1.7.2.1 交流動力電源及び原子炉補機冷却機能健全時の手順等 (2) 格納容器内自然対流冷却 a. C、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却 (2/2)																																																																				
操作手順番号	操作内容	操作対象機器	状態の変化	操作場所	備考																																																																
① <sup>注</sup>	加圧操作	原子炉補機冷却水サージタンク加圧用要素供給パネル給圧弁	全閉→調整開	原子炉建屋1F、E-41.6m	—																																																																
② <sup>注</sup>		原子炉補機冷却水サージタンク加圧用要素供給パネル出口弁	全閉→全開	原子炉建屋1F、E-41.6m	—																																																																
③ <sup>注</sup>		原子炉補機冷却水サージタンク蒸気溢流口第2止め弁	全閉→全開	原子炉建屋1F、E-41.6m	—																																																																
④ <sup>注</sup>		原子炉補機冷却水サージタンク蒸気溢流口第1止め弁	全閉→全開	原子炉建屋1F、E-41.6m	—																																																																
⑤ <sup>注</sup>		原子炉補機冷却水サージタンク可搬型圧力付接続用配管要素供給止め弁	全閉→調整開	原子炉建屋1F、E-41.6m	—																																																																
⑥ <sup>注</sup>		原子炉補機冷却水サージタンク可搬型圧力付接続用配管要素供給止め弁	調整開→全閉	原子炉建屋1F、E-41.6m	—																																																																
⑦ <sup>注</sup>		原子炉補機冷却水サージタンク蒸気溢流口第1止め弁	全閉→全閉	原子炉建屋1F、E-41.6m	—																																																																
⑧ <sup>注</sup>		原子炉補機冷却水サージタンク蒸気溢流口第2止め弁	全閉→全閉	原子炉建屋1F、E-41.6m	—																																																																
⑨ <sup>注</sup>		送水操作	C、D-C/V再循環ユニット補機冷却水入口C/V外側隔離弁	全閉→全開	中央制御室	交流電源																																																															
⑩ <sup>注</sup>			C-C/V再循環ユニット補機冷却水出口C/V外側隔離弁	全閉→全開	中央制御室	交流電源																																																															
⑪ <sup>注</sup>	D-C/V再循環ユニット補機冷却水出口C/V外側隔離弁		全閉→全開	中央制御室	交流電源																																																																

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

女川発電所 2号炉

泊発電所 3号炉

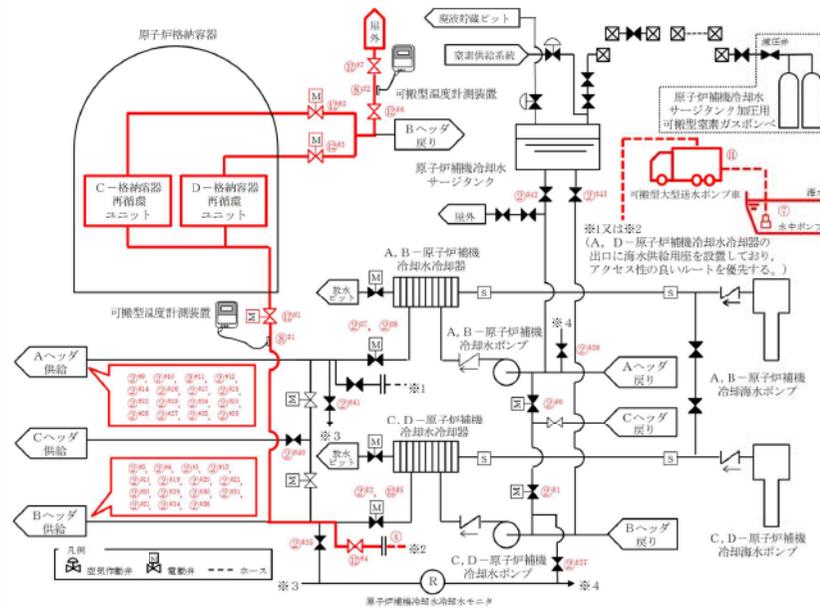
差異理由

比較対象なし

1.7.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失時の手順等  
 (1) 格納容器内自然対流冷却  
 a. 可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却(1/2)

添付資料 1.7.10-(6)

概略系統 (Bトレン接続口使用の場合)



操作対象機器 (Bトレン接続口使用の場合)

操作手順番号	操作内容	操作対象機器	状態の変化	操作場所	備考
①	原子炉補機冷却水取り給管B閉鎖操作		全閉→全閉	中央制御室	交流電源
②	C-原子炉補機冷却水冷却器補機冷却水出口弁		全開→全閉	中央制御室	交流電源
③	B-原子炉補機冷却水冷却器補機冷却水出口弁		全閉確認	中央制御室	交流電源
④	B-格納容器スプレー冷却器補機冷却水出口弁		全開確認	中央制御室	1ヘッダ供給装置
⑤	B-使用済燃料ピット冷却器補機冷却水入口弁		全開確認	中央制御室	交流電源
⑥	原子炉補機冷却水取り給管A閉鎖操作		全閉→全閉	中央制御室	1ヘッダ供給装置
⑦	A-原子炉補機冷却水冷却器補機冷却水出口弁		全開→全閉	中央制御室	交流電源
⑧	B-原子炉補機冷却水冷却器補機冷却水出口弁		全開確認	中央制御室	交流電源
⑨	A-余熱除去冷却器補機冷却水出口弁		全開確認	中央制御室	交流電源
⑩	A-格納容器スプレー冷却器補機冷却水出口弁		全閉確認	中央制御室	1ヘッダ供給装置
⑪	A-使用済燃料ピット冷却器補機冷却水入口弁		全開→全閉	中央制御室	交流電源
⑫	A、B-C/V再循環ユニット補機冷却水入口C/V外置隔離弁		全開→全閉	中央制御室	1ヘッダ供給装置
⑬	格納容器用脱ガスポンプ冷却器補機冷却水入口弁		全開→全閉	原子炉建屋1F、2F、3F	Bヘッダ供給装置

次頁へつづく

赤字：設備、運用又は体制の相違（設計方針の相違）  
 青字：記載箇所又は記載内容の相違（記載方針の相違）  
 緑字：記載表現、設備名称の相違（実質的な相違なし）

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

女川発電所 2号炉	泊発電所 3号炉	差異理由																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
<p style="text-align: center;">比較対象なし</p>	<p style="text-align: right;">添付資料 1.7.10-(7)</p>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	<p>1.7.2.2 全交流動力電源又は原子炉補機冷却機能喪失時の手順等                      (1) 格納容器内自然対流冷却                      a. 可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却(2/2)</p> <table border="1" data-bbox="974 518 1803 1157"> <thead> <tr> <th>操作手順番号</th> <th>操作内容</th> <th>機台設置機台</th> <th>状態の変化</th> <th>備考</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁</td> <td>全閉→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>B-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>B-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(ラジアン側)切替弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>B-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(ラジアン側)切替弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>B-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(ラジアン側)切替弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>⑦</td> <td>B-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(ラジアン側)切替弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>⑧</td> <td>C-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>⑨</td> <td>D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>⑩</td> <td>A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>⑪</td> <td>B-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>⑫</td> <td>A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>⑬</td> <td>A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>⑭</td> <td>A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>⑮</td> <td>A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>⑯</td> <td>A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>⑰</td> <td>A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>⑱</td> <td>A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>⑲</td> <td>A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>⑳</td> <td>A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>㉑</td> <td>A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>㉒</td> <td>A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>㉓</td> <td>A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>㉔</td> <td>A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>㉕</td> <td>A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>㉖</td> <td>A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>㉗</td> <td>A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>㉘</td> <td>A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>㉙</td> <td>A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>㉚</td> <td>A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>㉛</td> <td>A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>㉜</td> <td>A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>㉝</td> <td>A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>㉞</td> <td>A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>㉟</td> <td>A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁</td> <td>全開→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>原子炉補機冷却水</td> </tr> <tr> <td>㊱</td> <td>原子炉補機冷却水系統のエアロック閉鎖</td> <td>ホース</td> <td>ホース閉鎖</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>㊲</td> <td>水中ポンプとホース接続</td> <td>ホース</td> <td>ホース接続</td> <td>機内</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>㊳</td> <td>可搬型大型送水ポンプ車設置</td> <td>可搬型大型送水ポンプ車</td> <td>取付け</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>㊴</td> <td>可搬型大型送水ポンプ車起動</td> <td>可搬型大型送水ポンプ車</td> <td>取付け</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>㊵</td> <td>可搬型大型送水ポンプ車起動</td> <td>可搬型大型送水ポンプ車</td> <td>停止→起動</td> <td>機内</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>㊶</td> <td>C、D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(C/V)外部隔離弁</td> <td>全開→全開</td> <td>停止→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>㊷</td> <td>C、D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(C/V)外部隔離弁</td> <td>全開→全開</td> <td>停止→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>㊸</td> <td>C、D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(C/V)外部隔離弁</td> <td>全開→全開</td> <td>停止→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>㊹</td> <td>C、D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(C/V)外部隔離弁</td> <td>全開→全開</td> <td>停止→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>㊺</td> <td>C、D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(C/V)外部隔離弁</td> <td>全開→全開</td> <td>停止→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>㊻</td> <td>C、D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(C/V)外部隔離弁</td> <td>全開→全開</td> <td>停止→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>㊼</td> <td>C、D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(C/V)外部隔離弁</td> <td>全開→全開</td> <td>停止→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>㊽</td> <td>C、D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(C/V)外部隔離弁</td> <td>全開→全開</td> <td>停止→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>㊾</td> <td>C、D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(C/V)外部隔離弁</td> <td>全開→全開</td> <td>停止→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>㊿</td> <td>C、D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(C/V)外部隔離弁</td> <td>全開→全開</td> <td>停止→全開</td> <td>原子炉補機冷却水</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	操作手順番号	操作内容	機台設置機台	状態の変化	備考	備考	①	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全閉→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	②	B-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	③	B-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(ラジアン側)切替弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	④	B-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(ラジアン側)切替弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	⑤	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	⑥	B-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(ラジアン側)切替弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	⑦	B-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(ラジアン側)切替弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	⑧	C-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	⑨	D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	⑩	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	⑪	B-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	⑫	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	⑬	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	⑭	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	⑮	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	⑯	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	⑰	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	⑱	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	⑲	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	⑳	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	㉑	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	㉒	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	㉓	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	㉔	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	㉕	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	㉖	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	㉗	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	㉘	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	㉙	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	㉚	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	㉛	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	㉜	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	㉝	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	㉞	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	㉟	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	㊱	原子炉補機冷却水系統のエアロック閉鎖	ホース	ホース閉鎖	原子炉補機冷却水	—	㊲	水中ポンプとホース接続	ホース	ホース接続	機内	—	㊳	可搬型大型送水ポンプ車設置	可搬型大型送水ポンプ車	取付け	原子炉補機冷却水	—	㊴	可搬型大型送水ポンプ車起動	可搬型大型送水ポンプ車	取付け	原子炉補機冷却水	—	㊵	可搬型大型送水ポンプ車起動	可搬型大型送水ポンプ車	停止→起動	機内	—	㊶	C、D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(C/V)外部隔離弁	全開→全開	停止→全開	原子炉補機冷却水	—	㊷	C、D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(C/V)外部隔離弁	全開→全開	停止→全開	原子炉補機冷却水	—	㊸	C、D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(C/V)外部隔離弁	全開→全開	停止→全開	原子炉補機冷却水	—	㊹	C、D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(C/V)外部隔離弁	全開→全開	停止→全開	原子炉補機冷却水	—	㊺	C、D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(C/V)外部隔離弁	全開→全開	停止→全開	原子炉補機冷却水	—	㊻	C、D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(C/V)外部隔離弁	全開→全開	停止→全開	原子炉補機冷却水	—	㊼	C、D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(C/V)外部隔離弁	全開→全開	停止→全開	原子炉補機冷却水	—	㊽	C、D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(C/V)外部隔離弁	全開→全開	停止→全開	原子炉補機冷却水	—	㊾	C、D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(C/V)外部隔離弁	全開→全開	停止→全開	原子炉補機冷却水	—	㊿	C、D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(C/V)外部隔離弁	全開→全開	停止→全開	原子炉補機冷却水	—
操作手順番号	操作内容	機台設置機台	状態の変化	備考	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
①	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全閉→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
②	B-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
③	B-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(ラジアン側)切替弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
④	B-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(ラジアン側)切替弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
⑤	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
⑥	B-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(ラジアン側)切替弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
⑦	B-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(ラジアン側)切替弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
⑧	C-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
⑨	D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
⑩	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
⑪	B-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
⑫	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
⑬	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
⑭	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
⑮	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
⑯	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
⑰	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
⑱	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
⑲	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
⑳	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
㉑	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
㉒	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
㉓	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
㉔	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
㉕	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
㉖	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
㉗	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
㉘	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
㉙	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
㉚	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
㉛	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
㉜	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
㉝	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
㉞	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
㉟	A-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁	全開→全開	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水	原子炉補機冷却水																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
㊱	原子炉補機冷却水系統のエアロック閉鎖	ホース	ホース閉鎖	原子炉補機冷却水	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
㊲	水中ポンプとホース接続	ホース	ホース接続	機内	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
㊳	可搬型大型送水ポンプ車設置	可搬型大型送水ポンプ車	取付け	原子炉補機冷却水	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
㊴	可搬型大型送水ポンプ車起動	可搬型大型送水ポンプ車	取付け	原子炉補機冷却水	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
㊵	可搬型大型送水ポンプ車起動	可搬型大型送水ポンプ車	停止→起動	機内	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
㊶	C、D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(C/V)外部隔離弁	全開→全開	停止→全開	原子炉補機冷却水	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
㊷	C、D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(C/V)外部隔離弁	全開→全開	停止→全開	原子炉補機冷却水	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
㊸	C、D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(C/V)外部隔離弁	全開→全開	停止→全開	原子炉補機冷却水	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
㊹	C、D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(C/V)外部隔離弁	全開→全開	停止→全開	原子炉補機冷却水	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
㊺	C、D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(C/V)外部隔離弁	全開→全開	停止→全開	原子炉補機冷却水	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
㊻	C、D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(C/V)外部隔離弁	全開→全開	停止→全開	原子炉補機冷却水	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
㊼	C、D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(C/V)外部隔離弁	全開→全開	停止→全開	原子炉補機冷却水	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
㊽	C、D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(C/V)外部隔離弁	全開→全開	停止→全開	原子炉補機冷却水	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
㊾	C、D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(C/V)外部隔離弁	全開→全開	停止→全開	原子炉補機冷却水	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
㊿	C、D-ラジアン冷却器補機冷却水出入口弁(C/V)外部隔離弁	全開→全開	停止→全開	原子炉補機冷却水	—																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	<p>#1～：同一操作手順番号内に複数の操作又は確認を実施する弁があることを示す。</p>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		

## 泊発電所3号炉 審査取りまとめ資料 比較対象プラントの選定について

本資料は、泊発電所3号炉（以降、「泊3号炉」という。）のプラント側審査において地震・津波側審査の進捗を待つ期間があったことを踏まえた、審査取りまとめ資料（以降、「まとめ資料」という。）の比較対象プラントの選定について整理を行うものである。

- 整理を行う経緯は、以下の通り
  - 泊3号炉のプラント側審査が地震・津波側審査の進捗待ちとなった期間において、他社プラントの新規制基準適合性審査が実施され、まとめ資料の充実が図られた。
  - 泊3号炉が、まとめ資料一式を提出した2017年3月時点での新規制基準適合性審査はPWRプラントが中心であったが、現在はBWRプラントが中心となっており、それぞれの炉型の審査結果が積み上がった状況にある。
  - 泊3号炉はPWRであり、PWR特有の設備等を有することから、まとめ資料に先行の審査内容を反映する際には、単純に直近の許可済みBWRプラントを反映するのではなく、適切な比較対象プラントを選定した上で反映する必要がある。

- 比較対象プラントを選定する考え方は、以下の通り。

### 【基準適合に係る設計を反映するために比較するプラント（基本となる比較対象プラント）選定の考え方】

各条文・審査項目の要求を満たすための設備構成・仕様、環境、運用を踏まえ、許可済みプラントの中から、新しい実績のプラントを選定する。具体的には以下の通り。

- ✓ 炉型に拠らず共通的な内容については、泊3号炉の地震・津波側審査が進捗した時点（2021年7月）で直近に許可済みであった女川2号炉を比較対象として先行審査知見の取り込みを行う。なお、同時期に審査が行われ、女川2号炉に次いで許可を受けた島根2号炉については、女川2号炉と島根2号炉の差異を確認し、島根2号炉との差異の中で泊3号炉の基準適合を示すために必要なものは反映する。
- ✓ 炉型固有の設備等を有する場合については、PWRプラントの新規制基準適合性審査の最終実績である大飯3/4号炉を選定する。
- ✓ 個別の設計事項に相似性がある場合（例えば3ループ特有の設計等）、大飯3/4号炉以外の適切なプラントを選定する。

### 【先行審査知見<sup>\*1</sup>を反映するために比較するプラント選定の考え方】

炉型に拠らないことから、まとめ資料を作成している時点で最新の許可済みプラントとする。具体的には以下の通り。

- ✓ 泊3号炉の地震・津波側審査が進捗した時点（2021年7月）で直近に許可済みであった女川2号炉を比較対象として先行審査知見の取り込みを行う。なお、同時期に

審査が行われ、女川 2 号炉に次いで許可を受けた島根 2 号炉については、女川 2 号炉と島根 2 号炉の差異を確認し、島根 2 号炉との差異の中で泊 3 号炉の基準適合を示すために必要なものは反映する。

※ 1 主な事項は、以下の通り

- ✓ これまでの審査の中で適正化された記載
- ✓ 基準適合性を示すための説明の範囲、深さ
- ✓ 設置（変更）許可申請書に記載する範囲、深さ

- 上述に基づく検討結果として、「基準適合に係る設計」と「先行審査知見」を反映するために選定した比較対象プラント一覧とその選定理由を別紙 1 に、条文・審査項目毎の詳細を別紙 2 に示す。
  - 別紙 1：比較対象プラント一覧
  - 別紙 2：比較対象プラント選定の詳細

以上

### 比較対象プラント一覧

凡例		
●大飯3/4号炉	●女川2号炉	●それ以外の場合

主な審査項目	ステータス	基準適合に係る設計を反映するための比較		先行審査知見を反映するための比較対象	比較表の様式
		比較対象	選定理由		
1.0 43条 共通 (1.0.2 (保管アクセス) 以外)	概ね説明済み	大飯3/4号炉	4.4条以降のSA設備の多くがPWRプラント設計を踏まえたものであるため	女川2号炉	女川一泊一大阪
		大飯3/4号炉	重大事故等への対応に用いる具体的な手順の類似	女川2号炉	女川一泊一大阪
1.1 44条 ATWS	概ね説明済み	大飯3/4号炉	当該SAへの対応はPWR固有のプラント設計に基づくものであるため	女川2号炉	女川一泊一大阪
		大飯3/4号炉	当該SAへの対応はPWR固有のプラント設計に基づくものであるため	女川2号炉	女川一泊一大阪
1.2 45条 高圧時冷却	概ね説明済み	大飯3/4号炉	当該SAへの対応はPWR固有のプラント設計に基づくものであるため	女川2号炉	女川一泊一大阪
		大飯3/4号炉	当該SAへの対応はPWR固有のプラント設計に基づくものであるため	女川2号炉	女川一泊一大阪
1.3 46条 減圧	概ね説明済み	大飯3/4号炉	当該SAへの対応はPWR固有のプラント設計に基づくものであるため	女川2号炉	女川一泊一大阪
		大飯3/4号炉	当該SAへの対応はPWR固有のプラント設計に基づくものであるため	女川2号炉	女川一泊一大阪
1.4 47条 低圧時冷却	概ね説明済み	大飯3/4号炉	当該SAへの対応はPWR固有のプラント設計に基づくものであるため	女川2号炉	女川一泊一大阪
		大飯3/4号炉	当該SAへの対応はPWR固有のプラント設計に基づくものであるため	女川2号炉	女川一泊一大阪
1.5 48条 最終ヒートシンク	概ね説明済み	大飯3/4号炉	当該SAへの対応はPWR固有のプラント設計に基づくものであるため	女川2号炉	女川一泊一大阪
		大飯3/4号炉	当該SAへの対応はPWR固有のプラント設計に基づくものであるため	女川2号炉	女川一泊一大阪
1.6 49条 CV冷却	概ね説明済み	大飯3/4号炉	当該SAへの対応はPWR固有のプラント設計に基づくものであるため	女川2号炉	女川一泊一大阪
		大飯3/4号炉	当該SAへの対応はPWR固有のプラント設計に基づくものであるため	女川2号炉	女川一泊一大阪
1.7 50条 CV過圧破損防止	概ね説明済み	大飯3/4号炉	当該SAへの対応はPWR固有のプラント設計に基づくものであるため	女川2号炉	女川一泊一大阪
		大飯3/4号炉	当該SAへの対応はPWR固有のプラント設計に基づくものであるため	女川2号炉	女川一泊一大阪

プ  
ラ  
ン  
ト  
A

### 比較対象プラント一覧

凡例		
●大飯3/4号炉	●女川2号炉	●それ以外の場合

主な審査項目	ステータス	基準適合に係る設計を反映するための比較		先行審査知見を反映するための比較対象	比較表の様式		
		比較対象	選定理由				
設備・技術的能力 S A プ ラ ン ト	1.8 51条	CV下部注水	概ね説明済み	大飯3/4号炉	当該SAへの対応はPWR固有のプラント設計に基づくものであるため	女川2号炉	女川一泊一大飯
				大飯3/4号炉	当該SAへの対応はPWR固有のプラント設計に基づくものであるため	女川2号炉	女川一泊一大飯
	1.9 52条	CV水素対策	概ね説明済み	大飯3/4号炉	当該SAへの対応はPWR固有のプラント設計に基づくものであるため	女川2号炉	女川一泊一大飯
				大飯3/4号炉	当該SAへの対応はPWR固有のプラント設計に基づくものであるため	女川2号炉	女川一泊一大飯
	1.10 53条	RB水素対策	概ね説明済み	大飯3/4号炉 伊方3号炉	当該SAへの対応はPWR固有のプラント設計に基づくものであるため	女川2号炉	53条 女川一泊一大飯-伊方
				大飯3/4号炉	当該SAへの対応はPWR固有のプラント設計に基づくものであるため	女川2号炉	女川一泊一大飯
	1.11 54条	SFP	概ね説明済み	大飯3/4号炉	SFP配置がBWRと異なるため	女川2号炉	女川一泊一大飯
				大飯3/4号炉	SFP配置の類似	女川2号炉	女川一泊一大飯
	1.12 55条	放射性物質の拡散抑制	概ね説明済み	大飯3/4号炉	SFP配置の類似	女川2号炉	女川一泊一大飯
				大飯3/4号炉	SFP配置の類似	女川2号炉	女川一泊一大飯
	1.13 56条	水源	概ね説明済み	大飯3/4号炉	当該SAへの対応はPWR固有のプラント設計に基づくものであるため	女川2号炉	女川一泊一大飯
				大飯3/4号炉	当該SAへの対応はPWR固有のプラント設計に基づくものであるため	女川2号炉	女川一泊一大飯
1.14 57条	電源	概ね説明済み	大飯3/4号炉	電源設備構成の類似	女川2号炉	女川一泊一大飯	
			大飯3/4号炉	電源設備構成の類似	女川2号炉	女川一泊一大飯	
1.15 58条	計装	概ね説明済み	大飯3/4号炉	監視パラメータの類似	女川2号炉	女川一泊一大飯	
			大飯3/4号炉 伊方3号炉	監視パラメータの類似	女川2号炉	女川一泊一大飯-伊方	

### 比較対象プラント一覧

凡例		
●大飯3/4号炉	●女川2号炉	●それ以外の場合

主な審査項目	ステータス	基準適合に係る設計を反映するための比較		先行審査知見を反映するための比較対象	比較表の様式
		比較対象	選定理由		
1.16 59条 原子炉制御室	概ね説明済み (原子炉制御室の居住性を確保するための対策はバックフィットのため新規説明)	女川2号炉 大飯3/4号炉	原子炉施設に共通の要求に係る条文であるため女川2号炉をリファレンスとする 事故シナシエンス選定等PWR固有設計に係る事項については大飯3/4号炉をリファレンスとする	女川2号炉	女川-泊-大飯
		大飯3/4号炉	当該SAへの対応はPWR固有のプラント設計に基づくものであるため	女川2号炉	女川-泊-大飯
1.17 60条 監視測定	概ね説明済み	女川2号炉	原子炉施設に共通の要求に係る条文であるため	女川2号炉	女川-泊-大飯
		女川2号炉	原子炉施設に共通の要求に係る条文であるため	女川2号炉	女川-泊-大飯
1.18 61条 緊急時対策所	概ね説明済み	大飯3/4号炉	可搬型設備の設計方針や格納容器ベント設備の有無などPWR固有の設計	女川2号炉	女川-泊-大飯
		大飯3/4号炉	可搬型設備の設計方針や格納容器ベント設備の有無などPWR固有の設計	女川2号炉	女川-泊-大飯

## 比較対象プラント選定の詳細（技術的能力）

## 【1.7 : CV 過圧破損防止】

項目		内容
基準適合に係る設計を 反映するために 比較するプラント	プラント名	大飯 3 / 4 号炉
	具体的理由	当該条文における重大事故等への対応に用いる格納容器内自然対流冷却手段の活用による対応等については PWR 固有の設計に基づくものであり、重大事故等への対応設備・手段が大きく異なるため、PWR プラントとしての基準への適合性を網羅的に比較する観点から大飯 3 / 4 号炉を選定する。
先行審査知見を 反映するために 比較するプラント	プラント名	女川 2 号炉
	反映すべき知見を得るための主な方法  (当該方法の選定理由)	① 資料構成の比較※：当該条文のまとめ資料の構成について比較・整理を行い、その結果、必要と判断した資料を追加することとした。 [事例] 添付資料（手順着手の判断基準、操作手順の解釈など）  ① 重大事故等への対応設備・手段が大きく異なるため、資料の記載内容も異なるが、資料構成の比較・整理により基準適合の説明のために必要な資料の充足性を確認することが可能なため。

※ 女川 2 号炉との資料構成の比較に加え、PWR の先行審査実績の取り込みの総括として、大飯 3 / 4 号炉のまとめ資料の作成状況（資料構成と内容）を条文・審査項目毎に確認し、基準適合性の網羅的な説明に必要な資料が揃っていることを確認する。

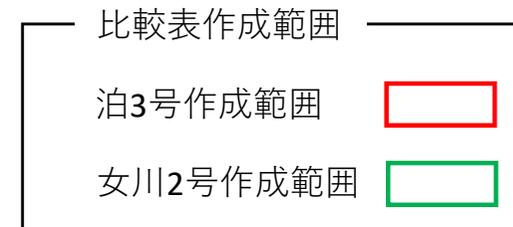
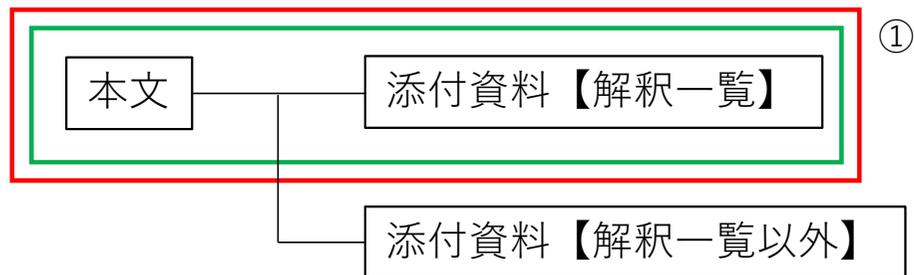
【凡例】 ○：記載あり  
 ×：記載なし  
 (○)：本条文的資料の他箇所に記載  
 △：他条文的資料などに記載

1.7 原子炉格納容器の過圧破損を防止するための手順等

プラント		泊3号炉 作成状況		まとめ資料の作成を不要とした理由	まとめ資料または比較表を新たに作成することとした理由 もしくは 記載の充実を図ることとした理由	比較表を作成していない理由
女川	泊	まとめ資料	比較表			
本文	本文	○	○			
添付資料	添付資料	○	○			
添付資料1.7.1 審査基準、基準規則と対処設備との対応表	添付資料1.7.2 審査基準、基準規則と対処設備との対応表	○	×			
添付資料1.7.2 対応手段として選定した設備の電源構成図	添付資料1.7.1 重大事故等対処設備の電源構成図	○	×			
添付資料1.7.3 重大事故等対策の成立性	添付資料1.7.4 C、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却	○	×			基準適合性を確認するために必要な評価方針は、本文に記載されており比較表を作成し考察しているため、比較表を作成していない。
1.原子炉格納容器フィルタベント系による原子炉格納容器内の減圧及び除熱(現場操作)	添付資料1.7.5 原子炉補機冷却水サージタンク加圧について					
2.原子炉格納容器フィルタベント系フィルタ装置への水補給 3.可搬型窒素ガス供給装置による原子炉格納容器への窒素供給	添付資料1.7.6 可搬型大型送水ポンプ車を用いたC、D-格納容器再循環ユニットによる格納容器内自然対流冷却					
添付資料1.7.4 「雰囲気圧力・温度による静的負荷(格納容器減圧・過温破損)」及び「高圧溶融物放出/格納容器雰囲気直接加熱」における代替循環冷却系への切替え操作について		×	×	プラント固有の条件を踏まえた設備設計であるため作成不要。		まとめ資料を作成していない
添付資料1.7.5 原子炉格納容器ベント実施判断について		×	×	プラント固有の条件を踏まえた設備設計であるため作成不要。		
添付資料1.7.6 外部水源注水量の管理方法について	添付資料1.7.9 炉心損傷時におけるC/V破損防止等操作について	○	×			基準適合性を確認するために必要な評価方針は、本文に記載されており比較表を作成し考察しているため、比較表を作成していない。
添付資料1.7.7 解釈一覧	添付資料1.7.10 解釈一覧 1.「手順着手の判断基準」および「操作手順」解釈一覧 2.操作対象機器一覧	×→○	×→○		当該資料に整理している手順着手判断基準に係るパラメータの設定値や、操作手順に係るパラメータの調整値、操作する弁の名称等については、設工認及び保安規定における審査にて説明することとしていたが、更なる説明性の向上を目的として、今後作成する。	
添付資料1.7.8 フォールトツリー解析の実施の考え方について		×	×	FT図を作成していない条文については、DB設備の機能喪失を想定してSA設備を抽出するのではなく、基準に適合する手段を選定しているため、FT図不要としている。		基準適合性を確認するために必要な評価方針は、本文に記載されており比較表を作成し考察しているため、比較表を作成していない。
	添付資料1.7.3 多様性拡張設備仕様	○	×			
	添付資料1.7.7 重大事故に係る屋外作業員に対する被ばく評価について	○	×			
	添付資料1.7.8 原子炉格納容器内冷却状況の原子炉格納容器外温度計での確認について	○	×			

# 泊3号炉 「比較表」の作成範囲

技術的能力1.1～1.19



※ ( ) 書きは泊と女川で資料名が異なる場合の女川の資料名称  
破線の四角は泊になく、女川にしかない資料

① 添付資料の解釈一覧については、泊では元々作成していなかったが新規にまとめ資料を作成し比較を実施する。

資料構成	資料概要	まとめ資料・比較表を作成していない理由
本文	設置変更許可申請書本文及び添付書類十に記載する内容を記載した資料	
添付資料【解釈一覧以外】	評価方針に基づき実施した評価結果等ととりまとめた資料	基準適合性を確認するために必要な評価方針は、本文に記載されており比較表を作成し考察しているため、比較表を作成していない。
添付資料【解釈一覧】	判断基準の解釈一覧、操作手順の解釈一覧等を記載した資料 (逐条により記載項目は異なり、記載がない逐条もある)	